

第 14 回キャリア教育
優良教育委員会、学校及び P T A 団体等
文部科学大臣表彰

令和 4 年 1 月 25 日（火）

文部科学省

第 1 4 回 キャリア教育優良教育委員会、学校及び P T A 団体等の取組内容（推薦理由）

— 目 次 —

＜北海道＞	世田谷区立尾山台小学校・・・・・・・・・・ 2 1
北海道白老東高等学校・・・・・・・・・・ 1	稲城市立南山小学校・・・・・・・・・・ 2 1
＜青森県＞	東京都立瑞穂農芸高等学校・・・・・・・・・・ 2 2
青森県立青森高等学校・・・・・・・・・・ 1	＜神奈川県＞
青森県立三本木農業高等学校・三本木農業恵拓高等学校・・ 3	神奈川県立平塚工科高等学校・・・・・・・・・・ 2 2
青森県立五所川原工業高等学校・五所川原工科高等学校・・ 4	＜新潟県＞
＜岩手県＞	糸魚川市教育委員会・・・・・・・・・・ 2 3
遠野市教育委員会・・・・・・・・・・ 5	上越市立高士小学校・・・・・・・・・・ 2 3
宮古市立赤前小学校・・・・・・・・・・ 7	長岡市立小国中学校・・・・・・・・・・ 2 4
＜宮城県＞	新潟県立阿賀野高等学校・・・・・・・・・・ 2 5
気仙沼市教育委員会・・・・・・・・・・ 7	＜富山県＞
宮城県仙台南高等学校・・・・・・・・・・ 8	南砺市立井波小学校・・・・・・・・・・ 2 5
＜秋田県＞	滑川市立早月中学校・・・・・・・・・・ 2 6
横手市教育委員会・・・・・・・・・・ 9	富山県立南砺福野高等学校・・・・・・・・・・ 2 6
潟上市立天王中学校・・・・・・・・・・ 9	富山大学人間発達科学部附属中学校 P T A・・ 2 7
秋田県立秋田西高等学校・・・・・・・・・・ 1 0	＜石川県＞
秋田県立栗田支援学校・・・・・・・・・・ 1 1	羽咋市教育委員会・・・・・・・・・・ 2 8
＜山形県＞	石川県立七尾東雲高等学校・・・・・・・・・・ 2 8
山形県村山市立大久保小学校・・・・・・・・・・ 1 1	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校・ 2 9
山形県立新庄南高等学校金山校・・・・・・・・・・ 1 2	＜福井県＞
＜福島県＞	小浜市立小浜第二中学校・・・・・・・・・・ 2 9
会津若松市立第二中学校・・・・・・・・・・ 1 2	福井県立高志中学校・・・・・・・・・・ 3 0
福島県立勿来工業高等学校・・・・・・・・・・ 1 3	福井県立福井南特別支援学校・・・・・・・・・・ 3 0
福島県立会津支援学校・・・・・・・・・・ 1 4	福井市円山小学校 P T A・・・・・・・・・・ 3 1
＜茨城県＞	＜山梨県＞
土浦市教育委員会・・・・・・・・・・ 1 4	山梨県立白根高等学校・・・・・・・・・・ 3 1
大子町立依上小学校・・・・・・・・・・ 1 5	＜長野県＞
茨城県立茨城東高等学校・・・・・・・・・・ 1 5	長野県塩尻志学館高等学校・・・・・・・・・・ 3 2
＜栃木県＞	＜岐阜県＞
益子町立七井中学校・・・・・・・・・・ 1 6	関市立小金田中学校・・・・・・・・・・ 3 3
栃木県立那須清峰高等学校・・・・・・・・・・ 1 6	＜静岡県＞
＜群馬県＞	浜松市教育委員会・・・・・・・・・・ 3 3
前橋市立第七中学校・・・・・・・・・・ 1 7	掛川市立東中学校・・・・・・・・・・ 3 4
安中市立第二中学校・・・・・・・・・・ 1 7	静岡県立袋井商業高等学校・・・・・・・・・・ 3 5
群馬県立高崎高等学校・・・・・・・・・・ 1 8	浜松開誠館中学校・高等学校・・・・・・・・・・ 3 5
＜千葉県＞	＜愛知県＞
千葉県立泉高等学校・・・・・・・・・・ 1 8	豊田市教育委員会・・・・・・・・・・ 3 6
千葉県立大原高等学校・・・・・・・・・・ 1 9	一宮市立富士小学校・・・・・・・・・・ 3 7
千葉県立姉崎高等学校・・・・・・・・・・ 2 0	豊田市立竜神中学校・・・・・・・・・・ 3 7
＜東京都＞	＜三重県＞
足立区教育委員会・・・・・・・・・・ 2 0	四日市市立保々中学校・・・・・・・・・・ 3 8

三重県立明野高等学校	39	春日小学校おやじの会	61
三重県立あけぼの学園高等学校	40	<佐賀県>	
<滋賀県>		有田町立有田中学校	61
草津市立渋川小学校	41	佐賀県立小城高等学校	62
滋賀県立甲南高等学校	41	<長崎県>	
おうみ未来塾「仕事人と語ろう!」グループ	42	長崎県立諫早高等学校	63
<京都府>		長崎県立老岐商業高等学校	63
相楽東部広域連立和束小学校	42	長崎県立長崎鶴洋高等学校	64
京都府立須知高等学校	43	東彼商工会青年部東彼杵支部	65
<兵庫県>		<熊本県>	
兵庫県立錦城高等学校	44	大津町立大津中学校	65
雲雀丘学園中学校・高等学校	45	熊本県立天草工業高等学校	66
兵庫県立西神戸高等特別支援学校	46	熊本県立ひのくに高等支援学校	66
<奈良県>		水俣市立水俣第一小学校教育友会	67
奈良県立十津川高等学校	46	<宮崎県>	
奈良県立奈良西養護学校	47	都農町教育委員会	68
<鳥取県>		綾町立綾中学校	68
鳥取県立鳥取中央育英高等学校	47	高鍋町立高鍋西中学校	69
<島根県>		小林市キャリア教育支援センター	70
浜田市教育委員会	48	<鹿児島県>	
<岡山県>		南九州市立大丸小学校	70
井原市立井原中学校	48	西之表市立種子島中学校	71
岡山県立笠岡高等学校	49	鹿児島県立奄美高等学校	71
岡山県立高梁城南高等学校	50	指宿市立指宿商業高等学校PTA	72
<広島県>		<沖縄県>	
竹原市立賀茂川中学校	50	伊江村教育委員会	73
広島県立広島商業高等学校	51	宜野座村立松田小学校	73
府中市立府中明郷学園	52	<仙台市>	
<山口県>		仙台市立通町小学校	74
山口県立田布施農工高等学校	53	仙台市立秋保中学校	75
<徳島県>		<川崎市>	
上板町立高志小学校	55	川崎市立南生田中学校	75
徳島県立那賀高等学校	55	川崎市立幸高等学校	76
<香川県>		<浜松市>	
香川県立三木高等学校	56	浜松市立三方原小学校	76
<愛媛県>		<大阪市>	
八幡浜市立八代中学校	56	大阪市立西高等学校	77
愛媛県立上浮穴高等学校	57	<岡山市>	
川之江先輩塾(愛媛県立川之江高等学校教育支援団体)	57	岡山市立竜操中学校	78
<高知県>		<熊本市>	
高知県立禰原高等学校	58	熊本市立城西小学校	79
<福岡県>		熊本市立北部中学校	79
飯塚市立幸袋中学校	59		
福岡県立福岡農業高等学校	60		

 <北海道> (種別：学校) 北海道白老東高等学校

 推薦理由

本校は、平成19年度から「総合的な学習の時間」(総合的な探究の時間)でアイヌ文化体験学習を実施するなど、伝統文化教育を推進している。平成30年度から令和2年度の3年間、北海道教育委員会「北海道ふるさと・みらい創生推進事業『高等学校 OPEN プロジェクト』」の指定を受け、アイヌ民族の自然観・歴史・文化について学習し、地域へその成果を還元することを目的とした学校設定科目「地域学」を開設し、地域の人材及び関係機関等と連携して学習内容や評価方法を検討するなど、組織的・体系的なキャリア教育に取り組んでいる。令和3年度からは、北海道教育委員会「地域協働活動推進実証事業『北海道 CLASS プロジェクト』」の指定を受け、地学協働事業コンソーシアムを設立し、地域の教育資源を活用した主体的に学ぶ学習活動を推進し、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、基盤となる資質・能力を育成するため、教育活動の一層の改善・充実に取り組んでいる。

○ 総合的な学習の時間(総合的な探究の時間)における取組

- ・平成19年度からアイヌ文化体験学習等を実施
- ・アイヌ民族文化財団の学芸員による講話、アイヌ文化体験学習等の実施
- ・アイヌ文化に関する生徒の興味・関心及び意識の変容
- ・白老仙台藩元陣屋資料館で学芸員による講話、見学による郷土学習の実施

○ 学校設定科目「地域学」における取組

- ・平成30年度から第3学年を対象とし、2単位の学校設定科目として開設
- ・白老アイヌ協会や一般社団法人白老モシリ等と連携し、ムックリ製作やアイヌ文様刺繍等の実習
- ・「イランカラプテ音楽祭 in 白老」で、町内の小学生と合同でアイヌの古式舞踊を披露
- ・「民族共生象徴空間ウポポイ」を取材し、アイヌ文化の紹介をテーマにした動画を制作
- ・ルーブリック評価を用いた学習内容の自己評価及び相互評価の実施
- ・白老町教育委員会及びアイヌ総合政策課(現アイヌ政策室)等との定期的な協議により、地域で育てる生徒像の共有化を実施

○ 地学協働事業コンソーシアムの設立

- ・令和3年度から地域コーディネーターを配置し、研究機関及び行政機関企業・経済団体・NPO等と連携した地域課題探究型のキャリア教育の推進
-

 <青森県> (種別：学校) 青森県立青森高等学校

 推薦理由

1 推薦校概要

青森県立青森高等学校(以下「当該校」)は、明治33年(1900年)に開校し、今年で創立121年目を迎える伝統校であり、現在は普通科全20学級(1学年6学級、2学年3学年各7学級)の規模を有する。平成26年度から平成30年度までSGH事業、平成29年度からSSH事業に取り組んできた。探究学習の実践において、SGH事業の活動成果とSSH事業を活用した「人材育成カリキュラム研究」を経営方針とし、教育課程において、1学年から「プロジェクト学習」を設定している。1学年の研究課題設定から始まり、2学年で課題研究の実践、3学年で研究の完成に取り組んでおり、その間、企業・研究施設・海外の高校や大学、地域と連携した取組を実践している。また、青森県の医師不足解消を目指した取組等も実践し、地域の課題解決に直結した人材育成を行っている。課題解決能力等を養うことでキャリア形成を図る探究学習と、地域を担う人材育成に向けてキャリアデザイン支援を行う進路指導の2つによってキャリア教育を推進していることから、キャリア教育優良校として推薦するものである。

2 主な取組について

(1) 教育目標とキャリア教育の推進体制について

綱領である「自立自啓、誠実勤勉、和協責任」のもと、生徒一人一人の個性の伸長を図り、創造的な思考と主体的に行動ができる心身ともに健康な人間を育て、社会の発展に貢献する人材の育成を目指している。青高力(青森高校生徒が身に付ける10の資質・能力として「知力・学力」「課題発見力」「論理的思考力」「課

題解決力」「原因分析力」「受信力・発信力」「協働力」「行動力」「自己管理能力」「自己実現力」)を設定し、これまで取り組んできた SGH 事業と SSH 事業の成果の相乗効果を図りながら、「学際的研究により新しい価値を創出できる国際的な科学技術系人材育成」を主題に据え、探究学習を展開することで青高力育成につなげている。

キャリア教育の全体計画の作成及び教育課程の編成は、キャリア教育委員会が中心となり行っている。また、校務分掌においては、「答えのない社会で生き抜く力の養成」を経営方針とする探究学習部を設置している。キャリア教育を総括するキャリア教育委員会、能力養成を目的に探究学習の展開を図る探究学習部、キャリアデザインの支援を行う進路指導部によってキャリア教育を組織的に推進している。

(2) 企業・研究施設・海外の高校や大学・地域と連携した取組

【キャリア形成関連(探究学習関連)】

- ①探究型学習発表会/スライド発表・ポスター発表
- ②探究型学習発表会/パネルディスカッション
- ③バーチャルコースフォーラムコンテスト
- ④STAGE プログラム海外研修
- ⑤学生・生徒による東北町における農業実習及び視察
- ⑥各校との連携による探究型学習ワークショップ

【キャリアデザイン支援関連(進路指導関連)】

- ①卒業生による進路ガイダンス
- ②大学ドリーム講座
- ③医学科進学のための特別講座 D's Voice
- ④弘前大学医学部医学科ワークショップ演習
- ⑤グローバル交流事業
- ⑥外国人労働者の受け入れに関する研究会
- ⑦青森中央学院大学留学生との交流会
- ⑧小学生・中学生に対する「夏期学習会」

【キャリア形成及びキャリアデザイン支援を支える SSH 関連の取組】

- ①外部講師による SSH 冬季集中講座
- ②SSH 講演会
- ③SSH フィールドワーク生物分野
- ④SSH 科学技術体験セミナー化学分野
- ⑤SSH 科学技術体験セミナー物理分野
- ⑥SSH 企業・研究所体験研修

3 まとめ

当該校は、青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針により、グローバル教育や理数教育等の特定の分野の学習における先進的な取組等、今後求められる人材の育成に向けた特色ある教育活動の中核的役割を担う重点校に指定され、平成 30 年度から重点校としての活動を行っている。今年度は県内の教員を対象に「重点校事業に係る検証のための研究会」を開催し、自校のキャリア教育の振り返りと取組による効果の検証を行った。この研修を「持続可能な探究型学習カリキュラムの普及活動」と位置付け、キャリア教育及び探究学習の実践について県内の他の高等学校と情報共有を図り、自校にとどまらず県全体の教育レベルの向上に取り組んでいる。

令和 2 年度卒業生の四年制大学進学率は 85%(国公立大学進学率は 58%)であり、地域、保護者から当該校に寄せられる期待は非常に大きい。その期待に応えるべく、単に進学指導に重点を置くのではなく、キャリア形成を図る探究学習をキャリア教育の中心に据え、未来社会を担う人材として必要とされる能力の育成によって進路指導の充実につなげてきた。探究学習と進路支援を一体で行う教育活動により、県内を代表するキャリア教育実践校として好事例を生み出している。

＜青森県＞（種別：学校）青森県立三本木農業高等学校・三本木農業恵拓高等学校

推薦理由

1 推薦校概要

青森県立三本木農業高等学校(以下、「当該校」)は、1989年(明治31年)に青森県農学校として創立され、青森県畜産学校、三本木農学校と幾多の変遷を経て現在に至り、今年で創立123年を迎え地域農業及び地域産業を支える人財を輩出してきた。地元である十和田市は青森県の太平洋側の内陸部に位置し、1855年南部藩士新渡戸傳により十和田湖から流れ出る奥入瀬川から水を引き人工河川稲生川を完成させ農業の源が作られたほか、明治期には渋沢栄一の三本木渋沢農場、さらには陸軍の軍馬補充部があった関係から、草創期より地域や家庭と連携し体験的な学習と実学を重視してきた。

現在、植物科学科、動物科学科、農業機械科、環境土木科、農業経済科を有する農業高校として、生徒自身の社会的、職業的自立に向けて、その基盤となる能力や態度を育てるよう、高校でのキャリア教育に加え、小中学校や地域との連携、グローバルな視点に立った農業教育など、生涯にわたって学び続けると共に、自らの役割と価値の関係を見いだしていく教育を展開している。

2 主な取組について

(1) 高校の教育目標とキャリア教育について

① 育てたい生徒像を明確化し、教育目標や教育方針に位置づける

学校としての教育目標(MISSION)及び目指すべき学校像(VISION)を柱に、各学科の目標を定めている。いずれの学科も「・・・倫理観をもった技術者として必要な能力と態度を養う」目標を掲げている。つまり授業のほか高校における様々な行事や体験を通して、社会の慣習として成立している「行動規範」や「守るべき秩序」を学ぶことに繋げている。

また、カリキュラムでは、地域背景を踏まえた学校設定科目を設けて人財育成に結び付けている。

植物科学科：農業経営シミュレーション、施設園芸ビジネス

動物科学科：愛玩動物、愛玩動物飼養技術、馬学

環境機械科：車両システム、地球環境科学、リサイクル資源、電装整備、シャシ整備

農業土木科：環境デザイン、測量実践

農業経済科：計算技術、総合演習

② 農業クラブ活動の展開

科学性、社会性、指導性の育成を目指し、全校生徒が加盟する自主的、自発的組織を機能させ、プロジェクト学習を中心に、自らの生き方・在り方を学んでいる。あわせて地域の環境調査や奉仕活動などを継続的に行っている。

③ 農業及び地域産業の担い手を育てる

植物科学科は、藍の栽培やきみがらスリッパ制作など、地域の伝統工芸を学ぶとともに異世代交流をしている。また、動物科学科は畜産振興のため県農林水産部と連携し、受精卵移植や施設見学などを実施している。更には、環境土木科や農業経済科は夏季休業を利用して1週間程度のインターンシップや現場見学会を行い、キャリア教育に繋がる取組をしている。

④ 1年間の寄宿舎教育を通して、社会規範と勤労精神を養う

植物科学科及び動物科学科の1年生は、1年間の寄宿舎生活を通して、基本的生活習慣の確立のほか、朝夕の農業実習を通して社会規範と勤労精神を養っている。また、夜の自習時間を利用して外部人財を招いての討論会など、就農教育を実施している。

⑤ 縦軸・横軸が織りなすキャリア教育

進路指導は縦軸としての学科、横軸としての学年が互いに連携を取りながら行っている。学科により進学や就職先が異なるので、合格体験発表(進学及び就職合格者による、2年生向けの体験発表)や外部講師による専門的な講演や講習などを開催している。また、地元企業見学会、キャリア形成講座など、就職に対する意識を高めるための研修会を独自に開催している。

⑥ 自主的学習会「農可尊熟(のうかそんじゅく)」で生徒同士が学び合う

2017年から、地域の課題を自分の将来と重ね合わせ、地域の発展を担う人財を育てる目的で、毎週1回放課後に学科・学年を問わず希望者が集まり農業や地域の課題を学び合う農可尊熟を開催、アクティブラ

ーニングの手法を用いて生徒同士が互いに議論しあう場となっている。

(2) 学校資源を活かした異世代との連携活動について

地域活性化に繋がるような異世代との交流を前提とした実践活動

- ① サンファーム：校内に設置した農産物直売所での販売実習活動
- ② 食育活動：大豆の栽培から収穫・加工までを学ぶ園児対象の体験活動
- ③ ファームナビゲーター：幼稚園や小学校などの農業体験実習補助
- ④ 命の花プロジェクト：動物の殺処分ゼロを目指した生徒が発案した動物愛護活動
- ⑤ 犬の祭典：飼い主と犬の信頼関係を結ぶ地域の人々との交流活動
- ⑥ 暗闇レストラン：地域食材の可能性を引き出す活動

(3) グローバルな視点に立ったキャリア教育について

① 高校生農力開花プロジェクト推進事業(2016～2017)

将来の青森県の人財を育成するため、農業の6次産業化推進を通して、将来のスペシャリストの育成、地域産業を担う人財の育成、人間性豊かな職業人の育成の3つを目的とした事業実践。

② 三農発「観光・スマート農業」推進プロジェクト事業(2019～2020)

台湾研修及び農業のICT化について調査研究。

③ グローバル社会を主体的に生き抜く人財育成事業(2021～)

台湾高校生との交流によりグローバルな視点で自身の考えを発信できる人財の育成事業の実践。

④ 海外高校生教育旅行受入

主に台湾高校生の教育旅行受入と、当該校の台湾訪問など相互交流を通して互いに学び合うと共に、海外からの誘客を目指した活動の展開。

(4) 地域や社会と連携したキャリア教育について

① 地域の協力で産業社会の担い手を目指す

市内の事業主や人事担当の協力のもと、模擬面接や集団討論会などの面接セミナーを開催。

② 企業との連携で社会性を高め、起業する力を養う

- ・大豆加工品の商品開発
- ・コンビニ食品の開発
- ・ヘルシードッグフードの開発

③ 十和田市秋祭りへの参加(20年以上)

3 まとめ

当該校は、2021年4月から、普通科と農業科(植物科学科、動物科学科、環境工学科、食品科学科)を設置する、青森県立三本木農業恵拓高等学校として再スタートを切った。校是「未来拓創」には、地域の未来を拓き創りあげていくという人財育成の学び舎になる想いが込められており、今後に期待するところである。

また、生徒の学習の場は教室に限らず、農場やグラウンドそして寄宿舎などあらゆる場があり、更には地域という大きな教室がある。農業に限らず地域産業の担い手育成に全力で取り組んでいることが、生徒の意識の変容に繋がり、最終的に進学率や就職率の向上に繋がっている。そして生涯にわたって学び続ける素養にもなっている。「行事を通して生徒を伸ばす」「体験と経験が未来をつくる」を念頭に、自ら考え行動できる三農生としての自覚と誇りを持つようにしている。

「動物や植物が良く育っています。でも一番良く育っているのは生徒です」と言える、キャリア教育の大切さを実践している貴重な学校である。

※人財(じんざい)

人は青森県にとって「財(たから)」であることを基本的な考えとしていることから、人材を人財と表記しています。

<青森県> (種別：学校) 青森県立五所川原工業高等学校・五所川原工科高等学校

推薦理由

1 推薦校概要

青森県立五所川原工業高等学校(以下「当該校」)は、1962年(昭和37年)に全日制の課程、機械科・電気科の

2 学科 3 学級が設置され、その後、幾多の学科編成を経て、現在に至るまで日進月歩の工学技術と変動する社会情勢に対応し、創造力豊かで知・徳・体の調和のとれた多くの人財を輩出してきた。

当该校は、生徒の多様な希望進路の実現に向けたサポート体制の整備充実をはじめ、事前・事後指導を含めたインターンシップの実施や探究型学習を重視する「課題研究」「総合的な探究の時間」等の授業を通して、生徒一人一人の社会的・職業的自立に必要な資質・能力の育成を図るとともに、未来を考え探究する力の育成が図れるよう、学校と地域が連携・協力したキャリアを推進している。

2 主な取組について

(1) 生徒の希望進路の実現に向けたサポート体制の整備充実

当该校では、生徒の基礎学力の向上と希望進路に対応できる内容を 1 テーマ 15 分程度にまとめた動画教材を 10 年前から自主制作している。その内容は、教科の学習内容を中心に就職試験や公務員試験対策、大学進学に向けた学力向上等、延べ 2,000 時間を超える。生徒は、これらの動画を用いた昼休みや課外時間での対面指導やオンデマンドによる選択学習によって、進路実現に向けた自身の学力向上を図っている。学校では、この動画の一部をクラウド経由で既卒生が視聴できるようにしており、現役生・既卒生を問わず、個に応じた進路サポート体制の整備充実を図っている。

(2) 高大連携によるキャリアインサイトの実施

平成 28 年から学校間の連携協定を締結している東北職業能力開発大学校青森校において、1 年生を対象に学校施設見学とキャリアインサイトを実施し、将来就職する際に必要とされる知識及び技能・技術の習得に向けた動機付けを行っている。

(3) 事前・事後指導を含めたインターンシップの実施

インターンシップは、適正な勤労観、職業観を醸成することをねらいとし、20 年前から継続実施しているもので、地元企業 50 数社と地方公共団体等の協力により、例年 2 年生全員が取り組んでいる。生徒への事前・事後の指導として事前調査と就業体験の成果を報告書にまとめるとともに、実施後の生徒及び受け入れ先企業へのアンケートを集計分析してインターンシップの検証改善を行っている。

(4) 地域経済団体との連携による模擬面接の実施

模擬面接は、3 年生を対象としたもので、五所川原商工会議所・五所川原青年会議所と連携して 8 年前から実施している。当初は 7 月末に実施していたが、5 年前から 9 月上旬に時期を変更して、就職試験直前の面接練習・指導となっている。

(5) 地方自治体・地域業界団体との連携による企業説明会の実施

五所川原市及び地元の業界団体である五所川原地区ものづくり連絡会と連携・協働して、五所川原圏内企業の企業説明会を 2 年生対象に実施している。これにより、五所川原圏内企業への就職希望者の増加が見られるなど、生徒の県内定着への意識を高める取組となっている。

(6) 学校と地域の連携・協力による独自の SDGs 教育プログラムの展開

生徒の主體的な学びや社会参画への意欲喚起をねらいとした SDGs の視点によるワークショップの実施や五所川原市長、地域の各業界団体、NPO 等から講師を招聘した講義・協議を実施するなど、学校と地域の連携・協力による独自のプログラムを展開している。この中心となる総合的な探究の時間や課題研究を通して、生徒が地域課題に気付くとともに社会貢献や仕事の意義について学び、自分自身の在り方や生き方を深く考えるなど、自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に取り組み、新たな学びに自走する意識・態度を養う教育活動を実践している。

3 まとめ

当该校は、生徒一人一人の希望進路達成のため、地元商工会議所や青年会議所と連携しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となるコミュニケーション能力や職業人としての望ましい態度を育成している。特に地域の産業界との連携・協力を密接に図りながら、模擬面接やインターンシップ等を実施するなど、地元企業と生徒が相互に成長できるような取組実践は模範的なキャリア教育となっている。

<岩手県> (種別：教育委員会) 遠野市教育委員会

推薦理由

【概要】

1 遠野市について

遠野市では教育行政の基本理念として「ふるさとの文化を生かし、『夢』と『誇り』を育む学びのまちづくり」を掲げている。

遠野市は、豊かな自然環境を生かした農林業を基幹産業とし、日本一の乗用馬生産地として知られている。また、柳田國男が著した『遠野物語』発祥の地であり、歴史的、文化的遺産も数多い。

こうした地域の特性を生かし、市内学校（小学校11校、中学校3校、高等学校2校）では、地域資源を教材としたふるさと教育に取り組んでいる。

2 ふるさと教育の状況

遠野市では、明日の遠野を担う子どもたちが、生きる力を身に付け、郷土に誇りを持ち、夢を育むことができるようふるさと教育を推進している。

小学校では、地域の見学や調査、農業体験活動を中心に、中学校では、職場体験や地域で活躍する人物から生き方等を学ぶ活動を中心に、高等学校では地域課題に対するプロジェクト活動を中心に取組を進めている。

3 ふるさと教育をより充実させるために

各校種、各学校で優れた実践が展開されているものの、活動ベースの学習となっていること、校種間のつながりが見えにくいことなどが課題となっていた。複数の教科・領域等で多岐に及んで実施されているふるさと教育を「キャリア形成」という視点で小・中・高を一貫してつなぎ、系統化・体系化することにより、系統的な学びの成果を児童生徒も自覚できるようになるのではないかと考えた。

4 遠野市教育研究所キャリア教育部会の取組

令和2年度、遠野市教育研究所にキャリア教育部会を設置した。主なミッションは次の3点である。

ア ふるさと教育の現状に関する情報共有

イ 「遠野市キャリア・パスポート」にふるさと教育に係る学びの履歴を残す機能を付加すること

ウ 小中高12年間を系統立てた『ふるさと教育』を『キャリア教育（形成）』

の視点によって小・中・高を一貫してつなぐ遠野市の人づくり（全体概要）を作成すること

令和3年度は、前年度に作成した「全体概要」に基づく、キャリア教育の充実を図るとともに、令和4年度コミュニティ・スクール導入において軸となる児童生徒のキャリア形成を目指した「ふるさと教育の推進」の在り方について明らかにすることをミッションとして継続活動している。

また、遠野市教育委員会では、市長部局と連携し、「キャリア教育対応企業・事業所一覧表」及び「個票」を作成し、職場体験学習の充実に努めている。

【具体的説明】

1 キャリア教育部会

市内小・中・高校の副校長で組織している。小中のみならず、高校も加えることで12年間のキャリア形成を系統的・発展的にとらえることにつながり、未来を創造する人材育成につながっている。

2 全体概要の内容

(1) 小学校低学年から高校生までの発達に応じた「学びの段階」の明確化

小学校低学年の「地域を好きになる、愛着を持つ段階」から高校生の「生徒一人ひとりが社会人・職業人として自立できるように、社会的移行の準備を進める段階」まで、5つの段階を明示するとともに、その段階に達した児童生徒の姿を明示することで、指導者が次の学びや前の学びをイメージして学習活動や目標の設定ができる。

(2) 遠野の子どもたちと遠野のもつ地域教材との関わりの系統化・具体化

市内共通の学習内容を「問いかけ」の形で示し、その「問いかけ」と「学習活動例」を組み合わせることで地域教材の開発や選択が系統化される。

3 「遠野市キャリア・パスポート」

児童生徒が各自で学びの履歴を記入できるよう「遠野市キャリア・パスポート」に「ふるさと教育」に係る学びの振り返りを位置付けた。

全体概要に示した「学びの段階」や「学びの系統」に照らすことにより、子どもたちが自分自身のキャリア形成をメタ認知することにつながっている。

また、指導者は子どもたちのキャリア形成の状況を把握でき、認め励ます評価を行うことにつながっている。

4 「キャリア教育対応企業・事業所一覧表」及び「個票」

一覧表には、業種や事業所名だけでなく、提供内容やキャリア教育における学習効果等も掲載した。個票には、見学の対象者や参考となる見学コース、体験受け入れの有無等を掲載した。中学校の職場体験学習に向けた、職種理解、希望事業所選び等に活用している。

<岩手県> (種別：学校) 宮古市立赤前小学校

推薦理由

本校のキャリア教育の目標は、「子ども達一人一人が、共に学び合い、人と関わり合う中で、自己のよさや可能性に気づき、夢や希望をイメージし、社会で生きるための基礎的な姿勢や能力を育てる。」である。この目標を達成するために、各教科・領域の学習をはじめ行事等においてもキャリア教育の視点を踏まえながら実践している。

体験学習としては、赤前地区の特徴を生かした水産業や農業に視点を当てた学習を行っている。具体的には、全校児童による「磯体験学習」や「ほしがれいの稚魚放流」、5年生による「ワカメの芯抜き・ウニの殻むき体験」、3,4年生による「しいたけの植菌」等である。それぞれの活動は、長年にわたって、岩手県宮古水産振興センターや宮古漁業協同組合津軽石支店、水産研究・教育機構水産技術研究所、地域の漁業関係者、宮古市農林課、地域の農業関係者から協力を得ながら行っている。その年に重点とする内容や活動についても協力者から助言をいただき、学校で検討することにより新しい刺激を取り入れながら活動を継続させてきた。学習の広がりという観点から今年度は重茂漁業協同組合の協力を得て「ワカメの芯抜き・ウニの殻むき体験」も行った。子ども達の成長のためによりよい体験や学習をさせたいという意識を関係者の方々と共有してきたことが、毎年の活動を充実させることにつながってきている。

子ども達は、直接体験することで喜びや大変さを実感したり、関係者から話を聞くことで工夫や願いに気づいたり学びを深めている。自分と地域、自分の今と将来について考えるきっかけにもなっている。

東日本大震災以降、限られた条件の中での学習ではあったが、学習の系統性や関連性の見直しを図ったり、発達段階に応じた気づきや関わりが生まれるよう対象学年の変更を行ったりと改善をしながらキャリア教育の推進を図ってきた。

<宮城県> (種別：教育委員会) 気仙沼市教育委員会

推薦理由

平成27年度から令和元年度まで、宮城県教育委員会指定「志教育支援事業」を受け、現在も宮城県教育振興基本計画・学校教育の方針における志教育をとおして、東日本大震災からの復興途中にある地域の保育所・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校が連携した防災教育やキャリア教育を推進している。

<具体的な取組内容>

1 異校種連携交流活動の推進

各校等の担当者による推進地区連絡協議会を設置し、児童生徒等が互いの夢や志について考えを交流したり、上級学校への期待・関心を高めたりするとともに、自己有用感を高める教育活動を推進している。

特に、保・幼・小・中・高・特別支援学校が連携して志教育を実践し、地域の発展を支える児童生徒を育成するために、「人とかかわる」「よりよい生き方をもとめる」「社会での役割を果たす」の視点から、15年間を見通した系統的指導の充実を目指し、市内各小中学校に対して、助言・指導を行っている。

2 海洋教育・防災教育等と関連させたキャリア教育の推進

気仙沼市ならではの資源と環境を生かした学習機会の創出に努めている。自己の生き方を見つめ、創造力に富み、持続可能な社会づくりに向けて行動できる人間を育成するために、海洋教育、防災教育、外国語教育、国際理解教育、伝統文化や最先端科学技術に関わる教育等、地域と学校の連携を円滑に行うための基盤作りを行っている。

3 保護者・地域住民との交流の促進

保護者・地域住民との交流を重視した職場体験や地域素材を生かした自然体験を推進するとともに、総合防災訓練等の地域連携行事への参加や地域住民等の意見交流の機会の設定など、児童生徒が地域への愛着を形成し、地域再生の担い手として行動する意識が高まる取組を促進している。また、防災教育と志教育を関連させ、学校・家庭・地域・関係機関等が連携して、コミュニティにおける防災体制の強化に向けた取組が円滑に行われるよう

に支援を行っている。

<宮城県> (種別：学校) 宮城県仙台南高等学校

推薦理由

【学校の概要】

仙台南高等学校は、仙台市内学区を南北に二分割することを機に南学区に普通高校の増設が要請されたことにより昭和52年4月に開校し、今年度創立45年目を迎える。「生徒ひとりひとりの個性を開発し、その充実をめざす教育」を重視し、「未来を担う青年として高い知性と幅広い識見を持ち、情操ゆたかな実践力に富む人間を育成すること」を目標に、『英知（知性の開発と陶冶）・調和（調和的人間の形成）・自律（自律的態度の滋養）』を校訓としている。

平成22年度から「総合力は南高で（部活も勉強も団体戦）」の標語のもと、文武両道の進学校としての姿を明確に示し、学校全体が丸となって教育活動に取り組んでいる。さらに、平成27年度からは、これからの時代を見据えて「総合的な学習の時間」に「課題研究」を軸とした『学問基礎』を開始し、現在は『総合的な探究の時間』で「キャリア教育」と「課題研究」の2本を柱とした教育活動を行い、自己の在り方や生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し解決する力を養う取組を行っている。

1 取組の概要

仙台南高等学校では、高校3年間を通じて「キャリア教育」と「課題研究」を柱とする探究学習「公孫樹プログラム」に取り組んでいる。令和2・3年度には、県教育委員会の高等学校「志教育」推進事業・研究指定校事業においては普通科におけるキャリア教育推進校に指定された。

また、令和2年度には三菱みらい育成財団「心を駆動させるプログラム」（令和3年度継続助成）に採択され、これまでの「公孫樹プログラム」に先進的な内容や手法を用いたプログラムを融合させたキャリア教育を行うなど、課題発見から仮説設定、検証、課題解決までの一連の流れを生徒が自律的に取り組んでいる。

【「公孫樹プログラム」全体像】

<各学年の目標>

- 1 学年：「自分自身の生き方や在り方を考える」
～地域課題と自分の生き方を結ぶ～
- 2 学年：「自分自身の関わり合いと問い」
～課題の設定・仮説・実証そして発表～
- 3 学年：「自分自身と持続可能な社会」
～課題研究とSDGsをつなげる～

2 主な取組（令和2年度）

【1 学年】

地域課題解決プログラムとして近隣の企業や団体の協力のもと、地域社会の課題に触れ、課題解決方法を考える。

(1) 課題解決法を学ぶ

前期は、外部事業者の教材を活用してシンキングスキルや現代社会が抱える課題の解決法に挑み、未来・社会・可能性・世界といったテーマを扱うことで、様々な視点からの見識を身に付けさせ、現代社会の抱える絶対解の無い課題を対話的に考えさせている。

(2) 地域課題プログラム

後期は、数人のグループを編成し、同窓会の協力を得ながら地元企業・団体が提示する地域課題に取り組んでいる。

主な実施事例：国際情勢研究（外部講師講演）・「ながまち」地域課題解決実践/発表会・「ながまち」つくり推進部講演・職業課題研究（同窓会によるワークショップ）・「自分が探究したいこと」探究 など

[令和2年度協力団体]

tekute ながまち、他9団体

【2 学年】

将来の進路を踏まえながら、個々の「興味・関心」に基づき、研究テーマを個人ごとに設定し、「課題の設定」

「情報の収集」「整理分析」「まとめ・表現」のサイクルで探究学習を進めるとともに、「講師出張カンファレンス」、「東北大学生教職実践カンファレンス」、「夢ナビ」等を企画し、大学とも連携しながら知的好奇心を刺激する取組を行っている。

主な実施事例：・カンファレンス（高大連携）・「評価法」講演会・探究方法ワークショップ（外部講師）・課題研究発表会（ルーブリック評価） など

【3 学年】

1 年生での地域課題プログラム、2 年生での興味関心をもとにした課題研究を踏まえ、Global and Local な視点から「持続可能な社会」の実現に向けて、「自分新書」をまとめながら、自分の研究と 2030 年まで達成すべき国際社会の共通目標である「SDGs」が掲げる 17 の目標と 169 のターゲットの結びつきを意識し考えさせることで社会と生徒自身の考えを繋げている。

主な実施事例：・SDGs 講演会（外部講師 SDGs ワークショップ）・自分新書作成・課題研究発表会 など

3 取組の成果

地域課題研究では、地域協力 10 団体から半期 3 回の協力を得て、全生徒がフィールドワークに率先して参加し、地域課題解決に具体性を持って向き合うことができている。課題研究では、6 大学、JICA から 17 人の専門家の協力を得て、課題テーマの設定、検証の方法に対するアドバイスをいただいた。専門的、多面的なものの見方を知ることができ、より深く課題研究に取り組んでいた。

3 年間の体系的なプログラムをとおして、自分の在り方、生き方を考え、将来の自分を明確に示せる生徒が増えており、常に課題意識を持ち、社会の変化に対応する資質の向上がみられた。

<秋田県>（種別：教育委員会）横手市教育委員会

推薦理由

横手市は平成 17 年 10 月に 8 市町村が合併して誕生し、合併当初から管下の小・中学校において、キャリア教育及びふるさと教育の推進に取り組んでいる。

教育委員会では、令和 3 年度の教育方針において、「1 学校教育における重点実践事項」7 項目のうち、次の 2 項目を取り上げ、キャリア教育及びふるさと教育の更なる充実を図っている。

（1）将来を切り拓く力や望ましい職業観を育むキャリア教育の充実

- ①小・中連携による発達段階に応じた、特別活動との関連を踏まえた年間指導計画の見直しと実践
- ②小学生職業体験、中学生職場体験学習受け入れ事業所整備、中学生ものづくり交流会の開催、中学生が参加する企業説明会への協力

（2）ふるさと横手を愛する心を育む「横手を学ぶ郷土学」への取組

- ①地域の力に支えられ、郷土に誇りをもてる教育の推進
 - ・伝統芸能育成チームによる文化財の伝承と発信、後継者育成支援
 - ・実践発表の場として横手市子ども伝統芸能発表会「創作子ども歌舞伎」制作上演
- ②総合テキスト『よこてだいすき 横手を学ぶ郷土学』活用による授業実践と実践例の蓄積
 - ・新小学 1 年生へ配布、学習用タブレットを活用した取組の推進

○総合テキスト『よこてだいすき 横手を学ぶ郷土学』について

教育委員会では、平成 29 年 3 月に上記テキストを発行し、市内小・中学校の全児童生徒に配布している。各学校では教科等（社会科、理科、総合的な学習の時間、特別活動など）の学習における補助資料として活用することで、ふるさと横手を基盤としたキャリア教育の充実を図っている。具体的には、テキストで市内の環境・伝統・文化・歴史に関わることを学び、関連施設を訪問し関係者にインタビューをしたり、体験活動に取り組んだりすることなどを通して、地域を知り、将来を含め地域に貢献していこうとする意欲を高めている。

<秋田県>（種別：学校）潟上市立天王中学校

推薦理由

<特色ある教育活動>

コミュニティ・スクールとして学校運営協議会を設置し、地域と連携した教育活動を進めている。

- ① 職場訪問（1年生：1日）
 - ・様々な職種の事業所等をグループごとに訪問し、仕事の様子を見学したりインタビューを行ったりするなどの活動を行っている。
 - ・調べた内容をまとめ、将来の自分を考える活動につなげている。
- ② 職場体験活動（2年生：4日）
 - ・事前指導
 - 職業講話を実施し、働くことへの意識を高めている。
 - ・地域との連携
 - 地域の事業所の協力を得て、4日間の職場体験を行い、働くことの意義を体感するとともに、地域のよさを実感する場としている。
 - ・事後指導
 - 体験した内容や学んだことについてまとめ、具体的に自分の進路計画を検討することにつなげている。
- ③ 地域企業ガイダンス
 - ・令和元年度及び令和2年度に、秋田地域振興局と連携し、地域企業ガイダンスを実施した。様々な職種に関わる方から直接話を聞くことができる機会となった。
- ④ 地域人材を活用したコース別学習
 - ・学年縦割りのグループを編成し、地域の方々と関わりながら、課題解決に取り組む活動を設定している。
- ⑤ コロナ禍における学習活動の工夫
 - ・昨年度、コロナ禍にあって体験活動が制限される傾向の中で、地域の活性化につながるアイデアを考えたり発信したりする学習を行った。地域の方々の意見に耳を傾けながら、事業所等の立場に立ち、真剣に思考する生徒の姿を引き出した。

<秋田県>（種別：学校）秋田県立秋田西高等学校

推薦理由

当該校は、令和元年度から令和2年度にかけて、秋田県教育委員会の「探究活動等実践モデル校」の指定を受け、地域課題の解決に向けた探究活動を基に、自己の在り方生き方や進路等について考えるキャリア教育の充実を図っている。潟上市唯一の高校として地域の寄せる期待も大きく、行政機関やNPO法人、地域住民と学校が連携・協働して、総合的な探究の時間を中心に、学年進行で考察を深めていくシステム（1年：地域課題把握、2年：地域課題研究、3年：論文作成）を構築している。地域についての学びから課題を見だし、解決に向かう仮説検証型の研究・考察を通じて、地域に愛着をもち、地域を支える有為な人材を育成することを目指し、地域密着型の取組を進めている。

1 行政機関及びNPO法人等との連携

潟上市長の講演を行い、市長と生徒が地域の現状と課題について共有を図った。また、地域の課題を「経済」「医療・健康」「教育」「水環境」「エネルギー・資源」「文化」「生物」「ゴミ問題」「安全災害対策」「生活」の10分野に整理し、潟上市役所職員及び地域活性化に取り組む地元のNPO法人による各分野についての講義及び生徒とのセッションを行った。これにより、生徒が地域の実態をよりの確に把握するとともに、自らの将来と密接に関わる問題として地域課題を捉え、その解決に向かう研究の機運が醸成された。（市内事業所で行われる予定であったフィールドワークは新型コロナウイルス感染症防止のため中止）。

2 研究成果の発表

講演、講義及びセッションを踏まえ、1年生及び2年生はグループでテーマを設定して研究を進め、課題研究発表会（ポスターセッション）で成果を発表した。研究のまとめ方については、県内他校に在籍する博士号教員に指導を受けている。発表には市職員及びNPO法人も参加し、専門的な知見に基づく助言が行われた。3年生は2年間の研究成果を論文としてまとめ、振り返りを行っている。

これらの取組を通じ、生徒は以前に比べ、地域の魅力や課題に対する関心を強め、地元に対する愛着の高まりを感じるなどの変容が見られた。コロナ禍の状況下ではあるが、今後はフィールドワーク等の体験的な探究活動の取組等を通じ、地域とのつながりを発展・深化させることを見据えている。在学中はもとより、卒業後も様々な角度から地域を支えていくことができる人材育成のモデルとして、ひいては本県キャリア教育の牽引役として

今後の更なる取組の充実が期待される。

<秋田県> (種別：学校) 秋田県立栗田支援学校

推薦理由

栗田支援学校は開校以来、地域との関わりを大切にしており、学校経営の重点の一つに「地域に根ざしたキャリア教育の推進」を掲げるとともに、地域を学習の場や教材とする「地域学習」を教育活動の中核としている。また、キャリア教育全体計画の作成・活用により、小学部・中学部・高等部の一貫した教育課程の編成と各学部段階に応じた教育活動を展開している。

高等部普通科では実践的な職業教育として、地元の企業等と連携した作業学習を行っている。また、平成22年度に設置した職業学科では、特色ある教育活動として飲食店「ランチくりた」の営業があり、地域住民の好評を得ている。なお、「ランチくりた」はこれまで2回、秋田食品衛生協会より食品衛生優良施設として表彰を受けている。

1 「地域学習」の取組について

- ・小学部では新屋の「鹿嶋祭」に地域住民と共に毎年参加している。祭りが中止となった際も、地域の伝統を大切にする気持ちを継続し育てたいと考え校内で実施した。
- ・中学部では実際に地域を探検・調査し、自分たちの地域のよさを発見し、新屋地区のガイドブックを作成した。この冊子は地域の店舗でも活用されている。また、近隣の公立美術大学附属高等学院とは継続的に交流し、美術や制作活動を通し、互いに認め合う活動を充実させている。

2 高等部「普通科」と「総合サービス科」の取組について

- ・高等部「普通科」では各作業班で制作した木工製品や陶芸製品、ガラス製品、花などを近隣の動物園や酒造店等にアンテナショップとして置かせていただき、販売や在庫管理などの学習を行っている。また、校地の他、町内から協力を得て収穫した秋田蒟を乾燥して粉状に加工したものを、近隣の菓子店の協力により、商品化した。
- ・高等部「総合サービス科」では、専門教科「家政」の学習として飲食店「ランチくりた」の営業を通して、仕入れから調理、接客、会計について実践的な学習を行っている。接客については、ホテル勤務の外部講師より接客、接客に係る技術指導を得ている。また、清掃については専門教科「流通・サービス」の中でビルサービス勤務の外部講師より清掃作業への技術指導を得て、近隣の施設等に出向いて清掃活動をしている。専門教科「福祉」の2年次では「介護職員初任者研修」の資格の取得を目指した講義において、介護福祉士と作業療法士の外部講師を活用している。また、近隣の保育所や高齢者施設と連携して介護実習を行っている。

<山形県> (種別：学校) 山形県村山市立大久保小学校

推薦理由

1 概要

村山市立大久保小学校では、学校の全ての教育活動が将来の職業選びにつながることから「キャリア教育」に特に力を入れている。「夢を持ち未来をひらく大久保の子の育成」のスローガンの下、地域や卒業生の先輩でさまざまな分野で活躍している方々を先生として学校に招いたり、地域素材を存分に活かしたりして「地域チャレンジ授業」を実践し、積極的にキャリア教育を推進している。

大久保小の【目指す子ども像】は、「チャレンジする子ども」である。

全ての教育活動がキャリア教育につながることを踏まえ、「①確かな学力の育成、②豊かな心の育成、③健やかな体の育成、④つながりのある教育活動」という4つの重点を定め、「自立」に向けた「主体的・協働的な学び」を推進するために、学校・家庭・地域の連携協働のもとに取り組んでいる。

具体的には次の3つがあげられるが、いずれも特筆すべき実践活動である。

2 具体的な取組み

(1) 先輩のキャリアに学ぶ「ようこそ先輩！大久保小」授業

各界で活躍している母校出身の先輩や地域人材を講師に招き、話を聞く「キャリア教室」授業を継続的に開催

している。キャリア形成のためのモデル学習でもあるこの方法は、最も効果的な方法といえる。

コロナ禍にあって、なかなか先輩を直接学校に招くことができない中、「GIGA スクール構想」で導入したタブレットPCを活用したリモートで遠くにいる先輩（遠くは地球の裏側にいる先輩）と繋がり、Web方式での「キャリア教室」開催に取り組むなど新しい生活様式を踏まえた工夫されたやり方にも取り組んでいる。

(2) チャレンジ地域学習実践～地域の主産業（農業、商業等）体験～

本地域は、稲作、さくらんぼ等の一大産地であるとともに、そば街道の中心店でフランス政府公認「ラ・リスト」に東北で唯一選ばれた「あらきそば」の所在する地域である。“地域の先生”の協力を得て、田植え、稲刈り、そば栽培等の収穫販売や学校農園「1a畑」をフル活用した「実践型&探究型の体験学習」を継続的に行っている。

(3) 全校児童の「夢」の掲示《チャレンジ宣言》&キャリアパスポート活用等～

大久保小では、夢を早めに持つことが大切であることから、全校児童の「夢」を掲示したり、「前進宣言（チャレンジ宣言）」として目当ての発表により目標の具体化を行ったり、キャリア教育に係る学びのプロセス（過程・履歴書）を記述し記録する「キャリアパスポート」による、組織的、系統的なキャリア教育を他校に先駆けて実践しており、他のさまざまな取組等と複層的複合的に取り組むなど工夫を凝らした実践活動が展開されている。

<山形県>（種別：学校） 山形県立新庄南高等学校金山校

推薦理由

山形県立新庄南高等学校金山校は単位制普通科による1年次1学級を設置し、金山町立金山中学校との連携型中高一貫教育を導入する高等学校として、様々な教育活動において中学校や地域との連携を密にしている。「母川回帰の心を持ち、地域の未来に貢献できる生徒の育成」を本校教育の目的とし、地域に学び地域に貢献する人材育成を目指したキャリア教育を展開している。

〈具体的な取組〉

1 中高合同インターンシップ（中学2年生・高校2年次生）

働く体験を通して将来の進路に対する自覚を高め、地域の産業を理解することを主な目的として行っている。計4回の事前ガイダンスの後、61事業所で構成する金山町インターンシップ協力会の支援のもと、中学生と合同でインターンシップを実施し、中学生との交流を深めることもできた。4日間の実習の後、校内でインターンシップ成果発表会を行い、更に金山町インターンシップ協力会総会において生徒の報告プレゼンテーションを行っている。

2 若手社員による講話

新庄・最上ジモト大学推進コンソーシアムが主催する、ジモト大学のプログラムの一環として実施している。地元企業で働く、生徒と年齢の近い若手社員の方から現場での仕事の内容を聞いたり、意見交換をしたりすることによって、地元で働く意義を考えたり、働くことのイメージをつかむ契機とすることができる。

3 金山タイム

地域の大人たちから学び、地域への愛着心と地域に貢献する気持ちを育てるため、学校設定教科を設定している。地域理解や地域課題の解決に向けた「日本文化」「農業体験」「介護体験」など、地域をフィールドとした11の講座から生徒が選択している。オリエンテーションの後年間4日間のプログラムに取り組み、その成果を学校祭などの場で地域の方々に報告している。

4 模擬議会・金山校フォーラム

生徒自身が町政や町づくりに関心を持ち、地域課題の解決に向けて考えることを目的に、町役場職員や教育委員会と連携して隔年で実施している。フォーラムでは地域課題についてグループ討議を実施し、改善策を発表している。模擬議会では模擬選挙を行い、選ばれた議員が町の事業等について提言を行っている。

<福島県>（種別：学校）会津若松市立第二中学校

推薦理由

会津若松市は、会津盆地の南東部に位置し、東側の猪苗代湖や南側の広大な山地が含まれ、市街地や商業地、住宅地、水田が広がる地区である。漆器などの伝統工芸品、鶴ヶ城や御薬苑、さざえ堂、白虎隊ゆかりの飯盛山など歴史的事物と町並みが今なお残り、芦ノ牧温泉や東山温泉のある観光都市である。

若松二中は、鶴ヶ城の北側玄関口に位置し、会津藩家老田中玄宰の屋敷跡に校舎が建てられ、創立70年を越える歴史と伝統を持つ市内有数の中学校である。全校生徒257名の学校で、教科教室型の授業を進めている中規模校である。

昨年度は、第2学年において技術科で行った余蒔（よまき）きゅうりと小菊かぼちやの栽培を総合的な学習の時間につなぎ、会津伝統野菜を中心に研究課題を設定し「会津伝統野菜をメジャーにしよう」という課題解決型学習に取り組んだ。会津伝統野菜の認知度が低いことをきっかけにして、地域への理解や誇りを育みたいという願いから始めた地域を活性化するためのプロジェクト型学習である。

地域の農家を招き講話をいただいた中で深めた地域理解から課題を設定し、会津伝統野菜の生産農家や地元企業と協力を得て、生徒自らが主体的に地域の活性化を考える学びを展開している。生徒がそれぞれの担当部署を担当し、校外イベント開催に向けて工夫を凝らして企画・準備を進め、加工商品の販売体験や広報など4つの担当ごとに活動した。イベント当日は、販売促進部では小菊かぼちやの販売、商品開発部ではかぼちやの馬車づくり、宣伝部ではカフェでのかぼちやプリンとピザのプレゼンテーション、広報部は制作したSNS上の動画とLINEスタンプの発信など、生徒たちは役割を分担して行った。その後、学年活動報告会を経て、学習の成果を広く発信している。また、第1学年（当時）への伝達発表会を行い、次年度以降の学校として学びを継続している。この取組は、地域の社会・経済・産業教育にもつながるとともに、地元新聞にも取り上げられ、地域に広く紹介された。令和3年度は、3学年が修学旅行先の京都でも伝統野菜の学びを広げる予定である。地域と学校が連携し、生徒たちに対して地域に誇りを感じる機会を与えるとともに自己実現を果たすキャリア教育に大いに貢献しているものである。

<福島県>（種別：学校）福島県立勿来工業高等学校

推薦理由

本校は、「地域から愛され、地域産業を支える職業人の育成」を基本目標として掲げ、「未来に希望を持ち、新たな時代において個性豊かで潤いのある生活を送ることができる」という生徒の未来像を持っている。そのための活動として、生徒一人一人に対する進路指導を行うことと、地域の様々な団体等と連携したキャリア教育を推進している。

1 生徒一人一人に対する進路指導

- 進路ガイダンス（全学年）
- インターンシップ（2学年：3日間）
- 校内企業説明会（3学年）
- 卒業生を囲む会（3学年）
- 教員による企業訪問を実施し、事業内容等の情報収集を行い生徒に周知する

2 地域と連携した教育活動

- 地域企業見学（各学科ごと）
- 溶接技術者による技術指導（技術向上及び安全作業への意識向上）
- ものづくりマイスター（建築大工）による技術指導（大工道具の正しい使い方、加工手順の習得）
- 電気工事業協会による最新の電気工事についての技術指導
- 福島イノベーションコースト構想による先端企業との連携を行い、5学科（機械、電気、電子、建築、工業化学科）合同による課題研究を行い、災害派遣用発電装置「勿工くん」の研究・製作を行った。
- 地域の小中学校と連携したキャリア教育

小中学生に対する体験実習やプレゼンテーションを実施することで、現在学んでいる工業技術を伝えることで、児童生徒相互のキャリア教育の進展を図る。

- 商店街と連携した活動

毎年5月と10月の年2回、植田町商店街主催の「歩行者天国」に勿来工業高校ブースを設け、各科の紹介や地域社会との交流を目的に各科輪番制（今年度：機械科・電気科）で参加している。

 <福島県> (種別：学校) 福島県立会津支援学校

 推薦理由

学校重点目標の一つとして「地域を知り、地域のよさを活かし、地域や家庭と連携・協働した取り組みを行い、卒業後の自立と社会参加に向けた指導の充実に努める。」を設定し、進路指導と関連付けながら小学部から高等部まで段階的に計画的に将来の生活の基礎となる基礎的・基本的な能力の育成に取り組んでいる。特に高等部では、キャリア教育の視点に立って、働くことへの意欲や関心を高め、地域と連携しながら生徒一人一人の自己(進路)実現に向けた取り組みを推進している。過去5年間の一般企業等への就労率は平均43%となり、全国の特別支援学校の平均を大きく上回り、専攻科を置かない地域に根差した特別支援学校としては高い数字を達成している。

<キャリア教育・進路指導に係る取り組み>

- ①授業「作業学習」では、7つの作業班を設定し、様々な教科等の目標や内容を適切に組み合わせながら、働くことを中心とした生活に必要な資質・能力を育み、生徒が主体的に活動に取り組むことができるように工夫している。(生徒たちの意識改革、環境整備、補助具の作成、作業内容の検討など)学習したことを総合的に活用しながら、自己判断や自己決定、課題解決する場面も適宜設定するように努めている。
- ②地域と連携・協力した作業班の活動として、地域の喫茶店での学習、清掃活動、幼稚園・ボランティア団体・企業との共同学習等を行った。また福島県特別支援学校作業技能大会やアピリンピック福島大会への参加も積極的に行っている。学習の意味付けや知識・技術の向上につながったり、客観的な評価や称賛等を受けることができたりしている。
- ③「職業」の授業では、キャリアノートの活用、自己理解や他者理解の学習・ソーシャルスキルトレーニングを通して、将来設計・課題解決能力や人間関係作りの基礎を養ったり、様々な職業についての理解を高めたりしている。
- ④校内実習・産業現場等における実習では、各学年において以下のように目的意識の共有を行い、多くの企業や事業所の協力を得ながら計画的に実施している。(1年時：働くために必要な基本的態度や知識を身に付ける。2年時：実習先に対して自分の適性を確認し、仕事に対しての見識を広げる。3年時：卒業後の就労先を具体的に考える判断材料とする。)
- ⑤地域との連携の強化・充実化を図っている。関係機関・事業所・卒業生の協力を得て進路講話を行ったり、リモートによる就職説明会・面接に参加したりすることができた。また外部団体「会津地区雇用連絡協議会」の協力を受けて、地域での障がい者への理解促進、働く機会や実習先の拡充にもつなげることができている。

 <茨城県> (種別：教育委員会) 土浦市教育委員会

 推薦理由

土浦市では小中一貫教育を推進し、キャリア教育を大きな柱の一つとしている。9年間を見通したキャリア教育の充実に努めるために以下の2点に力を入れて取り組んでいる。

①市独自のキャリア・パスポート『みらいスタディキャリアノート』の活用(平成30年度全児童生徒配付、以降、毎年度小学1年生及び市外からの転入生に配付)

発達段階を考慮した中学校区ごとのキャリア教育(みらいスタディ)カリキュラムをもとに、市独自に作成した「みらいスタディキャリアノート(ワークシート集)」の計画的な活用を通して、小中一貫したキャリア教育を推進している。

②キャリア教育推進のための予算の確保(毎年度)

中学校の職場体験に活用できる予算を確保し、職場体験時の保険加入や職業人を招いた講演会を開いた際の講師謝礼等に充てることで、夏季休業中を中心とした職場体験やその他の職業教育の充実に努めている。また、小・中・義務教育学校を対象に総合的な学習の時間での各種体験活動に活用できる予算を確保し、小学校における職場見学や各種体験活動を通じた発達段階に応じたキャリア教育の推進に有効活用している。

※令和2年度は、コロナ禍のため中学校の職場体験事業は中止とした。令和3年度は、可能な範囲での実施を検討し、集団での職場体験や、オンラインを活用しての職業に関する講演会等を予定している。

＜茨城県＞（種別：学校）大子町立依上小学校

推薦理由

2030年問題や2040年問題を踏まえると、世界的な取組となっているSDGsやSociety 5.0の観点からの教育が必要となってくる。義務教育段階で養う資質・能力も、大きく変化している。この状況に対応するためには、学校教育におけるカリキュラム・マネジメントを徹底し、社会の変化に適応できる資質・能力を身に付けさせるキャリア形成はたいへん重要である。また、同校は、日本進路指導協会から令和2年度・3年度の研究委託を受けており、キャリア・パスポートの活用も進んでいる。未来を創る人財の育成のための同校の取組の構成は、次のとおりである。

1 社会科と総合的な学習の時間、特別活動における体験の目的の明確化とカリキュラム・マネジメントの工夫

- (1) 3年生における「仕事」の意識化と職業調べの工夫
- (2) 4年生の公共施設の見学等を生かした職業調査と働き方の見方・考え方
- (3) 5年生における地場産業のものづくり体験と自動車工場の見学を生かした職業調査とSDGsを踏まえた「あったらいいな」と思う職業の想像
- (4) 6年生における社会科の裁判所での傍聴と法教育を生かした社会性やシチズンシップの形成を図る取組
- (5) 郷土学習「大子学のすすめ」や総合的な学習の時間を生かした起業家教育の展開と地元の事業所での体験

2 学級活動（3）の実施と、体験と連動したキャリア形成の充実

- (1) 5年生・6年生を中心とした学級活動（3）の展開と保護者の理解と協力の促進
- (2) 1で示した体験の事前・事後における学級活動の展開とSDGs、及びSociety 5.0との関連性を大切にしたり振り返り
- (3) キャリア・パスポートを有効に活用してのポートフォリオ評価の蓄積

3 保護者や地域と協同した未来を創る人財の育成を図るための取組

- (1) 学校だよりや学校ブログ、学校公開を活用しての情報発信
- (2) 同一中学校区の小学校・中学校との連携
- (3) ロボット（BOLT）を活用したプログラミング教育の充実
- (4) 高学年を中心とした地域の起業家との対話

4 キャリア教育の推進体制の明確化

＜茨城県＞（種別：学校）茨城県立茨城東高等学校

推薦理由

平成23年度から「アクティブスクール」に改編され、単位制普通高校としてキャリア教育の充実を目指している。平成25年度からは、キャリア教育の一環としてデュアルシステムを開始し、地元の商工会や町役場、学校の後援会とも連携して取り組み、今年度で9年目となる。

人間力を高める着実なキャリア教育のため、1年次では「産業社会と人間」で基礎を学び、2年次では全員がインターンシップ、3年次ではデュアルシステムを体験できるようにし、段階的に学べる仕組みとしている。

○取組の具体

・コース別体験学習

青年期の在り方・生き方、他者との関り、望ましい職業観・勤労観を育成するため、介護・水環境・農業の3分野の体験学習を行い、早い段階から進路講演会を実施している。

・インターンシップ

自己の進路適性を知るとともに、働くこと、協働することを学ぶ。令和2年度はコロナの影響もある中、感染症予防を徹底し、約70の事業所に分かれ実施した。

・デュアルシステム

2年次に行ったインターンシップを発展させたデュアルシステムを実施している。学校では体験できない多くの実践をつむことができ、デュアルシステムで体験した職種に就職する生徒もいる。

・その他

キャリア教育の一つとして、自然体験活動を実施しており、汽水域の涸沼の研究調査をするなど、自然を大切

にする心を育てている。さらに、自然環境保護団体「We are 潤沼っ子」を設立し、環境保全にも取り組んでいる。

<栃木県> (種別：学校) 益子町立七井中学校

推薦理由

本校は、令和元年・2年度の2年間、益子町教育委員会より指定を受け、研究主題「将来の生き方を主体的に考えられる生徒の育成」として、学校全体でキャリア教育について継続的に研究を推進している。特に、「基礎的・汎用的能力」の育成に向けて、「キャリア教育の視点を意識した授業改善」を重点的に取り組むとともに、他校種や地域・企業との連携を密に図っている。

【具体的な取組】

1 キャリア教育の視点を意識した授業改善

生徒の実態を踏まえ、各教科等の指導を通して重点的育成を目指す「基礎的・汎用的能力」を学習指導案に示し、教員の意識化を促すとともに、その育成のための手立てを「授業改善の視点」として学校全体で共有し、日々の学習指導の工夫・改善を図っている。

2 体験活動の充実

第1学年で、上級生の職場体験学習の発表を聞き、第2学年でキャリアアドバイザー講座を受講し、また事後は、職業人講話を聞くなど、充実した事前・事後指導を行うことで、生徒が系統的に勤労観・職業観を身に付けキャリア発達を促す取組が行われている。また、ライフプランナーを講師に招いた授業を行うなど、地域・企業との連携を図っている。

3 異年齢集団活動の充実

本校の生徒は、小学校からほぼ同集団で過ごすことが多いため、他者とのかかわりの場を意図的に設定している。特に福祉の精神を育むとともに相手の立場を考え、「伝え合う力」を育成するため、県立益子特別支援学校と交流学习を行っている。

4 キャリア・パスポートの活用

従前より、独自に学びの軌跡をまとめた「私の作文集」を作成・活用してきた。現在は、それに改良を加えたキャリア・パスポートを、学んだことや自分が体験したことから得た「学びをつなぐもの」として活用している。

本校は、目指す生徒像の実現に向けて、生徒質問紙によるアンケートを実施し、結果を次年度の計画に反映させるなどPDCAサイクルを運用している。また、キャリア教育を軸とした小・中連携を図るために、キャリア・パスポートを活用するとともに、小・中合同で授業研究会や情報交換会を行うなど、キャリア教育を意識した教育活動の充実を図るために、組織的・系統的に取り組んでいる学校である。

以上のことを踏まえて、本校が表彰に相応しいと考え、キャリア教育優良校として推薦する。

<栃木県> (種別：学校) 栃木県立那須清峰高等学校

推薦理由

当該校は工業科を母体とし平成9年には商業科を加え、5学科を有する創立60年を迎える総合選択制専門高校である。教育目標に「Specialistとしての、Spirit・Sense・Mannerを有する技術者の養成」を掲げ、学校活性化の合言葉として位置づけ、キャリア教育の充実にも積極的に取り組んでいる。

キャリア教育の目標の1つを「多様な学びや体験活動をとおして、生徒自らが進路実現に向けて考えて行動できる態度を身に付ける」とし、地域・企業と協働した教育活動を充実させることにより、望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、地域の後継者としての自覚を持ち、地域に貢献できる人材の育成を目指している。近年は、地元自治体、大学、地域産業界等との連携を強化し、地域技術者を活用した探究活動や地域に根ざした多様な体験活動を通じた地域人材の育成・環流を図る仕組み（地域人材エコシステム）の構築と定着を図っている。

このように、地域への愛着を高め、専門知識や技術を定着させながら、生徒の自己実現と地域活性化を目指した当該校のキャリア教育の取組は大変優れており、キャリア教育優良学校として推薦する。

《主な取組》

1 地域技術者養成の視点でのキャリア教育

- (1) 地域人材エコシステムを意識したキャリア教育全体計画
- (2) 1年次のキャリア教育（5S活動、学科の学びに応じた職場見学会等の実施）
- (3) 2年次のキャリア教育（地域事業所でのインターンシップ等の実施）
- (4) 3年次のキャリア教育（キャリア形成支援事業等への参加）

2 地域と協働したキャリア教育活動の推進

- (1) 地域と連携したものづくりやプロジェクト活動
 - ・将来の建設技術者としてできる地域貢献活動（建設工学科）
 - ・ふたば交流（那須特別支援学校との交流）（生徒会）
 - ・地域貢献のためのチャレンジング活動（商業科）
 - ・国際医療福祉大学との高大連携プロジェクト活動（商業科）
 - ・地域伝統工芸・竹工芸を学ぶ（全学科）
- (2) 地域イベントへの参加・作品製作活動
 - ・ものづくり教育研究室（電気科）
 - ・防災祈念地域清掃活動（全学科）
 - ・とちぎ国体カウントダウンボードデザイン製作（学科横断）
 - ・那珂川町立小川小学校へプランターケース寄贈（建設工学科）
 - ・どこでも飲める牛乳蛇口（ミルクバー）の製作（学科横断）

<群馬県>（種別：学校）前橋市立第七中学校

推薦理由

令和2年度関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会群馬大会兼群馬県キャリア教育研究大会の会場校として、平成28年から「社会の変化に対応し、自己の生き方を切り拓くキャリア教育～基礎的・汎用的能力を育む総合的な学習の時間の在り方～」をテーマに掲げ研究を進めた。

（1）キャリア教育年間指導計画の作成・見直し

基礎的・汎用的能力（つながる、みつめる、やりぬく、きめる、えがく）の育成を図る教科横断・学年縦断の総合的な学習の時間の年間指導計画と連携したキャリア教育年間指導計画を作成した。また、キャリア・パスポートの形式を整え作成し活用を進めた。

（2）「未来塾」「職場体験学習」「出前授業」の実施

① 1年生 社会人講話「未来塾」

「様々な職業の方々から直接話を聞くことを通して、職業や勤労について知識や価値観を広げ、将来の夢や希望に向けての生き方や在り方を考えられるようにする」ことを目的として実施した。例年、3学期に実施しているが、令和2年度はコロナ感染症の影響で延期した。（令和3年6月に実施）

② 2年生 「職場体験学習」

「地域の様々な事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりすること」を目的として実施した。例年9月に実施している。

③ 3年生 「出前授業」

「自分の将来を見据え、進路選択を様々な視点から考えていくこと」を目的として、高校の先生を招き、高校の授業体験を実施した。

以上のとおり、各学年で身に付けさせたい力を明確にした上で、他校種や地域の産業界との連携を図り、組織的・系統的に取り組んでいることから、本校が表彰にふさわしいと考え、キャリア教育優良学校として推薦するものである。

<群馬県>（種別：学校）安中市立第二中学校

推薦理由

○取組状況

令和2年度関東甲信越地区中学校進路指導研究協議会群馬大会にて、本校の取組について紙面発表を行って

る。

生徒一人一人についてキャリア・パスポートを用いて適切に状況を把握し、職場体験等の行事のみならず、普段の学校生活全体を通して基礎的・汎用的能力の育成に努めている。また、小・中のつながりや発達段階を考慮し、組織的・系統的に実践に取り組んでいる。

<研究のねらい>

キャリア・パスポートの活用とキャリア教育を意識した諸活動に取り組むことで、生徒一人一人が自らの生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

<内容>

①キャリア・パスポートの活用

・各学校がキャリア教育の視点で児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明らかにし、特別活動を要とした全ての教育活動の中で既存・既存の活動を生かしながら、教科横断的な視点でキャリア教育を整理した。

・小・中のつながりや発達段階を考慮したキャリア・パスポートの項目や内容の精選を行った後、運用を開始した。

・小学校卒業前に記入した小学校生活の振り返りや将来の夢、中学校で頑張りたいことや不安なことなどを適宜振り返ることで、自己の変容に気付かせ、自分自身を改めて見つめることができた。

②キャリア教育を意識した活動例

・学級での係決めや家庭学習を見直す学級活動、各教科のつながりを重視した授業における振り返り等を行うことで、教科横断的な視点や先の見通しをもった考えがもてるようになった。

以上の取組を踏まえて、本校が表彰にふさわしいと考え、キャリア教育優良校として推薦するものである。

<群馬県> (種別：学校) 群馬県立高崎高等学校

推薦理由

群馬県立高崎高等学校では、生徒一人一人の社会的自立に向けて、将来を見据えた健全な職業観の育成を図るために地元のOBと連携し、地域社会に根ざした組織的・系統的なキャリア教育に取り組んでいる。

○「先輩、教えてください!」と銘打った本事業は、平成30年度に開始され、同窓生約3万人の中で、現在も地域社会で活躍している方々が経営している会社や従事している事業所へ生徒が直接訪問して研修を受け、職業意識を高めるとともに社会人としての心構えを身に付けさせる内容になっている。当初36の受け入れ事業からスタートし、工夫と改善を重ねながらネットワークを広げ、4回目を迎える令和3年度は42事業所の受け入れが可能になった。最初のアポイントメント等は担当教諭が行うものの、その後は実際に事業所を訪れる生徒自身が受け入れのお願いや事業の趣旨と教えてほしいポイントを伝えるなど、全て生徒が主体的に行うことで社会生活に必要なスキルの向上を図っている。

○特徴的なのは、「なぜ本校OBの企業・事業所はその分野で業績を残し続けることができるのか」を全体のテーマとし、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)活動としての課題研究の授業を通して学んでいる「R-PDCAサイクル(十分な調査(Research)を行った上での仮説の構築(Plan)、仮説の検証(Do)、仮説の評価(Check)、仮説の再構築(Action))」の手法を実践することによって社会的な課題発見力・課題解決力を高めていることである。実施3か月前から行う事前学習では課題・仮説の設定を軸にポスター(プレゼン用レポート)作成を行い、当日は参加者各自の課題・仮説に関する質問を用意して質疑応答に臨んでいる。事後には礼状の作成と送付、事後アンケートへの回答、完成させたポスターの発表等を通して、振り返りと相互評価を行っている。学校としても、毎回事業の検証を行い、次年度に向けて改善を図っている。

○学校全体として組織的に事業へ取り組む中で、地域の産業界との連携・協力体制が強まり、生徒の愛校心や郷土への理解と愛着が深まるキャリア教育の実践校として、群馬県立高崎高等学校を推薦するものである。

<千葉県> (種別：学校) 千葉県立泉高等学校

推薦理由

「地域連携アクティブスクール」の特色を生かし、地域の教育力を活用しながら、生徒一人一人の個性や適性に応じたキャリア教育を実現するために、組織的・系統的な取組を行っている。「学び直し」と「実践的なキャリ

ア教育」を柱に、生徒達が将来に向け、社会的・職業的に自立することを目指した実践を行っている。

<具体的な取組>

1 「学び直し」

学校設定科目「ベーシック」で、国語・英語・数学の3教科を、中学校の内容にさかのぼって学習する。教科担当者2名と大学生による学習ボランティア1～2名が授業に加わり、生徒の理解度の差をきめ細かくサポートしている。

2 「実践的なキャリア教育」

①インターンシップ（就業体験）

多様な就業体験の場を提供し、職業観、就業意識を育成する。キャリアコンサルタントの指導を加え、丁寧な事前学習を行っている。年に2回、全学年を対象に実施しており、生徒のニーズに合わせて複数の職場を体験することができる。

②社会形成能力の育成

社会人として求められる資質を早い段階から学ぶために、さまざまな外部団体と連携し、多彩なゲストを招いた特別授業を行っている。（最近の実績：盲目のバイオリニスト、新聞社局長）

③コミュニケーション能力育成

コミュニケーション能力を育てるために、ソーシャルスキルトレーニングや、面接指導等により3年間を見通してステップアップさせている。

3 地域に根付いた活動

学校と地域が力を合わせ生徒を育み、見守る関係作りができています。生徒達も清掃ボランティア活動や地域施設との様々な協力など、地域に根付いた活動に取り組んでいます。

以上の、学校の特色を生かした組織的・系統的な取組から、優良学校として推薦する。

【ホームページ】 <https://cms1.chiba-c.ed.jp/chb-izumi-h/>

<千葉県>（種別：学校）千葉県立大原高等学校

推薦理由

総合学科として「系統的かつ継続的なキャリア教育」を学校重点目標の一つとして掲げ、専門の分掌を設置している。また、入学から卒業までの3年間分のキャリア学習計画を策定・実施している。『10年・20年先の地域産業の担い手の育成』を目標に、自立した社会人になるための学習内容を、段階的に取り入れている。

<具体的な取組>

1 キャリア学習のための校務分掌の設置

・「キャリア学習部」を設置し、キャリア学習の計画・立案から実施・改善を行うとともに、各分掌及び各年次等との連絡調整業務を担う。外部連携の窓口ともなる。

・各年次に、キャリア学習部職員を1名配置するとともに、年次職員団から、実施担当者を1名選出している。

2 入学から卒業までの系統的かつ継続的なキャリア学習計画の策定・実施

・入学前からキャリア学習課題で将来について考えさせ、1年次に行う職業人インタビューにつなげている。

・2年次にはインターンシップを学年全員で実施し、生徒の就業意識の向上と自分の適正の把握を図る。

・3年次には、分野別進路学習や課題研究（自己の興味関心等についての研究活動）を通して、主体的に進路希望を実現する力を養う。

3 キャリア学習関連授業

・「産業社会と人間」における系列科目の体験授業、LHR等における先輩の経験を聞いてまとめるキャリア学習中間発表会等、学びや行事との関連性を考慮した系統的な学習がされている。

・選択授業「一般教養」で、地域で働く方を講師に招く授業を実施。2時間連続で行い、1時間目は仕事内容の講義、2時間目は実習、体験的活動を実施する。（講師実績：消防士、警察官、自衛隊、公認会計士、金融関係、葬儀業、ブライダルプランナー、ハローワーク等）

・「社会と情報」で報告書の作成を行う等、教科横断的な取組を実施。

以上の、総合学科の特色を生かした組織的・系統的な取組から、優良学校として推薦する。

【ホームページ】 <https://cms2.chiba-c.ed.jp/chb-oohara-h/>

 <千葉県> (種別：学校) 千葉県立姉崎高等学校

 推薦理由

主体的に課題を発見する力や創造性を養うため、地域参画を通じたキャリア教育を推進している。いちほら魅力向上塾や青葉台空き家・空き地管理センター準備委員会と協力し、学校周辺の地域課題である「空き家問題」に取り組んでいる。過疎化に伴う空き家の増加傾向に対し、空き家の活用と地域の活性化をねらいとした高校生オリジナルのカフェの出店を企画している。地域の特産品を生かした商品開発や資金調達、経営を行うためのビジネスプランの作成等、地域人材と連携しながら生徒主体でプロジェクトが進められている。

<具体的な取り組み> (令和2年度～令和3年度)

1 課題の発見～地域の過疎化に伴う社会的な課題を把握する～

・「いちほら魅力向上塾」主催の対話型ワークショップに参加し、地域住民と姉崎高校周辺地域(青葉台地区)の将来を議論(「将来、地域がどのような姿になってほしいか」)。

・地域(青葉台地区)の商店街のフィールドワークを行い、地域の魅力(地域の特産品)や課題(空き家の増加)を調査。

2 解決策の計画～空き家の活用と地域の活性化を両立する方法を考える～

・青葉台地区の自治会役員、市原市役所職員と「空き家の活用方法」についてディスカッション。

・青葉台町会協議会共催講演会において、市原市長にカフェ計画について高校生によるプレゼンテーションを実施。

3 解決策の実施～高校生によるオリジナルカフェの出店～

・カフェを出店する空き家の物件交渉、ヒアリング。

・商品開発と提携先(地元のいちじく農家、青葉台商店街)との交渉・契約。

・カフェ出店に関わる費用の調達(クラウドファンディング、広告用のウェブページの作成)。

・カフェの運営を進めていくうえでのビジネスプランの立案と検証。

・カフェの開店後には、地域交流の促進をねらいとした高校生による企画(書道部、美術部による作品の展示、吹奏楽部の公演等)を実施予定。

以上の、生徒が主体となって地域の課題と向き合う取組から、優良校として表彰する。

【ホームページ】 <https://cms2.chiba-c.ed.jp/anesaki-h/>

 <東京都> (種別：教育委員会) 足立区教育委員会

 推薦理由

足立区教育委員会は、教育大綱「夢や希望を信じて生き抜く人づくり」の下、「誰もが子どもを支える主役」「貧困の連鎖を断ち切る教育」をその実現に向けた2本の柱に据え施策を展開している。その中で子供たちが将来、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現できる力を育むことができるよう、発達の段階に応じたキャリア教育を推進している。

1 足立区版キャリア・パスポート「夢デザインシート」の活用

足立区では平成23年度から、小学校5年生から中学校3年生が使用する「夢デザインシート」という、ワークブックの活用を柱としたキャリア教育の推進を図ってきた。小学校及び中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編に示されたキャリア・パスポートの導入に伴い、これまでの成果と課題を生かして区立全児童生徒が活用するキャリア・パスポートとしての改訂を行った。

「夢デザインシート」の活用により、これまで各学校が取り組んできた教育活動を各学年の発達の段階と系統性を意識したキャリア教育の視点で捉え、区立全小中学校が共通のカリキュラムでキャリア教育を推進することができるようになった。

2 キャリア教育推進のための費用助成(キャリア教育支援事業)

各学校が実施する社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育むことができる活動等について、費用の一部を助成している。職業体験施設の利用、将来のキャリアに活用できる施設等の利用、キャリア教育に関連する講演会など、積極的に活用されている。

3 中学校における職場体験の実施

生徒が直接働く人と接することで、学ぶことの意義や働くことの意義を理解することができるよう、区立全中学校の2年生を対象に職場体験を実施している。生徒が実際の知識や技能に触れること、生きることの尊さを実感することを目的としている。

<東京都> (種別：学校) 世田谷区立尾山台小学校

推薦理由

推薦校は、世田谷区が目指す「せたがや11+～キャリア未来デザイン教育～」の趣旨を踏まえ、学校独自のキャリア・パスポートである「キャリアン・パスポート」や、全教科等で行うキャリア教育の研究を通して、「自分も他者も大切に、自信をもって挑戦する子どもの育成」を目指している。

1 「キャリアン・パスポート」

子供たちが、自分の役割を自覚しながら、目標の達成に向けて活動してきたことを記録し、蓄積していくことを目的として活用している。

学期の始めと終わりに1回ずつ「なりたい自分」をイメージし、そのために頑張ることを考える時間を設定している。教師は、子供たちが今の自分に合った課題を考えられるように支援し、肯定的なコメントを書き込むことで、児童の意欲を高められるキャリアカウンセリングを行う。

「キャリアン・パスポート」を通して教師が対話的に関わるキャリアカウンセリングを進めたことで、なりたい自分を目指して考えを巡らす児童の姿が見られた。

2 キャリア教育の研究

キャリア教育を通して身に付けさせたい力を次のように設定した。

- ①自分のよさに気付く力 (自己理解・自己管理能力)
- ②思いを受け止める力 (人間関係形成能力)
- ③思いを伝える力 (人間関係形成能力)
- ④チャレンジする力 (課題解決能力・キャリアプランニング能力)

上記の力を身に付けさせるために、キャリア教育を2つの場面に整理して実践している。

- (1) 日々の教育活動全てにおいて行う・・・身に付けさせたい力のつながりを意識できるよう、特別活動を軸にカリキュラム・マネジメントを行い、キャリア教育年間指導計画を立てたことで、効果的な指導につながっている。
- (2) 体験的な学習や事前・事後学習を計画的に行う・・・地域・外部人材と連携・協力し、体験的な活動を積極的に行っている。その際、事前・事後学習において振り返りカードを活用し、児童が自分自身の努力や成長を意識することで、キャリア教育の充実につながっている。

<東京都> (種別：学校) 稲城市立南山小学校

推薦理由

推薦校は、開校理念である「環境・防災・地域」を柱として、「学校・家庭・地域と協働して、子供が未来を創造し生き抜く力を育む」を学校経営のスローガンに掲げ、教育活動に取り組んでいる。令和元年度・令和2年度には、稲城市教育委員会教育研究奨励校の指定を受け、「自ら考え、生活や社会に生かす子を育てる～生活科・総合的な学習の時間を中心として～」を研究主題として、保護者や地域、企業の方々に御協力をいただきながら、児童が実際に話を聞いたり体験したりして学んだことを踏まえて、「生活や地域社会をよりよくするために自分たちができることを考えて取り組む」活動を単元に位置付け、その実践に取り組んだ。

1 総合的な学習の時間を中心とした起業家教育等

○目的

地域の人々の特産に対する思いや工夫や課題を把握し、児童が自分たちにできることを創造的に取り組み、稲城市に対する郷土愛を育むとともに、まちづくりに参画する態度やチャレンジ精神を養う。

○内容

(1) 模擬会社の設立に関すること

- ・「会社」「商品」「資金」の仕組みについて学習する。

- ・児童は、社長、副社長、経理部、広報部、販売部の役割に分かれて活動する。
- ・コロナ禍で対面販売が困難な場合においても実現可能な方法として、クラウドファンディングの仕組みを活用する。
- ・クラウドファンディングサイトや広報用のちらし等、工夫した広報活動を実施する。
- ・販売終了後に決算を行い、出資者へ返礼品（梨ケーキ、カレンダー、新聞）を渡す。
- ・出資金の残りは、梨の生産や観光促進のために、市へ寄付する。

(2) 地域人材を生かした教育に関すること

- ・税理士を講師として招き、会社のしくみや税を納めること、社会貢献をすることの意義を学ぶ。
- ・梨農家の方のお話を伺い、特産品としての歴史や魅力について学習する。
- ・地域のケーキファクトリーの方に稲城の梨を使った商品開発についての話を伺い、ラベルデザイン、マーケティングについて学習する。
- ・地元の出版社・編集プロダクションの協力を得て、カレンダーの作成、印刷・製本についての学習を行う。
- ・「ラベルデザインコンテスト」を開催し、活動の趣旨説明とともに梨ケーキのパッケージに貼るラベルの候補を紹介し、保護者や地域の方に評価委員として投票してもらう。

2 友好都市を生かした教育

友好都市である野沢温泉村の宿泊体験をきっかけに、野沢温泉村及び稲城市に暮らす人々の、地域の特産に対する思いや工夫や課題を把握する。

<東京都> (種別：学校) 東京都立瑞穂農芸高等学校

推薦理由

東京都立瑞穂農芸高等学校は、畜産科学科、園芸科学科、食品科の3つの農業科と家庭科の生活デザイン科をもつ専門学科高校であり、読む・書く・聞く等の言語活動の取り組みを充実させ、「考える力」の向上を図っている。また、自治体や地域の関連企業と連携してキャリア教育を推進し、自己の在り方や生き方を考えさせるとともに、望ましい勤労観・職業観を育成している。

(1) 地域自治体・企業との連携事業「養豚類型 瑞穂農芸ブランド豚肉開発プロジェクト」

畜産科学科（養豚類型）では、瑞穂町・酒造会社と連携し、廃棄される災害備蓄用クラッカーや酒造会社で生じる製造副産物を飼料として養豚に利用し、その豚肉を瑞穂町や酒造会社が流通させている。この活動は令和2年度「養豚類型 瑞穂農芸ブランド豚肉開発プロジェクト」として「第4回全国高校生農業アクション大賞」認定団体に指定されている。

(2) 水耕栽培メロンの JGAP 認証の取得

園芸科学科では、水耕栽培のメロンで JGAP 認証を取得し、学校の直売所のほか、地域の「高齢者福祉の直売所・商工会議主催のマルシェ」で販売している。このメロンは、東京オリンピック・パラリンピックの選手村に提供している。

(3) JA と連携した「瑞穂七色唐辛子」の製品開発

食品科では、町の産業振興のため、JA と連携して、江戸東京野菜プロジェクトを発足した。江戸東京野菜「内藤唐辛子」を栽培・改良し、「瑞穂七色唐辛子」の製品開発を行い、地域の「産業まつり」などで販売した。また、製品は地域のブランド商品に認定されている。

(4) 食品の製造・販売

食品製造では、畜産科学科や園芸科学科の生産物による牛乳やジャムの製造に取り組み、学校の直売所や地域の「産業まつり」などで販売している。また、生徒が企画開発した「瑞穂クッキー」は、地域のブランド商品に認定されている。

<神奈川県> (種別：学校) 神奈川県立平塚工科高等学校

推薦理由

【特徴的な取組について】

- 運営組織と目標等

・キャリア教育推進チームを組織することで、3年間を見据えた継続的なキャリア教育が実践できるようにしており、キャリア教育実践プログラムの作成、見直しを担っている。

・進路決定に向けて、生徒の目標を「計画立案」「軌道修正」「資格(キャリア)取得」「自分探し」「就業体験」の6つの視点で設定し、早期から将来に対する意識を持てるようにしている。

・キャリア教育の視点で、専門科目・総合的探究の時間等の教科教育、高大連携事業やシチズンシップ教育等の事業計画を行うことで、生徒が実践的なキャリア形成を目指すことができるようにしている。

○学年ごとに発達段階を踏まえたプログラム設定

・1学年では外部講師による講話により生徒は個々のライフプランを設計しつつ、社会福祉体験、労働法講習等により、社会への参画意識を醸成させることを目指す。

・2学年では自らのキャリア形成のために、資格取得計画や自らの希望進路のために必要なことについての確認を行い、より現実的なプランづくりを目指す。

・3学年では模擬面接等を行うことで自らが目標とする進路先への合格に向けた実践を重ねながら、社会人として必要なビジネスマナー等の学習を行うことで将来を見据えたキャリア形成を目指す。

○専門高校ならではの取組

・1年では系選択、2年ではコース選択を行う過程をキャリア形成と関連付けている。

・キャリア形成のために資格取得を推進してはいるが、職員主導とはせず、生徒自らで取得プランを作成させることで、自らの将来設計と現実の学習等の関係性を意識させるようにしている。

<新潟県> (種別：教育委員会) 糸魚川市教育委員会

推薦理由

糸魚川市では、0歳から18歳までの子ども一貫教育方針のもと、子どもを取り巻く大人たちが連携して協働し、「糸魚川の子どもたちは『ひとみかがやく日本一の子ども』である」と誇りを持てるように育む仕組みを整え、「18歳の自立」を目的に、キャリア教育等を通して、糸魚川への愛着形成にも取り組んでいる。

令和2年度、「キャリアフェスティバルいといがわ」を新規事業として開催した。当市に生まれた子どもが、幼児期から郷土愛を育む自然体験を経て、小学校低学年での地域学習、高学年の職場見学、中学校2年生の職場体験と積み重ねてきたキャリア発達を一層促す義務教育段階の集大成として「中学校3年生を対象」に、産学官が一体となって実施した。実施にあたっては、産学官で組織した実行委員会が主体となって、出展企業を募集したり、参加企業へ教育的意義を説明したりした。学校では、市内4中学校がそれぞれ共通の内容で事前学習を行い、高い目的意識をもって当日を迎えた。概要は次のとおりである。

・市内4中学校の3年生約300人が一堂に会し、終日参加した。

・生徒は、43の企業・団体が出展したブースを巡った。

・生徒は、大人と対話し、仕事に対する思いや誇りなどを聴いた。

開催前後で生徒に行ったアンケートから、市内で知っている企業数について、開催前は6～10件という回答が多かったが、開催後は11～20件と大きく増えた。また、市内の企業で働いてみたいと思うかについて、開催前では「あまり思わない、全く思わない」という回答が半数以上であったが、開催後は「少し思う、思う」の回答が8割を超えた。更に、事後の記述アンケートから、「たくさんの企業があることに驚いた」「真剣に頑張る大人を初めて見た気がする。本当にかっこよかった。」「将来、糸魚川で働きたいという思いが強くなった」など、好意的な意見が多かった。参加企業からも子どもの生の声を聞くことができ、とても良い機会だったとのことで、産学官が連携した好事例となった。

さらに、この事業に参加した中学校3年生が高校進学後、郷土愛を大切にしながら、総合的な探究の時間に取り組み、地元企業とともに地域の課題を解決する資質・能力の向上につなげている。

この事業は、令和3年度以降も継続して実施する予定にしている。

<新潟県> (種別：学校) 上越市立高士小学校

推薦理由

(1) キャリア教育を中核とした教育課程の編成

・平成19年度から、郷土の偉人である「川上善兵衛」の生き方を学ぶ「善兵衛学習」を教育課程の中核に据え、今年度で15年目となる。

・1、2年生の生活科、3～6年生の総合的な学習の時間を「善兵衛学習」として位置付け、小学校6年間で発達段階に合わせて、地域の「ひと、もの、こと」に触れることで、「川上善兵衛」の生き方を学び、地域への理解や愛着、誇りを育んでいる。

(2) キャリア形成を図る実体験の取組

・1、2年生はヤギの飼育や野菜栽培の体験を通して、ぶどう栽培に力を注いだ「川上善兵衛」を身近に感じる活動を行っている。

・「川上善兵衛」が開いた「岩の原葡萄園」や地域の方から直接指導を受け、学校のぶどう棚を毎年3・4年生が受け継ぎ、実際にぶどう栽培を行って今年度で27年目となる。

・毎年5・6年生が「岩の原葡萄園」で職場体験を実施するとともに、「川上善兵衛」とかかわりのある山梨県の「登美の丘ワイナリー」を修学旅行で訪れ、環境や栽培方法の違いを学んでいる。

(3) 郷土愛を深める取組

・毎年、「川上善兵衛」の足跡を巡る遠足を縦割り班で実施することで、「川上善兵衛」の功績と地域のよさを再発見している。

・1年間の「善兵衛学習」の成果をパンフレットにまとめ、学区内のほか、他地域へ発信し、地域活性化に貢献している。

(4) その他

・平成30年度から2年間、新潟県で実施している「夢や希望をかなえる小学校キャリア教育モデル事業」のモデル校である。

<新潟県> (種別：学校) 長岡市立小国中学校

推薦理由

平成16年の新潟県中越地震の発生で大きな被害を受けた当校は、「地域を元気づけよう」と平成17年10月に地域貢献活動を開始した。そして、平成21年度、この地域貢献活動を基に「おぐにカンパニー」という組織を構築し、キャリア教育として、地域への積極的な関わり、生徒の郷土愛や主体性の伸長、地域の活性化に取り組んできた。

「おぐにカンパニー」は、生徒による組織である。PDCAサイクルにより、その体制を進化させながら、今年度13年目を迎えている。

令和2年度は、新型コロナ対策のため、年度初めの大切な営業活動は、チラシをポスト投函することにし、地域施設等での交流活動を中止した。その結果、地域からの依頼も減少した。しかし、そんな中、生徒は主体的に新たな活動を模索した。CM制作のために博報堂教育財団とのリモート会議を実施したり、長岡市おぐに森林公園の目玉となるお土産のカブトムシ幼虫を手分けして自宅生育したり、マスク製作をして地域の施設へ配付したりした。社会的な状況に合わせて、工夫した取組を進めることができた。

令和3年度は、「おぐにカンパニー」の組織をさらに改革し、運営本部（広報部・総務部）と活動部（防災・防犯班、アグリフード班、伝統文化班、地域活性化班）とした。毎週木曜日を総合的な学習の時間をこの時間に充てている。「おぐにカンパニー」の長年の取組は、小国地域に根付いており知名度も高い。また、地域の未来を担う人材育成として期待されている。

運営本部は、生徒の社長、副社長を中心に、活動の総括と広報活動を行っており、事前指導や取材活動、新聞発行やまとめ等、主体的に活動している。

活動では、地域の諸団体との連携も充実している。NPO 建築・住教育研究会、おぐにコミュニティ協議会、長岡市食生活改善推進協議会、小国和紙組合、チームおぐに、長岡市おぐに森林公園、福祉施設、保育園等である。

このように、地域を担う人材育成の視点から地域諸団体との連携が構築され持続可能な継続的な活動である。

 <新潟県> (種別：学校) 新潟県立阿賀野高等学校

 推薦理由

当校は、地域住民や企業と連携・協働して地域課題の解決に取り組む学校設定科目や、自己の在り方生き方についての自覚を深める総合的な探究の時間をとおして、新しい価値を創造する力や郷土愛を育むキャリア教育を実践している。取組をとおして「進路実現に役立った」という考えを持つ生徒が増加するとともに、地域活性化への貢献意欲が高まるなど生徒のキャリア発達の成果につながっている。

【地域探究の取組】

1 総合的な探究の時間

キャリア教育の視点も踏まえた自己理解や他者との人間関係を育成するソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンター等の取組は、地域社会に主体的に参画する態度の育成につながっている。

2 学校設定科目

- (1) 「自分デザイン」(1年)：地域で活躍している方の講演や地域調べ学習により地域の良さや課題を知る学びを行い、これらを人間関係づくりや自己発見などの学びと結びつけ、自分の将来について考える態度の育成を図っている。
- (2) 「未来デザイン」(2年)：阿賀野市の経済同友会からの支援を得て5日間のインターンシップ活動を実施し、コミュニケーション能力や職業観・勤労観を育成するとともに、地域産業への理解を深め、地域の期待に応えようとする意欲を育んでいる。
- (3) 「地域デザイン」(3年)：阿賀野市の企業と共同で地元の食材を利用したコラボメニューを開発し、地元観光施設で販売を行っている。この取組により、新しい価値を創造する力や地域の様々な人と関わりながら地域活性化に参画しようとする態度を育んでいる。

※校内居場所カフェ：生徒が地域の大人と気軽に話や相談ができるスペースである居場所カフェを校内に設けた。地域の人の生徒に寄り添ったアドバイスを得ることが生徒の自己有用感を高めることや地域への愛着を持つことにつながっている。

これらの取組を評価し推薦する。

 <富山県> (種別：学校) 南砺市立井波小学校

 推薦理由

地域の諸団体と連携して数々の体験活動を行う中で、児童は、地域のすばらしさを知り、地域を誇りに思う気持ちを高めている。また、調べたことを授業参観、学習発表会等の場で発表し、「ふるさと井波」のよさや課題を地域に発信している。これらの活動を組織的・系統的に進めながら、身の回りの仕事や環境への関心・意欲を高め、将来の夢や希望に向かって努力を継続する児童の育成に努めている。

1 地域の伝統的な産業や文化、自然、そして関わる人について考える取組

調べたことをまとめ、地域に発信することで、地域の中の一員として自己の役割と責任を果たすことの大切さを学んでいる。

- ・ 2年生：生活科
「ふるさと井波」をもっと知ろう(まち探検、井波の民話等)
- ・ 3年生：総合的な学習の時間
「ふるさと井波」の特色を知ろう(里芋農家、井波彫刻実演工房等)
- ・ 4年生：総合的な学習の時間
「ふるさと井波」の問題を考えよう(ごみ問題、水問題)
- ・ 5年生：総合的な学習の時間
「ふるさと井波」の食や命について考えよう(米作り、新商品の提案)
- ・ 6年生：総合的な学習の時間
「ふるさと井波」を支える人について知ろう(井波彫刻体験、彫刻師指導による卒業制作)

2 地域の後継者問題について考える取組

体験活動や交流活動を通して、地域が抱える課題やその課題解決のために尽力している人々の存在に気付き、

自分たちにできることを考えることで、地域の一員としてふるさとの未来を考え、働きかけることの大切さを学んでいる。

- ・ 4年生：総合的な学習の時間
よいやさ祭り…取材活動、祭に携わる方の講話、学習発表会での神輿、巡業の披露
- ・ 6年生：総合的な学習の時間
木遣り踊り …踊りを復活させた方の講話、踊り体験、市長への提言

<富山県> (種別：学校) 滑川市立早月中学校

推薦理由

四つの基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）をバランスよく育成するため、学校の教育活動全体を通じて、計画的、組織的、継続的に行っている。

1 道徳科との関連を図った系統的なキャリア教育

(1学年) 自分を見つめる【自己理解、将来への希望】

- ・ 中学校生活に適応し、自己理解の活動を通して、自己の長所を伸ばす意欲や態度を養う。
- ・ 身近な職業について調べ、自己の進路に関心を高める。

(2学年) 自分を啓発する【自己啓発、働くことと生きがい】

- ・ 自己の特徴を知り、調和のある人間として努力する意欲をもつ。
- ・ 社会に学ぶ「14歳の挑戦」への取組や、上級学校調べを通して、望ましい勤労観や職業観を育てる。
(R2は、「14歳の挑戦」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止)
- ・ 福祉・介護体験を通して、他者の考えや立場を理解し、協力・協働して社会参画する態度を育てる。

(3学年) 自分を生かす【自己実現、適切な進路の選択】

- ・ 自己の特性を総合的に捉え、進路志望が具体的になるようにする。
- ・ 自分の適性と能力を生かした進路を決定し、その実現に向かって努力する。

2 「科学の時間」におけるキャリア教育

- ・ 科学の達人講座として「南極授業」を行い、体験談を聞いたり映像を見たりする。
- ・ 出前授業として、農業体験学習を行い、滑川市農業公社から講師を招き、畑の土づくりや畝づくりから指導してもらう。
- ・ 科学ラボとして、電池づくりを行い、電極や水溶液に何を使えば電圧が大きく安定した電池を作れるかを実験を通して学ぶ。
- ・ 技・家ラボとして、亜鉛メッキ鋼板を板金加工し、チリトリを製作する。(ものづくり)

3 「チャレンジ! 起業体験」の経験を生かしたキャリア教育

- ・ 技術科の花栽培や野菜の栽培をもとに、生産から販売に至るまでの会社を起業し、キャリア教育を行う。
- ・ 農業公社や園芸農家と連携し、栽培の技能だけでなく、会社経営や販売の知識を学び、栽培に必要な場所等の提供も受ける。
- ・ 現在はキャリア教育の一環として、技術科を中心として花の苗を栽培し、文化祭等での販売を行っている。

4 地域の施設との交流

・ 生徒会専門委員会のJRC (Japanese Red Cross) 委員会と有志の生徒が、高齢者福祉施設「なごみ苑」の運動会、納涼祭等の際に訪問し、ボランティアとして手伝う活動を10年以上続けている。ボランティアを通して、職員の働き方や自分の興味の幅を広げ、自分の生き方を考えていこうとするキャリア発達を促すきっかけになっている。

<富山県> (種別：学校) 富山県立南砺福野高等学校

推薦理由

普通科、国際科、農業環境科、福祉科からなる総合制高校として、各科が自治体や企業等と連携した地域課題の解決に取り組んでいる。普通科も積極的に体験等を伴うキャリア教育を推進しており、学科間の連携も行

っている。生徒の3年間を見通したキャリア教育を行っており、コロナ禍においても、企業訪問や講師の招聘が難しい場合は積極的にオンラインを活用するなどの工夫をしている。

1. 職場見学・職場体験・インターンシップ

普通科では生徒が希望するコースを選んで体験研修する「富山の企業魅力体験バスツアー」などにより、生徒の進学後の将来を見通したキャリア教育を行っている。

普通科・国際科では全員保育体験を実施している事に加え、希望者には、看護体験・介護体験にも参加させている。

国際科では、米国シリコンバレーとオンラインで接続し、将来や企業について討論する「富山の企業人に学ぶオンラインフォーラム」に32名の生徒が参加し、生徒の主体的な進路選択に繋げている。

福祉科では高齢者福祉施設や障害者福祉施設等での介護実習に取り組んでおり、「介護の日」には「介護の日フェスティバル」に参加し情報発信を行っている。介護福祉士国家試験に3年連続で全員合格した。

2. 地域と連携した取組や地域課題解決に向けた取組

高校生が主体となり、1千万円で南砺市の新しい何かを企画・運営するプロジェクト『高校生が創る“南砺をつなげる”プロジェクト』に生徒が参加し、南砺市・他校生徒とも連携しながら企画を進めている。

普通科と国際科ではフィールドワークや取材等を通して地域と連携した地域課題解決学習を行っており、発表会を2学科合同で行っている。

国際科では、外部講師の特別授業に「スタディサブリ ENGLISH」を活用した実証事業を取り入れたり、南砺市と連携した出前講座を行ったりしている。また、台湾の高校生とのSDGsに関する協働学習にも取り組んでいる。

農業環境科では、関係機関等と連携して、富山県ブランド米のスマート農業を活用した実証実験や林業現場体験等に取り組んでいるほか、干し柿・電照ギクなど地域特産品の生産技術を確立し、生産から販売まで一貫した農業経営について実践的に取り組んでいる。

福祉科では、生徒による地元施設等でのボランティア活動や県の福祉イベントへの参加のほか、コロナ禍においても施設等と感染症対策を協議して110以上の施設で看護や介護のインターンシップを行った。

<富山県> (種別：PTA 団体等) 富山大学人間発達科学部附属中学校 PTA

推薦理由

本校では、2年生の生徒が県内各地の職場を訪問し、3日間職業体験を行うことを通して、働くことの意義や職業観を養い、将来の自己形成について考える機会とする「職場体験」という活動を行ってきた。本校PTAは生徒が体験を行う事業所等の確保に協力をしてきた。しかし、昨年度に引き続き今年度も、コロナ禍のため中止となった。そのため、PTAが主体となって、職場体験の趣旨を踏まえ、内容を工夫し、代替事業として「14歳のゼミナール」を企画・実施した。

内容は、大学講義の学びをイメージしたもので富山県内のさまざまな場面で活躍する社会人に講師を依頼し、生徒に向けて講演をしていただくというものである。講師は、本校OB、PTA会員、富山大学、富山市役所、地域企業に依頼し、10講座を開設した。講座の演題は「お金のお話」「弁護士の仕事」「SDGs未来都市とやま」「ITの世界」「研究者の仕事とわたしの研究」「コンビニの仕事」「スポーツドクターから14歳のみなさんへ」「建設業の魅力」などバラエティー豊かなもので、経済、医療、研究、建設、運輸、情報等さまざまな分野の話を聞けるようにした。その中から生徒は2講座を受講した。座学だけではなく、実験や測量などの体験を取り入れた講座もあった。コロナウイルス感染症対策として、講師はマウスシールドを着用し、一講座の参加人数の上限を35名として少人数で実施した。また受講人数に応じて広いスペースの会場を用意し、三密の回避に努めた。グループ単位で講義を聞くことで、講師をより身近に感じ、生徒たちの職業についての疑問や考えを講師とともに語り合える場となった。学校とPTAが事業の目的を共通理解し、キャリア教育の目的に沿って講師と綿密な打合せを行った上で実施したことで、職業紹介に終わることなく、有意義なものにすることができた。

また、実施にあたっては、教員の負担を減らすため、PTAが主体的に講師接待、紹介などの運営にあたった。

 <石川県> (種別：教育委員会) 羽咋市教育委員会

 推薦理由

羽咋市教育委員会では、第5次羽咋市総合計画 2011～2020 に基づき、体験活動の充実を通じたキャリア教育の推進を開始し、体系づくりに着手、PDCA サイクルを回しながら、年度ごとに発展させた。第6次羽咋市総合計画 2021～2030 において、市の各課（総務課、商工観光課、観光安全課等）及び地域の事業者と連携した教育施策を進めている。

【導入：地域の特色を「学ぶ」】

小学校においては、主に総合的な学習の時間の中で、千里浜に関わる地元の人々、大工や和菓子職人、羽咋市の地域整備課の職員、農業に携わる人々など地域の職業に就く人々と関わりながら、特色ある産業・文化、自然について学ぶ体験的な活動を実施している。

【提案：地域の未来を「考える」】

中学校においては、職場体験活動により自立への意識を高め、その上で地域の専門家とのディスカッションや生徒同士のワークショップによって個々の学びを深めたり、事業所等への提案を作成したりしている。

【実践：生徒による提案の「具現化」】

生徒の提案を具現化する取り組みとして、観光パンフレットの作成や和菓子の新商品開発など、地域の事業者へ提案を行っている。さらにコンペティションにより選定されたアイデアを、生徒によるデザインの検討や販売までを行う取り組みとして深化させている。

【発展：「夢の実現」をイメージ】

中学校三年生の修学旅行において、地元小松空港の国際線フロアからのチャーター便にて、上空から郷土を周遊し、石川県民・羽咋市民の一人としての思いを深めた。また、英語による機内放送・グランドスタッフ体験、現役CAや整備士から夢を叶えるために努力した話を聞く機会を設けた。コロナ禍においても、さまざまな職業の人たちが連携し実現した修学旅行を通して、使命をもって働くことの素晴らしさに思いを深める場を設定した。

【継続：PDCA サイクル】

この一連の取り組みを、後輩や保護者、地域の先生の前で発表し、ディスカッションする機会を設けることでPDCA サイクルを構築し、次年度以降もより洗練された取り組みとなるよう工夫している。

 <石川県> (種別：学校) 石川県立七尾東雲高等学校

 推薦理由

【学校の概要及び教育目標】

本校は、機械システム科、演劇科、総合学科の3学科からなり、総合学科には農業系列とビジネス系列の2つの系列がある。この4つの専門分野で、学科・系列の強みを生かした指導を行っている。専門教育を大切にしながら自分で考え判断・行動できる力の育成と、社会性・規範意識を高めふるさとを愛し地域貢献する心の醸成を目標に、授業の成果を地域と連携した各種事業に生かし、その活動を通して授業で得た知識や技能の確かな定着を図るとともに、地域とのかかわり方を自ら考え、実践・貢献できる人材の育成を目指している。

【起業体験に係る取組】

- ・七尾商工会議所ななお経営支援センター、のと共栄信用金庫、日本政策金融公庫からなる「ななお創業応援カルテット」による創業支援実績や具体的な活動内容についての講義を受ける「創業支援講座」を実施。(総合学科ビジネス系列3年生31名、2年生36名)
- ・日本政策金融公庫の協力により高校生ビジネスプラン・グランプリに応募。H28年には「学校オーナーショップ～能登の風味を真心で全国へ～」のプランで高校生ビジネスプラン・ベスト100を受賞。(総合学科ビジネス系列3年生)
- ・七尾市商工観光課が行う観光ビジネス講座で、七尾市の地域を支える観光産業やスポーツ交流について学び、観光の仕事、七尾市観光業の現状などを考える取組を実施。(総合学科ビジネス系列2年生36名)

【地域連携、地域の課題解決、地元への理解と貢献、地域人材育成】

- ・「シトラスリボン」プロジェクトを作り、新型コロナウイルス感染症に関する差別や、偏見をなくす地域活動を

実施。

- ・工業科、総合学科農業系列の生徒が授業で、地元企業から助言をいただき、地域の課題である人手不足対策や業務量軽減ができる農業環境制御システムの製作する事業を実施。
- ・専門家や高度熟練技能者が旋盤技術、溶接技術、フラワーアレンジメントの技術指導を行い、地域を担う人材を育成。

【企業実習】

- ・平成 22 年度より長期間企業実習（デュアルシステム）を継続して実施しており、インターンシップも毎年実施。

<石川県>（種別：学校）金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

推薦理由

当校は、平成 26 年度から 28 年度まで文部科学省「キャリア教育・就労支援等の充実事業」を受託し、児童生徒の社会的・職業的自立を目指してキャリア発達を促すために教育課程や授業、進路指導の在り方について研究し、その成果を上げた。また、その知見を元に平成 30 年度から令和 2 年度にかけて文部科学省「特別支援教育に関する実践研究事業」を受託し、新学習指導要領に示される資質能力の育成に、キャリア教育の視点を持ちながら取り組んだ。

それらの成果は毎年、教育研究会や研究紀要を通じて全国に発信している。

具体的な取組

- ・小中高等部における児童生徒のキャリア発達を促す授業づくり
- ・作業学習アドバイザーの招聘、大学医学類図書館カフェの設置による実践的な作業活動、大学に雇用される障害がある社会人との共同作業等の作業学習改善
- ・就労移行支援事業所と連携した、企業就労希望者対象の就労アセスメント実習の導入による進路指導改善
- ・各学部においてゲストティーチャーを招聘し本物の知識や技術と触れる学習や地域との共同・協働学習の展開

児童生徒は多様な人と関わりながら学習することを通じて、それぞれの役割を果たす事の大切さを知り、自己効力感を高め自信を育てることができた。特に高等部生徒においては職業理解と自分に対する理解を深めながら卒業後の生活に向けて主体的に学習する姿が見られた。

また、令和元年度には当校教員が中心となりキャリア発達支援研究会の全国大会を開催し、特別支援教育におけるキャリア教育の充実に寄与している。

<福井県>（種別：学校）小浜市立小浜第二中学校

推薦理由

小浜市の中心部に位置し、約 400 名の生徒を有する当校では、スクールプランの最重点課題に「キャリアデザイン力の育成」を掲げる。全ての学年で様々な学習や地域人材との交流をキャリア教育と連動させ、多様なキャリア教育を展開する。

<取組>

1 年生「命の学習～つながりかかわりの価値発見～」

命のつながりをテーマにキャリア教育を展開する。地域人材の協力を得て行われる助産師講演や妊婦体験を通して「生まれる命」について考える。一方、先人や障がい者、高齢者介護従事者など、多様な人の生き方に触れることで、自らの生き方を見つめる。「命」を見つめる一連の探究活動で学びを深め、2 年時以降の「生き方探究」につなげる。

2 年生「地域との触れ合いや貢献を通して探る、働くことの魅力」

小浜市長や市職員と協働して「ふるさと小浜の活性化」をテーマに、自分が地域と関わりながらどう生きていくかを考える活動を展開。また、専門技術者とともに学校環境整備を進める「二中プロジェクト」を独自に企画実践。「他者のために働く」意義を実感することによるキャリア形成をはかる。SDGs に取り組む地元企業によるキャリア講演会や立志式等を通して自らの生き方を考え、地域・保護者へも発信する。

3 年生「地域の課題改善を通して考える、人生プラン」

生徒会主体となり「働く人への感謝プロジェクト」をすすめ、2年時に職場体験でお世話になった企業で働くエッセンシャルワーカーへのメッセージを贈呈。「ふるさと小浜」の地域活性化に関する課題を話し合い、オンラインで東京在住の国会議員に発信した。地域コーディネーターのアドバイスをもとに、自分の今の生き方とこれからの生き方について考えを深め、「人生の設計図」としてまとめ、タイムカプセルに保存した。

このように、地域と一体となり学校全体でキャリア教育に取り組んでいる。地域の課題探究や地域貢献、生き方探究を通して系統的、組織的にキャリアプランニング力の育成をはかっている。

<福井県> (種別：学校) 福井県立高志中学校

推薦理由

福井県立高志中学校は、高志高等学校との併設型中高一貫校として、平成27年度に開校した。『ふるさと福井』への誇りとグローバルな視点を持ったイノベーターの育成』を目標に設定した「高志学」で、キャリア教育を一つの柱として全学年で系統的な取組を展開し、福井の発展に資する課題研究に取り組んでいる。

<取組>

・1年生：リレー講座の実施

福井経済同友会から推薦された県内企業10社、および福井県立大学の教員による講座を年間を通して実施。生徒は、福井県の特徴や各企業の取組について学習するとともに、福井県が抱える課題等についても学び、以後の課題研究につなげる。

・2年生：県内研修の実施

県内各地でまちづくり等に携わる人や伝統工芸士等を訪問し、歴史や伝統を大切にすることや新しい文化を生み出すことについて直に学び、新たな社会の創り手としての意識を高める。

・2年生：県内企業等でのインターンシップ

11月中旬に、3日間連続で実施。企業での業務に関して様々な体験をし、社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度を身につける。

・2年生：「福異人研修」の実施

3月の東京研修で、福井県出身で東京在住の企業人等との懇談（課題研究の発表等を含む）を通して、社会に対する問題意識を更に深める。

・3年生：フィールドワーク、実習等の実施

夏季休業中を中心に、自分の研究テーマに関連する企業や行政機関等を訪問し担当者インタビューをしたり、「1 day cafe」等を運営するなどの実習を行う。

・3年生：課題研究の論文作成

これまでに調査・研究してきた内容を基に「福井県の発展に資する提言」としてまとめ、約8,000字の論文を作成する。

<福井県> (種別：学校) 福井県立福井南特別支援学校

推薦理由

福井県立福井南特別支援学校は、自立と社会参加に必要な知識と技能、態度を身に付けた生活力ある生徒を育成することを目指し、地域の人材を外部講師として積極的に活用する等、より専門性の高い指導を取り入れた実践を行っている。

<取り組み>

・小学部「チャレンジタイム」と「みなみ商店」

小学部低学年から、障がいの重い軽いにかかわらず、それぞれの児童生徒が何らかの役割を担い、その子らしく集団の一員として認められるようにしている。また、小学部では、月曜から木曜の午後「チャレンジタイム」として簡単な仕事を行い10円のお給料をもらい、金曜午後に開店するみなみ商店で買い物をしている。中学部においても作業学習、生活単元学習にて、年間を通して仕事、報酬のしくみを理解できるようにしている。

・進路先決定までの職場体験、職場見学、産業現場等における実習

中学部の職場体験、高等部1年の職場見学を経て、産業現場等における実習での実習先選定や、進路選択の参

考にする。高等部産業現場等での実習では、2～3週間程度を三年間で5回、一般企業や福祉事業所にて適正、課題を確認しながら実施し、高等部卒業後の進路実現につなげている。

・地域とつながる高等部作業学習

高等部全生徒が10の作業班（清掃、園芸、事務サービス、窯業、農耕、レザー・縫製、木工、等）に別れて学ぶ作業学習では、外部専門家を積極的に活用し、知識・技能、態度を身に付けている。清掃班では、生徒同士が教え合い評価し合い高い技能を身に付け、地域の公共施設や工場に出向いて奉仕活動を行っている。レザー・縫製班では、地域企業の協力の下、老若男女に喜んでもらえる製品を商品開発し安価に製作、イベントでの出店、公共施設や喫茶店での委託販売を行っている。窯業班は、各種団体からの依頼で指定の製品を作って販売する受注販売も行っている。商品入替えや市場調査のための校外学習を授業の一環として行っている。園芸班が育てている校門花壇は、フラワーブラボーコンクールに応募し、毎年優秀な成績を収めている。障がい者技能コンクールアビリンピック大会では、ビルクリーニング部門とオフィスアシスタント部門で毎年金賞を受賞し全国大会に出場している。

・高等部 先輩と語る会

本校高等部卒業生を学校に招いて、日頃の就業や生活の実態にまつわるエピソードを話してもらおう。生徒はエピソードを聞いて、卒業後の生活を主体的にイメージして、進路選択の参考にする。

<福井県> (種別：PTA 団体等) 福井市円山小学校 P T A

推薦理由

当該校では、2012年度から福井市商工会議所青年部の職業に関するキャリア教育プログラムを実施してきた。その後、PTA執行部から「子供たちの親が講師となって、直接働くことの喜びや苦勞、働くことの意義や生き方などについて伝えられたら素晴らしい」「子供たちは自分の親や友達の親の仕事のことを全く知らない。どんな仕事をしているのか、どんな思いで働いているのかを知ってもらえるとよい」との声が高まり、2014年度から、PTAが主体となり、学校と協働して、キャリア教育に関する職業講座を計画・実施している。その活動は改善を加えながら、今日まで継続している。

<取り組みの詳細>

11～12月

PTA会長名で、6年生の保護者対象に講師を募集する。毎年約6～8名の保護者の応募がある。

12月

講師応募者対象に、教務主任や6学年主任も参加して説明会を実施する。キャリア教育の目的や意義などについて共通理解をはかる。

1月

プランニングシートやマニュアルをもとに計画を進める。希望者を対象に、6年生担任と協働してリハーサルを実施し、よりよいワークショップ型授業ができるよう準備する。

本番当日は、PTA執行部役員が中心となって運営する。約90名の児童が10～15名程度に分かれて、2交代制（1コマ40分）で希望した2つのワークショップに参加し、体験などを通して働くことの意義を学ぶ。

これまでに、医療従事者、会社経営者、販売関係者、営業職、工業従事者、広告業など、20種以上の多様な業種にわたる保護者の協力を得ている。

<山梨県> (種別：学校) 山梨県立白根高等学校

推薦理由

山梨県立白根高等学校は、卒業生の進路の約9割が進学、約1割が就職である。うち8割が県内への進学・就職で、地元志向の強い学校であり地域を支えていく人材を育成する使命を担った学校であると言える。それを踏まえ「働くことの意義や目的、職業についての理解を深める」、「自己を見つめ進路目標を明確にし、学習意欲を高める」ことを目標としキャリア教育に取り組んできた。平成16年度からは生徒全員（2年生）が参加するインターンシップを取り入れ、3年間を通じたキャリア教育の充実を図ってきた。

また、実践発表会等を通じ、県内高校への研究成果の周知にも努めている。

【取組の概要】

山梨県教育委員会は、白根高校を令和2・3年度山梨県高等学校「キャリア教育推進実践研究校」に指定した。研究主題を「”HAPPY”自分らしさを活かした人生をめざして」とし、インターンシップや課題研究等を通じ、基礎的・汎用的能力の育成や、自己肯定感の醸成を目指した研究を進めている。令和3年度からはコミュニティスクール（学校運営協議会制度）が導入され、地元企業との連携をさらに進め、地域を担う人材育成を目指している。

○具体的活動

①今日的・現代的なテーマについて、話し合いや発表等を行い、正解の無い問いに取り組む（AI、仕事について等）。その際、設定テーマを教科横断的に学習（名称 クロスカリキュラム）することも取り入れ、多面的に物事を捉えたり考えたりする視点や方法を学ぶとともに、主体的な課題発見、問題解決に取り組む。3年間を通じ様々なテーマに取り組み、基礎的・汎用的能力の育成を目指す。

②インターンシップ 2年生全員が参加するインターンシップに向け系統的な指導を実施する。1年生では適性検査、地元の企業を招いてキャリア教育ワークショップ、分野別職業体験、分野別職業人講話等を実施。2年生ではインターンシップ事前学習（キャリア基礎講座、ビジネスマナー講座）後、7月下旬からインターンシップに参加する。事後学習（礼状作成、インターンシップレポート作成）、クラス毎の報告会を行う。その後の代表者による報告発表会には1年生も参加する。

○研究の評価（生徒アンケート実施）

キャリア教育推進実践研究校研究主題の「”HAPPY”自分らしさを活かした人生をめざして」に基づき、「自分はどうような人間になり、どのように生きていくことが幸せか」を検証するため、先行研究されている「幸せの因子」と、キャリア教育の目指す「基礎的・能力」を合わせた「キャリア・幸せ因子」アンケートを開発し、定期的な実施、検証の指標とする。

アンケート結果から、基礎的・汎用的能力や自己肯定感の醸成などについて、課題を明確化し3年間を通じた継続的な指導を実施する。

<長野県>（種別：学校）長野県塩尻志学館高等学校**推薦理由**

塩尻志学館高等学校は明治43年に創立、平成12年に普通科・園芸経済科・食品加工科・家政科を統合し、多種多彩な教育実践を継承した総合学科を設置。「キャリア教育」を学習の幹とし、3年間の系統的・体系的なキャリア学習を展開。地域・企業と結び付いた『シオジリ学』への取組、他校種と連携した体験的・実践的な学びを推進している。

また、キャリア教育推進部が中心となり、キャリアパスポートを活用して小学校・中学校とつながりを持ったキャリア学習を展開し、学習の積み上げを行っている。「産業社会と人間」「キャリアプランニング」「キャリアデザイン」「総合研究」を通じ、集団の教育から個々の生徒と向き合う教育を目指し、一人一人が自分の進路や将来を考えられるようなカリキュラムを実践している。

【主な取組】

1年次 「産業社会と人間」

総合学科の特性を生かし、農業・工業・福祉の体験学習や、各大学や企業から講師を招いた講演会を実施している。

「シオジリ学」

塩尻市産業政策課やNPO法人スナバと連携し、「職業発見・理解」に対する学びを深めている。地域の文化・産業・自然への理解を深め、社会の変化に目を向け、主体的に生きる力を養っている。

2年次 「キャリアプランニング」（シオジリ学2nd Stage）

就業体験や研修旅行等により進路意識を向上させ、社会と主体的に関わり、発展的な進路意識を育てる。

3年次 「キャリアデザイン」

3年間で積み上げてきた学習活動を基に、未来の社会と自分の関わりを考え、総合研究発表会を実施している。

同校は多様な学びを提供する学校として、「キャリアデザイン」を意識した学校運営を展開している。キャリア教育をグランドデザインに取入れた学校づくりを実践するモデル校として、推薦に値すると考える。

【ホームページ】 https://www.nagano-c.ed.jp/kikyo/img/R3_Granddesign.pdf

＜岐阜県＞（種別：学校）関市立小金田中学校

推薦理由

本校では、地域の教育資源と連携した道德教育の充実に取り組んでおり、地域とともに人材育成を進めている。地域連携コーディネーターを核に、学校運営協議会など地域と連携を深め、願う生徒像を共有したことで、付けたい資質能力を明確にし、意図的・計画的に実践を続けている。

（1）ふるさとSAVE活動の継続的な取り組み

S：清掃 A：挨拶 V：ボランティア E：エコ の頭文字をとって地域密着型の活動を推進している。

S：清掃では、毎年6月に校区の清掃をPTA、各自治会と連携して行っている。A：挨拶については、学校内外での挨拶活動を生徒会が中心となって進めている。V：ボランティアについては、地域のイベントや植栽などの活動に積極的に参加している。E：エコについては、リサイクル活動の充実に努めている。これらを学校の特色ある教育活動の柱として位置付け、継続的に取り組むことにより、地域に貢献する活動として定着してきている。

（2）ふるさと学習の充実

一般社団法人「GLIP」との連携により、ふるさと関のよさを見つめ、中学生として地域にどのような貢献ができるかを考える学習を進めている。これまで、生徒会代表・教職員・PTA役員を交えて「おとなこどもサミット」を開いて意見交流したり、地元出身の作家・栗山圭介氏の短編小説「未来のための、ふるさとづくり」を資料とした学習を取り入れたりするなど、将来にわたって地域を支える人材づくりの土台としてのふるさと学習の充実に努めている。

【成果】

地域行事への中学生実行委員としての参画、合唱部等の発表参加、当日のスタッフとしての参加など、生徒の主体的な活動を継続的に生み出すことができた。

＜静岡県＞（種別：教育委員会）浜松市教育委員会

推薦理由

1 キャリア教育を核とした人づくりの推進

第3次浜松市教育総合計画 後期計画(R2～R6)において、「キャリア教育を核とした人づくりの推進」を掲げ、キャリア教育を通して自分や浜松市の未来を創り出せる子供の育成を目指している。

幼児期から大人までの学びのつながりを大切にしながら、各学校・地域ならではの「学びの素材」を生かした教育活動を推進し、園・学校、家庭、地域、行政が一体となって将来の浜松を担う子どもたちの育成に取り組んでいる。

2 キャリア教育実践モデル校の選定

令和元年度から、学校や地域の特色等を生かしたキャリア教育を実践する学校を「キャリア教育実践モデル校」に選定し、指導主事による訪問指導をはじめ、モデル校における実践事例の情報発信や授業公開を通してキャリア教育の全市展開を図っている。※R3 実践モデル校：13校(小学校10校・中学校3校)

令和2年度に小中学校の教員を対象に行った調査では、約9割の教員から自校のキャリア教育で育てたい力を踏まえて実践していると回答を得ている。

3 浜松市キャリア教育ガイドブックの作成

令和3年2月に浜松市教育委員会と浜松市校長会が連携し、キャリア教育に関する基礎知識から実践の具体的な手立てを示したガイドブックを作成した。令和3年度から、キャリア教育推進の道しるべとして教員研修や各学校での校内研修等でガイドブックを活用している。

4 キャリア教育推進体制の構築

令和3年度から、各学校においてキャリア教育の推進役を担うキャリア教育推進教師を1名選任して校内の推

進体制を整えている。

推進教師に対しては、キャリア教育推進教師研修(基礎編・推進編)等を実施して、資質・能力の向上を図っている。

また、2年目研修や中堅教諭等資質向上研修においてもキャリア教育に関する研修を取り入れ、理解促進と資質・能力の向上を図っている。

令和3年11月に教育委員会主催による「キャリア教育推進フォーラム」を開催した。実践モデル校の実践発表や有識者とのパネルディスカッションを通して、キャリア教育の推進に向けた意識の高揚を図り、さらなる推進を目指している。

5 エビデンスに基づく施策の推進

教育施策の点検・評価に当たり取組状況調査、実態把握調査を実施している。その中で、キャリア教育に関しては、教員・児童生徒・保護者への調査結果をもとに成果指標の達成校・未達成校の比較などによる分析を行い、次年度の取組改善に活かしている。

令和2年度の分析では、児童生徒がキャリア教育の意義を自覚できるように取組の質を改善していくことが指標を達成していくうえで重要になるとの結果を得ている。

<静岡県> (種別：学校) 掛川市立東中学校

推薦理由

推薦校では、学校教育目標「うつくしく りりしく ～美しく凛とした生徒～」の実現のために、キャリア教育の充実を図っている。そのために目指す方策として、主に総合的な学習の時間を利用し、地元「掛川市」を題材として、まずは地域や学校を知り、その上で、地域や学校に応じた課題(職業や自己の将来に関わる課題を含む)を系統的に学び、解決していく「掛川学」を平成26年度より継続して推進している。特に以下の2点において成果をあげている。

- (1) 掛川学を中心に、生徒が価値観や見方・考え方を広げ、主体となって探究する活動を展開することで、自己理解、自己管理能力を育むことができた。
- (2) 望ましい職業観や地域に貢献する社会人像を形成したり、将来設計能力等を高めたりする中で、人間関係形成・社会形成能力を育むことができた。

○学年ごとの取組の詳細(系統性を考えて次のように取り組んでいる)

- 1年生
 - ①掛川学講話(掛川の現状について、市役所の方のお話を聴く)
 - ②防災学習(「助けられる人から助ける人へ」のスローガンのもと、講師を招聘し、防災用具の扱い方を学んだり、DIGやHUGに取り組んだりする)
 - ③掛川の魅力について考える※1
- 2年生
 - ①掛川学講話(掛川の良さを生かした仕事に取り組んでいる方のお話を聴き、掛川で働くことの良さや意義を学ぶ)
 - ②職場体験(自らの興味関心に沿って選択した職場で3日間の体験をする)
 - ③働くことについて考える※2
- 3年生
 - ①掛川学講話(市役所の方から20年後の掛川市がどうなっているのかについてのお話を聴き、掛川市を盛り上げるにはどうしたらいいか考える)
 - ②20年後の掛川を見据えpepperのプログラミングと結び付けた企画書作り※3

※1 防災を通して掛川を知る：掛川学の初めとして、地域を知るために防災を通して、掛川のよさや課題について学び考える。

※2 掛川で働く：職場体験を中心に、働くことの意義を考えたり、実際に掛川で働いている方の話を聴いたりする活動を通して、将来、掛川で働く意識や意欲を高める。

※3 20年後の掛川を考える：掛川市の未来をより良いものとするため、具体的な街づくりのイメージをもち、pepperのプログラミングと結び付けた企画書を作成し、ICTを活用したプレゼンテーションを行う。話し合っって新たな企画を考えたり、地域に貢献しようという気持ちを高めたりする。また、ICTを活用できるようになる。

掛川市の人やモノとかかわることで、地元を知り、貢献しようとする気持ちを育み、キャリア教育の基礎的・

汎用的能力を育んでいる。以上の理由から掛川市立東中学校をキャリア教育優良学校として推薦する。

＜静岡県＞（種別：学校）静岡県立袋井商業高等学校

推薦理由

袋井商業高校の「模擬株式会社 袋商ショップ」は、平成 15 年に学校創立 80 周年の記念事業の一つとして、次のことを目的に設立された。

- ①商業高校としての特色化を図り、実際の商業活動の体験を通じて商業の学習に一層の意欲・関心を高める。
- ②体験的な販売実習を通して自ら学ぶ姿勢やたくましく「生きる力」を身に付ける。
- ③地域の企業・商店・保護者との連携を図り、学校・地域・家庭の相互理解を深めることにより、地域の活性化に貢献する。

社訓を「おもてなしの心」として、御来店いただいたお客様に、「この商品を買ってよかった」と心から喜んでいただくために、「社員」である生徒一人一人が心を込めて対応している。生徒は入学式後の「入社式」で「社員」となり、社員総会、地域の協力企業への説明会、インターンシップ、ショップ本部による各種講習会、店舗準備等で学びを深めた後、クラス毎に店舗を運営し販売実習を 2 日間行う。販売実習の事後には株主総会で業務成績報告を行い、反省、課題を明らかにし次回開催に向けた準備を行っている。

18 年にも渡って袋商ショップを実施できた背景として、地元の商工会議所や行政との連携を大切にしてきたことや地域の協力企業の支援体制がある。また、PTA 活動の一環として保護者が当日の受付案内、駐車場、店舗運営等へ組織的かつ積極的に参加している点も大きな支えとなっている。これらの地域の人々との関わりの中で生徒たちは思考を深め、コミュニケーション力を高め、協働の大切さを体得し、目標に向かって努力している。生徒は人との関わりの中で育っており、まさに生きる力を身に付けている。

袋商ショップは商業科目を有機的かつ横断的に融合する学びの機会であるとともに、専門性をさらに深化させる貴重な機会となっている。また、袋商ショップを通して様々な課題に向き合う中で、生徒一人一人のキャリア意識が確実に形成されており、「総合的な探究の時間」の取組と相まって商業教育を通じたキャリア教育が行われている。

現在のコロナ禍においても、感染対策を行うとともに、伝統となった袋商ショップ開催のために学校が一丸となって取り組んでいる。令和 3 年度においても感染状況に応じたショップの在り方を検討し、開催に向けた努力を続けている。

以上の理由から、静岡県立袋井商業高等学校の取組を推薦する。

＜静岡県＞（種別：学校）浜松開誠館中学校・高等学校

推薦理由

グローバルコースや SDGs 部が中心となった企業・関連組織と連携した環境問題に向けての主体的取り組み

本校ではグローバルコースや SDGs 部の生徒が主体となり、文化祭の際にはフェアトレード物品販売ブースが設けられてきた。ここ 3 年間では、浜松市がフェアトレードタウンであること、SDGs と部分的に目標を共有していることから、このブースにおいて、フェアトレードを啓発するとともに、実際にエシカル消費に参加する機会を設けている。市内にあるフェアトレードショップと生徒が連携を図り、フェアトレード商品の販売を行っている。メキシコのマヤビニックコーヒーを主に取り扱い、静岡県での Tokyo Girls Collection 合同開催の SDGs 企画の際に本校生徒と協同ブースを出展した『豆乃木』のフェアトレード珈琲には、本校 SDGs 部部員がデザインしたコラボレーションステッカーが貼付され、販売された。その他にも、市内のフェアトレードショップ『晴天』が卸し、本校カフェテリアでも使用されるフェアトレード胡麻や、ドライフルーツ、紅茶などが販売され、エシカル消費及び SDGs 『使う責任』への啓発に大いに役立った。

また、本校 SDGs 部がアップサイクルプロジェクトの経験から、このブースにおいてアップサイクルのワークショップを展開した。事前に全校に呼びかけ回収した古着を加工し、これを用いて来場者がファブリックパネルやアクセサリを作成するものであった。身近なものから脱炭素に関連するアップサイクルを体験できる内容となった。アップサイクルプロジェクトとは、本校の SDGs 部部員 3 名が卒業する 3 年生の使われなくなる制服を回収して、リサイクルすることはできないだろうかと考え、卒業生に向けて協力を依頼し、制服のキンパラという

本校の制服を提供していただいている業者と共に行ったプロジェクトのことである。まず、本校の制服をリサイクルするうえで、どの部分がリサイクル可能なのかを制服のキンバラと話し合った。話し合っていくと、リサイクルにはコストがかかるという大前提を知ることになり、コストと手間を意識してプロジェクトを進めることになった。卒業式当日は本校校舎の昇降口前にブースを設置し呼びかけを行った。回収した制服は合計約50着、重さにして37キログラムに及び、制服のキンバラに回収していただいた。後日、リサイクルした過程をまとめた報告書を送っていただき、リサイクルされた自動車の内装材のサンプルもいただいた。この取り組みがメディアへも取り上げられた。また、今後は本校で使われる制服の素材についても改善をしたいと考えており、環境に配慮された天然ウールを使用するなど、制服自体を変えるような活動に取り組んでいく予定である。

そして、高校2年生グローバルコースの生徒が、グローバル科目及びSDGs教育における探究授業を通して、飢餓で苦しんでいる人々がアフリカ・アジアの地域を中心に多くいるということを知り、食品寄付活動を企画した。寄付先を大いに検討し、食べることができるのに廃棄されてしまう食品を引き取り、それらを見守り施設の子供たちや、路上生活を強いられている人たちなどに届ける活動を行っている団体、セカンドハーベストジャパンに決定した。特に今回は、新型コロナウイルスの影響で職業を失い、収入が減ったことにより、困窮状態に陥っている日本の人々を対象にした食品を届けるプロジェクトの存在を知り、その活動に貢献したいと本校の教職員・生徒を対象を限定して企画を実行した。生徒が全校生徒および教職員に向けて、寄付を呼びかけるポスターを作成し、協力を呼び掛けた。缶詰、レトルト食品、カップ麺など対象となる食べ物もリスト化し、賞味期限などの制限もプロジェクトに準じた基準のものにした。最終的には、当初の予定の10倍もの量に当たる段ボール10箱分の食料が集まり寄付を行った。

以上のように社会の課題を知り、生徒の主体的な姿勢から企業との協働的な努力・実践により、一步でも解決に近づくよう取り組んできたことは賞賛に値する。

<愛知県> (種別：教育委員会) 豊田市教育委員会

推薦理由

○第3次豊田市教育行政計画(2018年度策定)

- ・「多様な市民一人ひとりが自ら学び、地域とともに育ち合う教育の実現」を基本理念とし、「地域ぐるみで学び合い」をキーワードとし、家庭・学校・地域が一体となって取り組んでいる。

○地域学校共働本部

- ・地域と学校をつなぎ、学校・家庭・地域が一体となって、子どもの成長を支えるために活動している。令和2年3月に、市内全小・中学校で設置完了。職場体験活動では、地域コーディネーターが職場体験先をコーディネートするなどし、キャリア教育を支援している。
- ・28全中学校区にコミュニティ・スクールの指定を完了し、「地域ぐるみの教育」と「WE LOVE とよた」の取組が各中学校区で進められ、豊田市が大好きな子どもたちの育成を図っている。

○「WE LOVE とよた教育プログラム」

- ・豊田市にある、モノ・ヒト・コトを生かした教育活動を行うことを目指している。豊田市の特色や地域性などを学ぶカリキュラムを編成。
- ・小学校低学年での学区探検、高学年での地域企業調べ、中学校での職場体験や地域の大人との関わりなどを通して、地域を愛し、人との関わりを大切にするキャリア教育の推進。(H27 猿投中、加納小、東保見小)

○「中高連携事業の充実」

- ・豊田市で学び、育ち、豊田市で生きる豊田市民の育成をめざし、豊田市民を豊田市内の小中高で一貫して育てていこうとする風土の醸成に取り組んでいる。
- ・毎年「豊田市高等学校魅力発見フェスタ」を開催し、市内15の高校や高専が参加し、各校ブースで学校紹介及び相談活動や部活動の体験等を実施し、魅力を伝えている。
- ・令和元年度は約8000人の参加。

○「キャリア・パスポート」の全校活用

- ・令和3年度は、市内全小中学校の全学年で「キャリア・パスポート」を作成し活用。「見通し」と「振り返り」を大切にして作成。
- ・令和2年度に市独自でQ&A集を作成し、学校の疑問に対応。

○学習用タブレットによるキャリア教育支援

- ・豊田市立藤岡南中学校では、SDGs パートナー企業・団体の協力を得て、中学生と大人が1対1のペアを組み「中2と大人がミライを語る会」をオンラインで実施し、人生観や未来に向かってできることなどについて学んだ。

○令和2年度 魅力あるあいちキャリアプロジェクト「つなぐ」推進事業 キャリアスクールプロジェクト「つなぐ」(小学校)の実践(愛知県委託事業)

- ・豊田市立畝部小学校「今」を見つめ「未来」へつなげるキャリア教育～特別活動と地域に学ぶ総合的な学習を軸として～」において、地域の仏壇づくり体験や伝統工芸士の話より、働くことの意義や役割を学んだ。

<愛知県> (種別：学校) 一宮市立富士小学校

推薦理由

令和2年度、富士小学校では、事業主題を「自己の生き方について考えを深め、自己現実を図ろうとする児童の育成」とし、各学年の実態に応じてキャリア教育を推進した。運動会や学習発表会では、学年ごとに目標を定め、「夢を見つけ夢をかなえる航海ノート」を活用しながら、目標に向かって努力することの大切さや達成感を味わわせた。5年生では、稲作体験を行っている。例年は、田植えから行っているが、令和2年度は、コロナ禍で休校期間と重なったため、稲刈り体験のみの活動となった。JAの職員を講師として招き、農業に対する思いについてもお話をしていただいた。この活動で、稲刈りの難しさだけでなく、農業に従事されている方の苦勞に気付いたり、食べ物に対する感謝の気持ちを再確認したりする児童の姿が多く見られた。12月には、4年生から6年生の児童約300名を対象に講演会を開催した。生き方講演会と題し、一宮市出身のミュージカル女優、鈴木ほのか氏をお迎えして、ミュージカル女優を目指すきっかけとなった出来事や夢を叶えるために必要なこととお話していただいた。児童には、「夢を見つけ夢をかなえる航海ノート」を活用して、講演会前に今の自分の夢について考えさせた。さらに、講演後には、講演の内容で印象に残ったことや今後の自分に必要なことを航海ノートにまとめさせた。ノートには、「努力、継続することの大切さを学んだ」、「ピンチはチャンスに変わる」などの記述があり、講演を通して、児童は自分の生き方について深く考えることができた。

富士小学校におけるキャリア教育は、家庭と地域と連携しながら進められている。生き方講演会には、地域や家庭への参加を呼びかけ、数名の方が参加した。「夢を見つけ夢をかなえる航海ノート」には、保護者が記入する欄を設け、児童の生き方について、保護者も一緒に考えてもらえるようにした。また、別紙計画書、実践報告書にあるように、各学年、それぞれの場面で、人間関係形成・社会形成能力や自己理解・自己管理能力を高める取り組みを実施した。

このような児童の実態を的確に把握し、その実態に応じた充実したキャリア教育を組織的、系統的に実践している富士小学校は、キャリア教育優良校にふさわしいと判断し、ここに推薦する。

<愛知県> (種別：学校) 豊田市立竜神中学校

推薦理由

竜神中学校は生徒の社会的・職業的自立に向けて「自立・貢献～夢をもち、自分で考え、行動できる人に～」を学校教育目標として、キャリア教育に取り組んできた。

生徒の特性や地域性を踏まえ、自立を促すために育成したい力を明確にし、総合的な学習を軸に系統的な学びができるよう、3年間のカリキュラムを作成した。コミュニティ・スクールの機能を生かし、保護者や地元の企業や地域の方、小学校・高等学校と連携し、実践的・体験的活動を通して基礎的・汎用的能力を高める様々な機会を設けた。

【コミュニケーションスキルの獲得と活用】

キャリア教育における体験的实践を行う前には、基盤となるコミュニケーションスキルを高める取組を行った。「積極的な自己開示をする朝礼で有名な企業の方を招いての講話及び体験活動」「ホテルマンから学ぶマナー講座」等を開催し、身に付けたスキルは職業体験活動や学校行事で生かされた。

【異校種間連携】

○小学校との連携

竜神中学校3年生がそれぞれの母校の小学校に出かけ、英語の交流授業を行っている。小学校の外国語教材「Junior High School Life」の単元を活用し、中学生が主体となって、小学校6年生に向けて「中学校生活について学ぶ」授業を行った。生徒たちの3年間培ってきた英語の力を試し、さらに積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度を育て、表現力を高めることにつながっている。また、こうした中学生の活動の様子は、小学生にとってキャリアモデルとなり、小中連携による交流は地域の子どものキャリア形成につながっている。

○高等学校との連携

職場体験学習で様々な職業観を抱いた生徒に、進路を考える上でさらに視野を広げるきっかけとなることを意図して、職業に結び付いた専門学科や専門のコースをもっている市内の高校を訪問するバスツアーを行った。見学をした高校で、カリキュラムや卒業後の進路などの話を聞いたり、授業体験や実習を経験したりすることで、将来の生き方に結び付けて進路選択をしようとする姿勢がみられるようになった。

【保護者・地域との連携】

○「キャリアチャレンジデー」職業人の話を聞く会

1年生では、65人の地域の職業人を招き、会場を分散し、ワークショップ形式で講座を開いた。生徒は興味のある職業を選択し、少人数グループで参加する。職業についての話を聞くだけでなく、質問し対話することで、働くことの意義や自らの生き方について深く考える時間をもつことができた。

○保護者による面接練習

3年生の入試前に、保護者が面接官として参加し、面接練習の時間を設けている。普段とは違う緊張感もあり、企業で求められる社会人としての話し方を学ぶ機会にもなっている。

生徒の発達段階に応じた小・中・高・地域連携を意識したキャリア教育を推進することで、自立に向けた生徒の変容や成長を実感することができた。今後も夢や希望をもって主体的に自分の生き方を考えることができる生徒の育成のために実践が継続されることが期待できる。

<三重県> (種別：学校) 四日市市立保々中学校

推薦理由

該当校は、田園が広がる農村的な地域と、団地や大型ショッピングモール、新名神高速道路等の開発が進む地域を合わせ持つ、四日市市の北西部に位置している。学校目標を「心身ともにたくましく豊かな人間性と実践力を持った生徒の育成」として、地域の学校等と連携して自尊感情やコミュニケーション能力、最後まで粘り強く取り組む力などを培うことで、『今』を未来につなげられる子をめざして』をスローガンとし、自己実現できる児童生徒を育成している。

1. 「保々地区18年間(社会への)育ちのプログラム」に沿った児童生徒の育成

該当校区の保々地区では、平成20(2008)年、地区内の保育園、幼稚園(現在はこども園)、小学校、中学校及び周辺の高等学校、地域の人権団体が連携し、自己実現できる児童生徒の育成をめざした「保々地区18年間(社会への)育ちのプログラム」を作成した。このプログラムでは、将来につけたい力を「豊かな感性」、「やり切る態度」、「生きぬく基礎」の3つの柱に整理し、それらを育成するための6つの視点「だいすき」、「つながる」、「じっくり」、「やってみる」、「すこやか」、「まなぶ」を設定したうえで、就学前から高等学校卒業までの発達段階に応じて6つのステージ別にめざす子どもの姿を具体的に示している。

該当校では、平成21年(2009)年度から「保々地区18年間(社会への)育ちのプログラム」に沿って生徒を育成するために、教育活動を再整理した「学校づくりビジョン」を策定し、重点目標を定め各年度ごとに改善しながら、学校全体で取り組んでいる。また、「特別活動」や「総合的な学習の時間」では、地域事業所の協力を得た職場体験学習や職業人の講話などを通じて「働くこと」「自分を知ること」「マナーを身につけること」について学習している。生徒は、将来就きたい職業について発表会を行い、3つの柱・6つの視点に沿って自身の年間目標を立て、キャリア・パスポートを活用しながら、自分の現在と将来を見つめなおす学習を行っている。

2. 「学校づくりビジョン」に沿った具体的な取組

「豊かな感性」の柱では、「人を大切にし、気持ちよくあいさつする生徒を育てます」を重点目標とし、すべての生徒が教職員から1日のうち1度はあいさつ等共感的姿勢による声かけを受けられるにしたり、日常生活や行事等で、生徒同士で感謝の気持ちを伝えあう「ありがとうメッセージ」に取り組んだりしている。このような取組を通じて、自分に自信を持ち、さまざまな出会いの中から仲間とともにつながる力を育成している。

「やり切る態度」の柱では、「ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓に取り組む生徒を育てます」を重点目標とし、掃除や整理、整頓の指導を継続的に行うとともに、生徒同士で取り組んだことを認め合う「がんばってるねメッセージ」の実践や、日常生活のさまざまな場面で、人のために当たり前のことを当たり前に行えるよう指導を継続している。

「生きぬく基礎」の柱では、「時間や期限を守り、授業を大切に生徒を育てます」を重点目標とし、授業の始まりと終わりを大切に、宿題や自主勉強ノートの指導（点検・評価）を継続的に行ったり、生徒自身が自分の生活を振り返り、自分自身を向上させる指導を通じて、健やかに生きていくための健全な心身の発達と生きる力の基礎を育てている。

3. 系統的なキャリア教育推進のための異なる校種との連携

地域のこども園、小学校、高等学校、人権団体と合同で開催する教職員の研修会で、異校種の授業参観を通じて「保々地区18年間（社会への）育ちのプログラム」を活用して、ステージ別のつきたい力が個々の幼児・児童・生徒につけられているかどうかを振り返ることで、地域の学校が一体となった子どもたちの育成に努めている。

<三重県>（種別：学校）三重県立明野高等学校

推薦理由

該当校は、農業に関する学科として生産科学科・食品科学科、家庭に関する学科として生活教養科、福祉に関する学科として福祉科があり、140年をこえる歴史と伝統のある地域に根ざした専門高校である。広大な敷地と緑豊かな学習環境の中、学校教育活動全体で知識・技能、社会人として必要な態度を身につけ、適切な職業観や勤労観をもって地域社会に貢献できる生徒の育成をめざしており、4学科それぞれが特徴を生かして、企業と協働した新商品の開発や地域のイベントへの出店、農業管理の基準であるGAP認証の取得などの起業体験に係る取組を組織的に行い、生徒が主体的に学び、課題を発見していく力や豊かな創造性を育てている。

1. 各学科の取組

生産科学科では、独自ブランドとして生産したお米の「明高米」や飼育した豚の「伊勢あかりのぽーく」を、地元企業と協力してお菓子やお酒、肉みそやソーセージなどに商品化して販売している。「明高米」とオリジナルの日本酒は今年伊勢市のふるさと納税返礼品に採用されている。お米の生産実習ではグローバルGAP（米）認証、豚の飼育実習では、全国の高校で初めてJGAP家畜・畜産物（豚）認証を取得した。

食品科学科では、いろいろな種類のジャムや焼き菓子、味噌を製造し、校内の販売所で定期的に地域住民に販売したり、商店街のイベントや地域のお祭り等にも出店し、販売したりしている。また、「茶」の栽培・加工においてアジアGAP（緑茶・紅茶）認証を取得し、食の安全、環境保全、労働安全など、これからの農業経営者として必要となる資質や能力の育成に取り組んでいる。

生活教養科では、デザインコースの生徒が企業と協力して該当校の新しい現在の制服を制作したり、調理コースの生徒が三重県伊勢庁舎で地元食材を使ったランチメニュー「明野高校オリジナル献立」を提供したりするなど、実践的な学習に取り組んでいる。

福祉科では、地域のイベントでの障がい者理解を目的とした車いす体験企画や、地域のショッピングセンターでの子育て支援を目的としたハーバリウム製作教室を実施することで「人と人とのかかわり」の大切さなど働くための心構え等を育成している。

2. 取組の成果

生徒は、各学科の特色を生かした学びを地域の様々な方々と関わりながら学習したことで、自ら進んで学び課題について考える姿勢や、地域社会の一員として適切にコミュニケーションをはかり、他者と関係を構築し、自らの役割を果たそうとする態度が育成されてきている。

また、生徒にとっては、地域社会との共働は、社会をより良くしようと頑張っている「本気の大人」との出会いであり、「なぜ学ぶのか」ということを考えるきっかけともなっており、生徒が主体的に学び、課題を発見していく力や創造性が大いに育まれている。

＜三重県＞（種別：学校）三重県立あけぼの学園高等学校

推薦理由

該当高等学校は、自然に恵まれている伊賀盆地の東北に位置し、教育目標を「主体的に考えて行動し、自分の道を自分で切り開き、社会に貢献することができる生徒の育成」とし、総合学科の特色ある4つの系列（「美容服飾系列」「製菓調理系列」「情報教養系列」「健康福祉系列」）で、「地域に学び、地域と共に、地域のためにできること」について取り組んでいる。また、該当校が所在する伊賀市が実施する「IGABITO育成事業」（地域の担い手としての若者を育成する事業）において、地域のPR活動や将来にわたりより良い伊賀を作る意識や行動力を培うためのシチズンシップ教育等に連携して取り組んでいる。令和元年度からは、三重県教育委員会の「地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業」の指定を受け、多様な授業の中で、地域の文化・観光・伝統産業・食などを伝承していく人材を育てている。

1. 各学年での取組

1年次で学習する「産業社会と人間」では、学年の生徒全員が地域の企業、文化、歴史、伝統産業等についての知見が深まるよう、伊賀市総合政策課の職員から「地域の魅力」について講話を聞き、フィールドワークを行っている。生徒は地域の課題と考えられるテーマを決め、研究するとともにレポートにまとめている。また、「家庭基礎」では、伊賀組みひもについて、外部の講師による授業を通じて地域の観光・伝統産業について学ぶとともに、ネームストラップを作成することで、地域の伝統産業について理解を深め、地域に誇りを持つ人材を育てている。

2年次の「総合研究Ⅰ」では、外部講師の講話を聞き、まずは自分たちの身近な学校の魅力を考え、成果発表会で発表している。学年発表の場では各自が研究したことを動画にまとめ、自分自身の言葉で自信をもって発表することで、生徒の「表現する力」の育成を図っている。

3年次の「総合研究Ⅱ」では、生徒の出身市町（伊賀市、名張市、亀山市など）に協力を依頼し、自分の住む町について生徒自身が課題を見つけ、今後地域を盛り上げるために必要な方策について探究し、成果をまとめ発表している。

2. 各系列での取組

「製菓調理系列」では、2年次で学習する「フードデザイン」及び3年次の「製パン実習」「調理」で、地域の食文化を理解し、興味を持つことを目的に、地元食材を使用したパンやスープの商品開発、地域の大豆を使ったみそづくり、地域食材だけで作るお弁当の提案など実施している。また、毎年、小学生とのお菓子やパン作りを通じた交流授業を続けており好評を得ている。

「健康福祉系列」では、介護職員初任者研修の資格取得をめざして、地域の社会福祉協議会と連携した福祉施設への訪問や介護実習等を行い、地域の介護職員の担い手育成に取り組んでいる。また、2・3年次で学習する「スポーツレクリエーション」では、伊賀の魅力を発信するために、伊賀市の伝統文化である忍者にちなんだ体操「忍にん体操」について、伊賀市健康福祉課や忍にん体操普及協会の協力を得て、「忍にん体操高校生バージョン」を考案し、地域の保育所とオンラインでつなぎ、実演し交流している。

「美容服飾系列」では、地域の産物である米ぬかや菜種、芍薬などの自然成分にこだわった「美容ジェル」や「万能ソープ」「シャンプー」「トリートメント」の開発に地域の企業と連携して取り組んでいる。生徒の「コロナ禍で地域の役に立ちたい」という思いを形にして、「アルコールハンドジェル」の開発を行い、近隣の小・中・高等学校、幼稚園・保育所、市役所等に贈呈するなど地域に貢献している。また、近隣中学校への出前授業や地域の美容室へのインターンシップを通して、将来の地域を担う人材としての意識を育てている。

3. 取組の成果

地域の企業、文化、歴史、伝統産業等についての体験活動を通して、生徒の興味・関心が高まっており、地域を活性化させるために、自分たちでどのような取組ができるのか、自ら進んで地域の課題について考える姿が報告されている。次年度には、この取組をSNSなどを活用し、地域だけでなく地域外にも発信していく活動や同じ地域にある高等学校等と連携し、より地域の魅力発信につながる活動を検討している。

 <滋賀県> (種別：学校) 草津市立渋川小学校

推薦理由

【取組概要】

草津市立渋川小学校では、「渋川 だれもがチャレンジ2021～つながろう！やってみよう！創り出そう！～」を目標に掲げ、総合的な学習の時間を中心に、自ら課題を見つけ、解決していく学び方を身に付け、新たな自分の生き方を見いだす取組を通して、夢や希望をもって努力し、意欲をもって学び続ける子を育むキャリア教育を推進している。

本校は、農地が少ない駅周辺の市街地にある学校で、自然に親しむ機会が少ないことから、以前から総合的な学習の時間等で環境教育や食農教育に取り組んできた。その中で、「身近な自然や暮らし、文化について学び、学びを通して人と人とのつながりを創出し、ふるさと（地域や滋賀県）への愛着や誇りを深めること」をねらいとして、教室と田畑や漁場などをテレビ会議システムでつなぎ、現場から直接話を聞く機会を得たり、食材について学んだ際には、必ずその食材を調理して味わったりという体験活動に取り組んできた。そして、毎年「渋川ESD（いいまち、しぶかわ、だいすき）ミュージアム」を開設し、その成果を地域に情報発信することで、人と人とのつながりや交流をさらに深めている。

【渋川ESD】

本校では、ESDが目的としている持続可能な未来や社会の構築のために行動できる人の育成を目指し、身近な地域における「人と人」、「人と自然」、「人とくらし」などとのつながりから学ぶことを意識し、次の3点を大切にしている。

- ①五感を使い、人と出会い、本物を体験する。
- ②子どもの主体性を尊重し、それぞれの発見や気づきを重視する。
- ③子どもたちが関心をもち、体験し、探求し、行動し、振り返るといったストーリー性をもたせる。

特に「人のつながり」については、学習の過程において自分と他者とのつながりに気づき、つながりを感じることが大切であるとし、そのための参加体験的な学習や、地域とのつながりを図りながら、多様な立場や世代の人々と「つながり」が体験できるようにしている。

【各学年の探求課題】

- ・第3学年：～人と自然・町～渋川から広がるまちとくらし
(町づくり・福祉)
- ・第4学年：～人と自然・社会～渋川からふるさとの環境を考えよう
(環境・福祉)
- ・第5学年：～人と自然・くらし・社会・文化～渋川から広がる環境
(環境・福祉)
- ・第6学年：～人と自然・くらし・社会・文化～滋賀の農林水産業
(環境・人権平和・福祉・キャリア教育)

【5・6年総合】

「琵琶湖と共生してきた滋賀の農林水産業の魅力に迫る」と題し、郷土料理学習、世界農業遺産学習を実施している。

具体的には、郷土料理学習において、アメノイオご飯、湖魚の佃煮、丁稚羊羹、日野菜漬け、梅干し作り体験をしたり、世界農業遺産学習では、滋賀の農林水産業の魅力に迫るため、近江茶を取り上げ、信楽の朝宮茶園や東近江の政所茶園から遠隔授業を行い、茶摘み、製茶体験、茶工場見学や地元草津の野菜農園と遠隔授業を行い、調理実習などに取り組んだりしている。

 <滋賀県> (種別：学校) 滋賀県立甲南高等学校

推薦理由

甲南高校では、「独立自尊」「誠実勤勉」「協働友愛」を校訓に掲げ、生物と環境系列、バイオとかがく系列、福祉と保育系列および食と健康系列の4系列を設置し、一般教養を高め人格を陶冶するとともに、キャリア教育を通して、常に学び続ける向学心の育成、地域社会に貢献しうる有為な人材の育成を目標としている。また、県指

定のキャリア教育に関する事業の研究指定校として意欲的に取り組み、キャリア教育の更なる充実に努めている。

2年生全員によるインターンシップや小学校への出前授業など、体験や経験から学ぶ取組を行い、地域理解、職業理解を促し、社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度の育成につながっている。

特に、「薬草」を学校全体の課題研究のテーマとし、主体的に課題を発見する力や創造性を育む取組を行っている。具体的には、ササユリなどの希少植物や朝鮮人参などの薬用植物の栽培、増殖に関する研究を行ったり、給食センターなどと連携し薬草と地域の食材、食文化を融合させたメニューを開発したりするなど、地域と連携するだけでなく4系列の枠を越えた取組が実践できている。毎年の成果を少しずつ積み重ねながら、先輩から後輩たちへと受け継がれている。

さらに、近隣の高校や自治体と連携し、精力的に地域の高校として地域活性化を意識した活動に取り組んでいる。具体的には、地場産業フェアの企画立案、公共交通機関の活性化イベントへの参加や地域を含めた3者連携による「卵かけご飯セットプロジェクト」など、組織的・系統的な取組となっている。

以上のように、甲南高校は、地域理解・職業理解を促し、社会的・職業的自立に向けて必要となる能力や態度を育成に努めているだけでなく、他校や地域と連携し地域の課題解決に主体的に取り組む活動を積極的に実践している。

<滋賀県> (種別：PTA 団体等) おうみ未来塾「仕事人と語ろう！」グループ

推薦理由

平成21年(2009年)5月に設立されたボランティアグループである。様々な仕事で活躍されている仕事人を学校に招聘し、仕事への思いや夢・厳しさ・楽しさ・どのようにして実現したのか、などを本音で語っていただき、子どもたちに「自分の将来」について考え、夢・目標さらには職業観をもってもらう機会を提供することを目的に活動され、13年目になる。平成21年度からは、滋賀県教育委員会生涯学習課内に設置している「しが学校支援センター」の「学校支援メニュー」の登録団体として継続して活躍中である。

活動開始以来、令和3年3月までに県内延べ220校の小中学校で、「職業人講話」や「マナー講座」を実施した。仕事人の職種リストは、約100種あり、学校からの要望で人気の高い職種は、①パティシエ②ロボット技術者③消防士、救急救命士④看護師⑤サッカーコーチ⑥獣医師⑦保育士⑧ファッションデザイナー⑧建築士⑨コンピューター関係者⑩美容師、等である。令和3年3月までに活動した「仕事人」の動員数は、延べ778名になり、これらの授業で関わった児童・生徒の数は、22,500名を超える。

この授業に参加した児童・生徒の中で、「自分の目標を実現させるために進学した」、「講師の職業に憧れて就職した」という報告も聞かれるようになっている。

これからの未来を担う若者のために、約13年間誠心誠意取り組んでこられたこれらの功績から、おうみ未来塾「仕事人と語ろう！」グループを推薦するものである。

<京都府> (種別：学校) 相楽東部広域連立和束小学校

推薦理由

相楽東部広域連立和束小学校の学校教育目標は、「ふるさと和束に誇りを持ち 心を磨き 身を鍛え 学び続け 未来を拓く子どもの育成」である。この教育目標を実現するために、学校では令和元年度からキャリア教育を重点に「自分を高め 人とつながり 目標に向けて挑戦し続ける児童の育成～ キャリア教育の実践を通して～」を研究主題として実践に取り組んできた。

児童の実態、児童に付けさせたい力について教職員全員で話し合い、和束小学校としてキャリア教育を通して身に付けさせたい3つの力を設定した。1つめは「自分の思いを伝えるコミュニケーション能力を身に付けた子(つながり力)」。2つめは「自分を見つめ、ありのままの自分を認める子(自分発見力)」。3つめは自分で考え、主体的に自己決定し、挑戦できる子(チャレンジ力)である。

この3つの力を付けた姿はどのようなものか、各ブロック学年(1・2年、3・4年、5・6年)ごとに具体的に設定し、系統性を意識したためあてを設定した。その姿が明確になることで指導と評価の一体化が実現し、評価が安易になった。和束小学校のキャリア教育推進に関わって、授業づくり部、カリキュラムづくり部の2つの部を設定し、取り組んできた。

授業づくり部では、めざす児童像を具現化し、研究主題の実現に近づけるために必要なのは、ゴールとねらいが明確になった授業であるとして、4つのことを中心に取り組んできた。4つとは、①学校教育を支える3つの視点の関係性②キャリアの視点を通して見た授業中の児童の姿③単元の基本の流れ④ねらいを明確にした授業のための「単元構想シート」である。

一方、カリキュラムづくり部では、一人一人が今の自分を見つめ、なりたい自分に近づくため、また日々それぞれの目標を意識して行動していくためにはキャリアパスポート（和東小学校ではキャリアと命名）が大切であるとし、効果的に活用していく方法を考えた。キャリアの具体的な活用方法としては、各学期始めに、なりたい自分・そのためにがんばること（4～6年）、各学期の目標（1～3年）を考え記入する。それを月1回見つめ直す機会をつくり、学期末に振り返りを行う。教師は面談やコメントを通じて、児童への対話的な関わりをもち、また保護者にもコメントの記入を依頼している。この一連の流れを活用することで自分を振り返り、新たな目標に向かい、将来の自分を思い描くことができるようになった。

教師は対話的に関わり、児童のキャリア形成を支援することで、児童に学ぶ意義や楽しさを実感させながら、学校・家庭・地域社会が連携したキャリア教育を進めてきた。

<京都府>（種別：学校）京都府立須知高等学校

推薦理由

京都府立須知高等学校は、明治9年に京都府農牧学校（蒲生野農学校）として創立された145年の歴史と伝統ある学校である。また、日本の三大農業教育発祥校の一つでもあり、札幌農学校（北海道大学農学部的前身）、駒場農学校（東京大学農学部的前身）と同時期に創設され、京都府の農業教育の発展に寄与してきた。1学年、普通科2クラス、食品科学科1クラスが設置されており、地元、京丹波町唯一の公立高校であるため、京丹波町から物心両面にわたり多くの支援をいただき、地域とともに歩む教育活動は、地域の活性化に大きく貢献している。

令和3年度京都フロンティア校として、地域を支える人材育成を理念に農業・食品科学の専門校として特色ある授業を展開している。その教育内容を生かして地域貢献や地域との連携を積極的に進めたキャリア教育の取組を推進している。

主な取組は以下のとおりである。

(1) 農業・食品加工とキャリア形成

ア 食品科学科各コースの取組

食品加工コースでは、3専攻に分かれて農業生産、食品製造、販売流通までを学習しており、公園管理コースでは、学校林の整備や活用、愛玩動物の飼育管理についても学習している。

イ 起業家教育プログラム

中小企業庁が高校生対象に行う「起業家プログラム」に参加し、6次産業化の支援事業を行う起業家を講師として招き、地域資源を活用したビジネスの可能性について6回に渡って講義を受けた。また、京都府内で活躍する起業家の講演を通して、「チャレンジ精神」や将来の自分の進路選択や「生き方」を考えるきっかけとなるような講演会を実施している。

ウ 日本菊花全国大会 福助花壇の部日本一（国土交通大臣賞）

園芸加工専攻生徒が栽培に取り組んだ菊が、日本菊花全国大会福助花壇の部で日本一となった。地元中学校とも連携し、中学生にも菊の栽培管理の指導を行っている。

エ 全国高校生農業アクション大賞で準大賞を獲得

「ひびけ！高原の鐘 学校林活用と地域活性化」をテーマに、公園管理コースが3年間（2018年～2020年）取り組んだ研究成果が、応募78件の内、第2位に相当する「準大賞」を獲得した。

オ 各資格取得

小型車両系建設機械特別教育、食品衛生責任者養成講習会、危険物取扱者試験、日本語ワープロ検定、情報処理技能検定、パソコンスピード認定試験に積極的に取り組んでいる。

(2) 地域連携・地域創生とボランティア活動

ア 「京丹波学」の展開

京丹波町役場と連携し、地域の人材を活用しながら、観光・防災・食・歴史など地域の課題解決に向けての探究活動にグループや個人で取り組んでいる。

イ 京丹波食の祭典

京丹波町が例年 10 月に開催している「京丹波食の祭典」と同時開催で「須高感謝祭」を開催している。農産物や加工食品の販売を生徒の手で行っている。1000 人近い来校者があり、学校の取組を地域に PR するよい機会になっている。

ウ 校内生産物販売会

毎月第 3 金曜日放課後に「販売実習」を行い、農産物や加工食品の販売を生徒の手で行っている。地域の方々からも好評で、学校の取組を地域に PR するよい機会になっている。

エ 募金活動

生徒会本部役員の生徒が月に一回、「新型コロナウイルス感染症対策応援寄付金」の募金活動を行っている。

(3) 産学連携

ア 地元の食品事業所・小売業との連携による食品・商品開発及び販売

○(有)みずほファーム・京丹波町商工会との連携：看板商品「葉酸たまご」を使った新たな商品開発に取り組んでいる。

○丹波ワイン(株)との連携：丹波ワインを使った「赤ワインジェラート」「ワインに合うおつまみ」の商品化に成功、丹波ワインの併設ショップで販売されている。新しい味のバリエーションにも取り組んでいる。

イ 地元事業所等と連携したキャリア教育及びインターンシップ

京丹波町にぎわい創生課ならびに京丹波町産業ネットワークと連携し、毎年 2 月にキャリアアップセミナーと題し、2～3 社を招いてパネルディスカッション形式で学習を深めている。

また、京丹波町産業ネットワークと連携し、毎年 3 月中旬の 2 日間に渡り、2 年生就職希望者を対象にインターンシップを実施している。11 社の地元企業が受け入れている。

ウ 全国農業高校収穫祭

11 月に大丸東京店で開催される「全国農業高校収穫祭」に参加した。

全国各地から農業高校の生徒が集まり、自慢の生産物の販売を行った。本校からは、大納言小豆、菓子類、肉加工品を販売し完売した。普段交流することがあまりない他府県の高校生ともよい交流ができた。

(4) 学校間連携

ア 小学校・中学校・大学との連携：「環境・食育校種間連携パートナーズスクール事業」

「6 次産業化から地域の未来を考える」をテーマに本校 3 年生、地元中学生、京都大学大学院生が一緒になって、農場生産物から製品作りまでを体験しながら、6 次産業化について学ぶ取組を行っている。

イ 高校間連携：「府立農芸高等学校との実習交流」

須知高校で生産するヨーグルトの原材料である牛乳を農芸高校から購入することになったのをきっかけに、両校の生産実習を補完する交流実習を行っている。

ウ 丹波子育て支援センター等福祉施設との連携

毎年、高校生の指導でサツマイモの植え付けや芋掘り体験を行っている。

<兵庫県> (種別：学校) 兵庫県立錦城高等学校

推薦理由

本県教育委員会では、子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するため、小学校から高等学校まで体系的・系統的なキャリア教育を推進している。具体的には、兵庫版「キャリア・パスポート」や「キャリアノート」の活用、また社会参画に必要な体験活動やその事前事後指導の充実等、発達段階に応じた組織的・継続的なキャリア教育を推進している。

兵庫県立錦城高等学校は、創立 70 周年を迎える歴史と伝統ある普通科定時制課程の高等学校であり、校訓「労学一如」のもと、働きながら学ぶことを尊重し、教育方針の根幹として一貫したキャリア教育を位置づけている。多様な生徒の入学が増える中で、キャリアに関する内面的理解及び外面的理解を進めるために、教育課程の工夫や各教科と年間ホームルームの連携を行うと共に、体験活動としての就業体験や地域ボランティア等を行っている。特に、地域の企業と連携した取組では、実際にアルバイト等の就業を実践する「キャリアシップ」を実施している。この中では、中学卒業後の生徒に対して、就業を行うために各企業が求めるスキル等を理解させると共に、生徒の適性を考慮したマッチングを行い、就労実践を行っている。これらのキャリア教育を通して、生徒の

基礎的・汎用的能力を育成するとともに、生徒の個々の適正に応じた進路指導の実現を学校教育活動全体で展開している。

【取組内容】

- 1 教育方針の根幹に一貫したキャリア教育
 - (1) 進路指導年間指導計画と学年ホームルーム等との連携
 - キャリア指導の計画的な展開（年間計画1年～4年）
 - 学年との連携（ホームルームでのコミュニケーション力等の育成）
 - ※マネープランゲーム・ペーパータワー・マシュマロチャレンジ等による基礎的・汎用的能力の育成
 - (2) 教育課程の工夫
 - 学校設定教科「社会への扉」の中で「社会人基礎力入門」「社会人基礎力実践」の2科目を設置し、各教科と連携
 - 総合的な探究の時間でのキャリア教育の実施「総学ノート」での活動の記録の活用
 - 様々な場面での「キャリアノート」の活用
- 2 地域企業との連携
 - (1) キャリアシップの確立
 - ① 就業体験（ホップ）→②勤労実践（ステップ）→③就労実践（ジャンプ）
 - ② 企業連携及び企業の現場視察による企業情報の収集
 - ③ 生徒の適正と企業が必要とするスキル等のマッチング
 - (2) 全学年を対象とした企業ガイダンスの実施（進路ガイダンス）
 - (3) 複数社への応募前見学の参加
- 3 生徒の内的・外的理解をベースとした指導の展開
 - (1) 「錦城高校生活アンケート」実施
 - ・学校充実度・自己肯定感・自己有用感等数値目標を設定
 - (2) 生徒の内的理解及び外的理解によるきめ細かな指導の展開
 - ・「1日目安40人」週間の実施（声掛けの実践）
 - ・生徒情報共有及び教育相談体制の確立
 - ・キャリアを意識した定期的な生徒への個人面談及び年間を通じた個人面談の実施
- 4 学校行事やボランティア活動等
 - 錦城園を活用し、地域と連携したSDGs活動

【取組の効果】

中学生時代に不登校であった生徒など、多様な生徒が在籍する中で、きめ細かな指導をベースに学校教育活動全体でキャリア教育を展開している。その結果、生徒自身が自分のキャリアを見つめなおし、学びなおし、将来を考えることにつながっている。また、学校と地域や企業が様々な場面で連携する中で、社会との関わりを実践的に経験し、基礎的・汎用的能力を身につけ、将来地域で活躍する人材の育成につながっている。

こうした錦城高校の取組は、多様化する定時制高等学校の生徒に対応するキャリア教育の先進的モデルとなっており、その成果も着実に現れている。

【ホームページ】

https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/kinjo-hs/NC3/%E9%80%B2%E8%B7%AF%E7%8A%B6%E6%B3%81/page_20211117053726

https://dmzcms.hyogo-c.ed.jp/kinjo-hs/NC3/%E9%80%B2%E8%B7%AF%E7%8A%B6%E6%B3%81/page_20211117045123

<兵庫県>（種別：学校）雲雀丘学園中学校・高等学校

推薦理由

雲雀丘学園中学校高等学校では、「多様な体験が生徒のキャリア形成へとつながる」という考えから、探究教育をキャリア教育の一環と位置づけている。そこで今回は複数ある探究教育の中から、外部団体・企業との協力を特に行っている3つを取り上げ推薦する。

1、NPO法人与協力した起業体験プログラム

オリジナル商品の企画、製造、販売を行うプログラムで、模擬企業を設立する。生徒は一年間を通して、企業

とは何か、モノ作りとは何か、働くとは何かについて学んでいく。販売する商品を実際に企画、製造するため答えのない問題に取り組むことになり、受け身ではない主体的な学びへとつながる。またグループワークを通して、協働して課題に対処する力も養う。これらの経験は、どのようなキャリアを歩む際にも有効なものであると考えられる。

2、産経新聞やサントリーと協力したNIE教育

新聞を教材として使用した探究学習で、新聞の電子版から選択した記事や写真を、Metamoji Classroom を用いて自分の視点や感想とともにまとめる。社会で現在おこっている問題に対して「自分事」として興味・関心を持つことができ、将来のキャリアを考える上で役立たせる。また、関係が深いサントリーと協力し、Zoom を用いた社員へのインタビュー、職場見学を行い、それらを新聞記事としてまとめるという学習も行っている。育休取得者の復職率の高さに迫る記事などを作成する予定である。

3、竹中工務店、安井建築設計事務所と協力した建設現場見学

本校70周年行事の一貫で建て替え工事をおこなっている「文化館」を活きた教材とし「建設現場に潜入」と銘打ち、現場体験を通じて、生徒達のキャリア教育の一環とする。また、建設業で働く女性「けんせつ小町」に着目し、動画を作成、兵庫県県土整備部土木局技術企画課の主催するコンテストで入賞した。

<兵庫県> (種別：学校) 兵庫県立西神戸高等特別支援学校

推薦理由

平成29年度に開校し、今年度5年目を迎えた。開校当初から職業科の特別支援学校として、知的障害の生徒を対象に自立と社会参加の実現に向けたキャリア教育の充実を図り、企業就労を目指すために学ぶ学校を目標に進めた。本校では、『自分らしく働く』『自分らしく生きる』を生徒自身の意思で、自己選択・自己決定できるように支援する」をテーマにして進路指導を展開している。進路指導部ではガイダンス機能の充実を図るため、企業での体験実習毎に、生徒・保護者及び担任を加えたキャリアガイダンス（懇談会）を実施し、実習の振り返りの中で実際に学んだこと、課題として挙がってきたことを整理し、次回実習先の選択や次回までの目標を定め、生徒一人一人が「自分らしさ」を發揮できる機会を増やしてきた。一貫して生徒の主体性を重視し、生徒が自分で積極的に取り組んでいくことを目指している。

また、本校ではSC部（Specialized Courses：専門教科コース）が中心となって組織的・系統的にキャリア教育を進めてきた。まず校内で「職業自立を目指す学習」として職業教育【ビルクリーニング等・製菓製造や販売練習等・喫茶サービス等】を実践し、パーソナルスキル育成段階から汎用性スキル育成段階にまでそのスキルを高めていく取組を行っている。またその校内での取組を「サテライト・授業」や「サテライト・デイ」という授業展開の中で地域資源を活用し、地域の企業や自治体等と連携した校外での授業実践につなげている。さらに様々な環境で共同作業について学び、チームを組んでリーダー等の役割を果たす取組にもチャレンジしながら、社会的・職業的自立を促進させている。

以上のような進路指導部とSC部の取組及び学校をあげてのキャリア教育推進の結果、これまでの卒業生（一期生、二期生）89人の80%以上が企業就労を達成し、そのうち離職者は2人（3%）にとどまっている。

【ホームページ】 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~nkobek-sn/>

<奈良県> (種別：学校) 奈良県立十津川高等学校

推薦理由

奈良県立十津川高等学校では、「十津川の雄大な自然と地域の温もりの中で、『知、徳、体』の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成を目指す」という教育方針を基にキャリア教育プランを策定し、幼、小、中、高での連携教育、地域との連携を重視したキャリア教育に取り組み、地域社会に貢献できる人材の育成を目指している。

1 吉野熊野学（総合的な探究の時間）

地域社会と自分との関わりを見だし、貢献する態度・職業観を養うことを目標に、班ごとに村役場等と連携し、地域社会の課題に主体的・協働的に取り組む。また、中学校との合同発表会を開催し、そこで得られた外部からの意見をフィードバックすることで、地域と自己との関わりを再発見し、自分の在り方を見つける一助としている。

2 ふるさと学（学校設定科目）

防災編と地域編の2つのテーマについて、奈良県社会福祉協議会等の協力により基礎的な知識・技能を身に付け、災害ボランティア等を通して非常時における実践力を身に付ける。また、変化し続ける現代社会で答えのない課題に直面した際に、自らの力でよりよい未来を切り拓いていくことができる力を育む。

3 地域でのインターンシップ

平成26年から村内の事業所、村役場等に依頼し、第2学年次の夏期休業期間に職場体験を実施している。希望進路に応じた職場での体験を通して、職業観・勤労観の醸成を促し、コミュニケーション能力を育成する。

4 小中高連携による地域教育

中高連携教育を基本とする小中高地域連携教育を平成31年から実施している。特に、生徒会活動や総合的な探究（学習）の時間は、生徒が中心となることで、自ら考え実践する機会となっている。

5 地域との連携事業（コミュニティースクール）

平成29年からコミュニティースクールとして、各関係機関と連携を図りながら、地域と共にある学校づくりを推進している。

<奈良県>（種別：学校）奈良県立奈良西養護学校

推薦理由

学校教育目標に掲げる「社会参加と自立を目指して主体的・意欲的に学ぶ力や生きる力を育み、人とのつながりの中で心豊かに共に生きることを喜ぶ人間の育成」を目指し、地域の企業や大学と連携し、キャリア教育に取り組んでいる。

「高等部農場班の実践」

1 近隣大学の農学部との連携

障害の有無や年齢、経験に関わらず、誰もが取り組みやすい農法を授業に取り入れるに当たり、大学の農学部より講師を招聘し、農業の技術や方法等について研修する。教員が専門家から指導を受けて得た農業に関する技術や知識を、障害特性を踏まえた指導方法や支援方法に生かし、授業展開や教材準備を行っている。

2 生徒が主体的に取り組むことを目指した授業改善

将来の社会参加を見据え、「しごと」の授業の一環として大和野菜作りに取り組む。障害のある生徒が主体的に取り組めるよう、補助具等を教員が作成し、全ての工程を生徒たちが行える環境設定等を行う。

3 地域の企業等との連携

栽培した大和野菜は、地域の企業の商品作りに用いられ（芋焼酎の原材料）、近隣の事業所で店頭販売されたりしている。地域社会とつながり、学校以外の場で経験を広げたり他者と関わりコミュニケーション力を養ったりするなど、障害のある生徒の社会参加の可能性を広げられるよう取り組んでいる。

<鳥取県>（種別：学校）鳥取県立鳥取中央育英高等学校

推薦理由

- 「地方創生」をテーマに「地域探究の時間」を設定
- 所在地及び隣接の2町と協約を締結し、フィールドワーク等を実施
- 「地域創造ハイスクールサミット」を実施し、県内外高校と交流
- 北栄（ほくえい）町議会協力のもと、探究成果に基づいた提言を実施
- 「普通科高校ふるさとまなびプロジェクト」に初年度（H30）から参加

平成27年度から「地方創生」をテーマに「地域探究の時間」を開始した。この時間は、地域のリーダーや地域課題を解決できる人材の育成を目的とし、1年次に「地域探究入門」（H30～）、2年次に「地域探究の時間」（フィールドワーク・課題解決策の提言）、3年次に校外探究活動（希望者）を行っている。これらの充実のために、平成26年度に北栄町、令和2年度に琴浦（ことうら）町と「地域探究の時間」推進に関する協約を締結した。また、「北栄ツアー」（青年会議所企画で地域の名勝の案内役を務める）、「夢ゼミ」（地域で活躍する大人とのゼミ授業）を実施し、地域への理解を深めている。さらにこれらの成果発表の場として、開始年度から鳥取中央育英高校が主催者として県内外から他校を招き、「地域創造ハイスクールサミット」（～R2）を開催し、毎年、県内及

び県外（島根・兵庫・岡山）から複数校が参加し、互いに刺激し合いながら探究活動への深まりがみられる。さらに、町議会の協力により高校生議会を実施し、『空き家』をカフェや宿泊施設に利用している」「ふるさと館を結婚式場に利用しては」等、探究活動の成果について提言を行い、一部は実現に至っている。事前事後アンケートでは、「自分は必要とされていると思う」（17.6%増）「将来は鳥取県で働きたい」（16.1%増）地域の課題に対して解決アイデアがある」（22.2%増）など、本取組により地域貢献について思いを強くする生徒の増加がみられる。加えて、「ふるさとまなびプロジェクト」（普通科高校独自事業を県の事業として指定し、専門学科高校の取組とは異なる普通科高校でのインターンシップを実施）にも初年度から参加している。以上のように、学校の内外を巻き込みながらの地域探究活動により生徒のキャリア形成に寄与していることが高く評価できるため、鳥取中央育英高等学校を推薦する。

<島根県>（種別：教育委員会）浜田市教育委員会

推薦理由

浜田市教育委員会は、平成22年度より、中学校区ごとの「小中連携教育」を推進している。その具体的な取組は、各校が小中学校9年間を見通したキャリア教育全体計画・年間計画の作成・実践をとおして連携を深めることや、各校に地域コーディネーターを配置し、小中学校で一貫したふるさと教育を推進していくことである。このような取組により、域内全ての小中学校でキャリア教育の視点から教育活動を展開するという基盤が醸成されている。

さらに、令和元年度、島根県教育委員会の「キャリア・パスポート活用・研究事業」の指定を受けた浜田市立原井小学校と浜田市立第一中学校の取組を発信しており、県内各学校の今後のキャリア教育の推進に寄与している。

○浜田市立原井小学校の実践

- ・学校として子どもたちに身につけさせたい力（資質・能力）について共通理解を図り、全教職員で共通の視点をもって教育活動を展開した。
- ・教科間のつながりや教科と行事のつながり、教科等の学びと将来とのつながりを意識した教育活動により、子どもたちの学ぶ意欲が向上した。
- ・「どんな力がついたのか」「これからどんな力をつけたいのか」という視点で振り返ることで、子どもたちは自分の成長を感じたり、自分の目標を決めたりすることができた。

○浜田市立第一中学校の実践

- ・子どもたちに身につけさせたい力（資質・能力）について共通理解を図り、学校行事を中心に「目標をたてる」「活動をする」「振り返る」というサイクルを繰り返した。
- ・子どもたちは教科と行事のつながり、教科等の学びが将来にどうつながっているのかが見え、学ぶ意欲が向上した。
- ・「どんな力がついたのか」「どんな力をつけたいのか」という視点での振り返りにより、子どもたちは自分の成長を感じたり、次の目標を決めたりすることができた。

浜田市教育委員会の取組は、各校の育てたい「資質・能力」を明確にし、学校間の取組をつなげることを推進した優れた実践であることから推薦する。

<岡山県>（種別：学校）井原市立井原中学校

推薦理由

「いばらを愛し、やり抜く力とまき込む力を持った児童生徒」を育成し、小中一貫した系統的なキャリア教育を進めるため、井原中学校が中心となって「ふるさと井原100年構想図」等を作成し、地域と協働して地域課題の解決に向けた取組を実施した。地域住民や幼稚園、小学校、高等学校を巻き込み、協働しながら、主体的に地域学習に取り組むことで、地域への関心や地域への貢献意識が高まった。

○ワーク&ライフキャリア教育の推進

井原中学校区地域学習年間計画に基づき、小学校での学びを生かした地域の方との交流会や企業等での就労体験、地域の魅力拡大や課題解決に向けた「プロジェクト型学習」など、地域課題に目を向け、地域と協働して地

域に貢献する取組を系統的に行うことにより、職業観と人生観を育み、井原市の取組であるワーク&ライフキャリア教育の推進につながった。

○井原市観光マップ「るるぶる」の作成

井原の特産物、観光地、産業を再発見したり、地域住民や観光客に井原の魅力を伝えたりする取組として、総合的な学習の時間で「知る・見る・遊ぶ・食べる」をテーマにした井原市観光マップ「るるぶる」を作成した。観光マップを見る人に対する相手意識をもち、何をどのように紹介するかを考えることにより、井原の町を活性化したいといった地域への愛着や誇りを高めることにつながった。

○地域や他校種と協働した地域課題の解決に向けた取組

生徒が主体となった井原市ガイドマップ「るるぶる」の作成や井原応援プロジェクト「ミナクルネ（井原市冬のイルミネーション）」へ参画する中で、小学生や高校生との校種間連携を充実させた。地域課題への取組に対する地域住民や商工会議所青年部からのフィードバックにより、地域貢献への達成感を味わうとともに、地域への愛着や貢献意識を高めることができた。

○生徒の変容等

以上の取組の結果、下表のような生徒の意識の変容が見られた。このことから、地域への理解や愛着が生まれ、地域課題に対して関心をもち、地域の未来について主体的に考えることができるようになったことがうかがえる。

質問項目		R 2. 4月	R 3. 2月
1	地域で起こっている問題や出来事に関心がある。	70%	75%
2	地域をよくするために、自分が何をすることができるか考えることがある。	48%	77%

<岡山県>（種別：学校）岡山県立笠岡高等学校

推薦理由

- ・当該校は、明治35年（1902年）に創設された全日制普通科高校であり、古くから地域に親しまれてきた岡山県南西部の進学拠点校である。校訓である「自律・創造・友愛」のもと、学校教育目標を「志高く自らの人生と社会の未来を拓く人を育てる」と定め、その実現のため学校全体で系統的・体系的なキャリア教育を推進している。
- ・平成30年度に現行の学校教育目標に改定するとともに、キャリア教育の基礎的・汎用的能力と学習指導要領の改訂を踏まえ、「育てたい資質・能力」を「教養力」、「思考力」、「表現力」、「協働力」、「省察力」、「志力」の6つに整理し、「未来開拓力」と総称している。総合的な探究の時間（校内名称：ACT）をキャリアプログラムの軸とし、自分の将来を考える「キャリア探求」、社会の未来を考える「課題探究」の2つの柱で整理し、実施した。オリジナルテキストとして「ACTノート」を作成し、活用している。
- ・「未来開拓力」を6つの力に整理したことにより、総合的な探究の時間を中心に、全教科・科目、特別活動等全ての教育活動を有機的につなげることができ、地域や大学とも連携した体系的な取組となっている。また「未来開拓力」の育成状況を、ルーブリックを用いて定期的に測定することにより、着実な育成と取組の改善につながった。

○「キャリア探求」

キャリアプログラムのガイダンスや高校生としての学び方を学ぶ講座をはじめ、大学訪問や企業訪問等を「キャリアセミナー」として実施し、自らの将来へとつながる系統的な取組となった。

○「課題探究」

1年次におけるローカル課題から未来を考える「地域学」では、地元の笠岡市と連携し、市長によるキックオフセミナーや市役所各課、カブトガニ博物館、竹喬美術館等の担当者から現状と課題についての説明を受け、課題の解決に取り組み、笠岡市に解決策を提言した。2年次におけるグローバル課題をSDGsの視点を取り入れて考える「テーマ探究」では、1年次の取組からさらに視野を広げ、地域や世界の興味のある分野の課題に対し、大学と連携し指導助言を受けながら、自ら問いや仮説を立てて検証し、論文にまとめた。これらの活動から、大学の関係する学部・学科への進学を志願する生徒が増加した。

○キャリア・パスポートの活用

「キャリア探求」と「課題探究」を往還する活動として、キャリア・パスポートの活用等を位置付け、一人一人が主体的に(Active)、じっくりと考え(Thinking)、自分らしく創造する(Creative) ACT の取組に、教員が対話的に関わることで、効果的な「未来開拓力」の育成につながった。

<岡山県> (種別：学校) 岡山県立高梁城南高等学校

推薦理由

当该校は、地域における専門教育の拠点校として、高梁市産業観光課や観光協会、地域協働活動コーディネーター等と連携し、地域に貢献できる人材の育成に資する取組を実践した。地元商店街の活性化や地域経済の発展に向けた課題を活動テーマに掲げ、各学科の特性を生かしながら、カフェ出店に向けた店舗改装や商品開発、カフェの運営や専門学科の特徴を生かしたワークショップの企画等に取り組んだ。

○「城南カフェ」出店を通じた学科横断的なキャリア教育

カフェの出店に向けて、デザイン科が内装デザインや食器・家具製作及びマスコットキャラクターのデザイン製作を手掛け、電気科が店舗の電気配線工事やランプシェードの製作に取り組んだ。また、環境科学科は植物を使ったインテリアやカフェのメニュー開発に取り組み、各学科が特性を生かして連携し、職業観の育成につながった。

○創造性を育む課題解決学習の実践

「城南カフェ」のロゴデザインやマスコットキャラクター（備中松山城の猫城主「さんじゅーろー」）のイラスト発案など、デザイン製作の活動は、生徒の主体性を高める取組につながった。また、さんじゅーろーラテの商品化に向けた活動は、ステンシル型を製作し、オリジナルカフェの魅力向上につながる創造性を育む実践となった。

○地域と連携した商品開発

地元食材を活用し、高梁紅茶やもち米を用いた日持ちする焼き菓子を考案した。また、地元製菓店に協力を仰ぎ、マドレーヌを開発し、商品名は「さんじゅーろー」をモチーフにした「ニャドレーヌ」と称し、販売した。加えて、生徒が包装箱のイラストもデザインをするなどの主体的な活動み見られ、地元の活性化に寄与するとともに、課題解決力を育む学びとなった。

○生徒の変容等

生徒は、出店体験を通して、主体性や創造性を身に付けた。また、「私は、自分の学校に誇りを持っている」のアンケート項目では、R2年度の肯定的な回答が67.6ポイントで、本取組を行う前の2年前と比べ19.9ポイント上昇するなど、自校に対する肯定的な意識が図られた。さらに、地元食材の利用や地元染料のベンガラを使用した食器や内装などの製作を通して、地域への理解が進み、愛着心が育まれた。

<広島県> (種別：学校) 竹原市立賀茂川中学校

推薦理由

賀茂川中学校は、生徒に育成したい資質・能力として、①活用できる知識・技能 ②表現力・説明力 ③多面的・多角的に考える力 ④チャレンジ精神 ⑤共存していこうとする態度を設定し、自治的活動に焦点を当てた特別活動や総合的な学習の時間を中核に、生徒の主体的な学びを生み出すキャリア教育を推進している。

令和2年度は第2学年において企業と共同した「広島空港プロポーザル大会」を軸に据え、キャリア教育を展開した。令和3年度全国学力学習状況調査の生徒質問紙調査では、「将来の夢や目標を持っていますか。」の設問の肯定的回答が90.9%（全国68.6%）、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。」の肯定的回答が90.9%（全国65.9%）であり、キャリア教育で求められる基礎的・汎用的能力の育成に結びついていることが顕著である。賀茂川中学校の取組は、地域や産業界との連携によるキャリア教育の優れた実践であり、キャリア教育優良学校として推薦する。

○プロポーザル大会からバスツアーの商品化へ

《第2学年：総合的な学習の時間》

広島空港民営化に当たり、広島空港ビルディング（株）が企画した『私たちの求める広島空港』プロポ

ーザル大会 イベント企画部門」の募集に対し、第2学年がイベント案を考え、応募した。「空港利用の現状分析→課題の洗い出し→イベント案創出」というプロセスで取り組み、滑走路をバスで走る・機内食を食べる等のアイデアを盛り込んだバスツアー案をオンラインでプレゼンテーションしたところ最優秀賞を受賞した。翌年、旅行会社により5日間設定の日帰りバスツアーとして商品化されるに当たり、オンライン会議で企業の方と案を練る・モニターとしてツアーを体験し意見を述べる等、企画への参画も果たした。

この過程で、生徒は、課題の発見やその克服のための情報収集、情報の整理・分析などを繰り返し、主体的・探究的に課題を掘り下げていく力と、分かりやすく魅力的なプレゼンテーションを行う力を身に付けていった。

《他学年との共有》

オンライン提案したプレゼンテーションは他学年の生徒にも披露・共有し、次年度の第2学年へ取組がつながるよう工夫している。

○地域や社会とのつながり

《外部講師・人材の活用》

上記の第2学年の取組では、アナウンサーによる話し方講座受講や、見学の際に空港で働く方々に直接話を聞く等の学習を行った。他の学年においてもマナー講座、認知症サポーター養成講座等、自治体や企業の実施している「出前講座」を積極的に活用している。

講師から直接話を聞くことにより様々な職業があることに触れさせ、大人に学び、社会に学ぶ学習活動・体験活動を大切にしている。

《積極的な情報発信》

地元ケーブルテレビや新聞各社に対し、生徒の学習活動について情報提供している。取材で新聞やテレビ、広報紙等に取り上げられることが地域や保護者への情報発信となり、評価・励ましの声を学習にフィードバックすることができている。生徒は、地域や社会と学びが繋がっているという実感を得、そのことが次の学習活動への意欲につながっている。

○取組の成果

生徒は学習を通し、社会参画とは何かを実感したり、働くことの意味に考えを巡らせたりするなど、様々な角度から学びを深めている。地域の活性化のためのボランティア案を練るなど、実社会とつながった真正の学びが推進されている。

<広島県> (種別：学校) 広島県立広島商業高等学校

推薦理由

生徒の社会的・職業的自立に向けた資質・能力を育成するため、広商デパート等をはじめとした実践的・体験的な職業体験を実施している。

また、生徒の論理的思考力や創造的思考力、起業家精神を育成するための各種プログラムを行うとともに、卒業生やPTA、同窓会等と連携したキャリア育成プログラムを実施するなど、生徒のキャリア教育を組織的・系統的に展開している。

(1) 各種プログラムによる組織的・系統的なキャリア教育

令和2年度より商業単科校4校による商業教育の充実に向けた探究学習の取組を進めており、中でも当該校は、広島県の商業高校拠点校でありリーダー校としての役割を担っている。1年次「ビジネス探究プログラム」では、各時間における「本質的な問い」を設定し、「なぜ学ぶのか」や「学びと社会との関わり」を考えさせることによって、自己のキャリア形成に寄与している。また、2年次「アントレプレナー・エッセンシャルズ」では、米国NFTE社の起業家精神育成プログラムを活用して、生徒の論理的思考力や創造的思考力を育てるとともに、自身のアイデアが社会に与えるインパクトを考えさせるなど、変化の激しい社会に柔軟に対応するための資質・能力の育成を意図している。

(2) 地域の課題解決に向けたビジネスプランの作成

地域における課題を主体的に発見し、解決する力を育成している。また、商業研究部の活動においては、地元企業・団体と連携し、事業アイデア、ビジネスプランを作成・提案し、実施する取組を継続的に行っている。近年では、江田島の活性化に向けた取組、令和3年度は、コロナ禍における花の需要の激減、大量廃棄の課題解決

に向けて「LOSUVO FLOWER (ロサボフラワー)」を立ち上げた。小売店・中央卸売市場・花農家への取材をもとに仮説を立て、市場調査を行い、地元テレビ局の取組取材し、ビジネスプランを作成し、活動をスタートさせた。仮説を検証し、活動を継続している。校内では、商業研究部の取組にとどまらず、各授業（ビジネス探究・商品開発・課題研究等）においても横断的に取り組んでおり、地元への理解・愛着・誇りを育むとともに、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度の育成を意図している。

(3) 広商デパート等の実践的・体験的な職業体験

実践的・体験的な学びを通して、生徒は自身の学びの意義や目的を再認識するとともに、自己のキャリア形成に資するため、広商デパート等の販売実習を展開している。令和3年度は、外部企業と連携し、ウェブデザインやマーケティングの手法を用いた本格的なインターネット販売を展開し、コロナ禍における制約も好機と捉え、生徒のキャリア形成に寄与している。

<広島県> (種別：学校) 府中市立府中明郷学園

推薦理由

府中市立府中明郷学園では、府中市小中一貫教育を縦軸、コミュニティ・スクールとしての地域協働を横軸として、コロナ禍であってもより一層キャリア教育の充実を図るよう学校経営を推進し、児童生徒のキャリア発達を支援している。その実践具体例を、次に挙げる。

1 9年間を見通したカリキュラム開発

今まで構築していた小中一貫教育カリキュラムに基づき、より一層児童生徒の資質・能力の向上につながるよう、生活科・総合的な学習の時間を核とし、9年間を貫くカリキュラム開発に取り組んでいる。「生活科プロジェクト」(1・2学年)、「地域発見プロジェクト」(3学年)、「恕の心プロジェクト」(4学年)、「ワーキングプロジェクト」(5学年)、「地域開発プロジェクト」(6学年)、「職場体験プロジェクト」(7学年)、「地域協創プロジェクト」(8学年)、「未来プロジェクト」(9学年)を通して、児童生徒が教科・学校行事・地域社会等をつなげ、学びを深めていくカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。

2 VR (バーチャル・リアリティ) 職場体験学習

昨年度、VRを活用した職場体験学習を実施した。事前に各事業所内をVRカメラで撮影し、一人一台端末で360度、生徒が気になる景色を見ながら話合いや質問等ができる活動を仕組んだ。生徒は、本来近づくことができない大型機械や危険箇所にも端末を活用し注視するなど、地場産業の技術力の高さや熟練度に気付くと共に、キャリアプランニング能力向上を図った。

3 企業支援チームの立ち上げ

総合的な学習の時間を中心に、7学年で模擬会社設立、8学年で商品開発・販売・決算を行っており、その模擬会社経営を通じた学びの過程で、地元の起業家を講師として招聘している。本年度より、コロナ禍においても、より一層学校と地域社会が協働できるよう地元起業家による企業支援チームを立ち上げ、組織化した。その企業支援チームとの協働を通して、児童生徒のみならず、教職員の深い学びにもつながっている。

4 教職員の資質・能力及び指導力の向上

教職員が地元企業の経営指針発表会等に参加するなど、経営戦略の立て方や事業説明を学ぶ機会を得て、教職員自身の自己管理能力やキャリアプランニング能力を高めている。このことは、児童生徒の学びの広がりをもたらすと同時に児童生徒に身に付けさせたい資質・能力の定着と向上につながっている。

5 カリキュラムを推進する「振り返り」の充実

企業支援チーム立ち上げ・組織化という対応を取って協働体制システムを構築することについて触れたが、また同時に、児童生徒の「振り返り活動」にも力を入れている。

「毎時間の授業」「1日の終わり」「毎月末のまとめ」の三つの振り返りで、「できた・できなかった」だけでなく「なぜ?」「どう工夫した?」「次はどうする?」と「未来志向で自問することから、学びのサイクルが動き出す」という仮説のもと、学びの検証と改善を行っている。

＜山口県＞（種別：学校）山口県立田布施農工高等学校

推薦理由

平成 22 年に山口県立田布施農業高等学校と山口県立田布施工業高等学校を再編・統合し、山口県内では唯一農業科 3 学科と工業科 1 学科の両学科を設置した専門高校である。めざす学校像として、「ものづくり学習をとおして地域社会で活躍する将来の職業人を育成する学校」を掲げており、県内を中心に卒業生の 6 割以上が就職をしている。

令和元年度から 3 年間、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(プロフェッショナル型)の指定を受け、従来から取り組んできた地域との連携活動やコミュニティ・スクールの仕組みを活用するとともに、その支援のもとで「地域課題の解決等を図る探究的な学び」を充実させ、将来の地域産業の担い手としての幅広い知識・技術や Society5.0 に柔軟に対応する創造力を有し、世代を超えて他者と協働して課題を解決できる人材の育成をめざしている。

1 学校経営におけるキャリア教育の位置付け

(1) 学校経営方針

三つの教育目標をもとに各科の特徴を生かし、三年間を通じて様々な授業、実習、地域連携活動、地域貢献活動を体験し実践することで、知識・技術・資質を生徒が身に付け、最終的に「地域の文化や産業を理解し、夢や目標を持ち地域社会に貢献しようとする意欲や態度の育成」を図るため、

1 年次：地域を見て知る (eye)

2 年次：地域のことを自分ごととして考える (I)

3 年次：地域を愛し地域に貢献する (AI(愛)) の 3 つのあいをキーワードに「農工維新！田布施あい³(あいキュービック)プロジェクト」を推進している。

(2) コミュニティ・スクールの取組

平成 30 年にコミュニティ・スクールを導入し、「地域とともにある学校づくり地域を支えるひとづくり」のスローガンのもと統合以前から伝統的に取り組んできている地域連携活動、地域貢献活動をより発展させ、地域社会で活躍する将来の職業人の育成に努めている。この度の田布施あい³プロジェクトの導入により、コミュニティ・スクールを発展させたコンソーシアムを構築することで、キャリア教育における教育内容と地域での実践を地域の産業界、自治体からもより強力なサポートを得られる体制を築いている。本事業ではコンソーシアムの委員からの意見やアドバイスをもとに 3 年間を見とおした取組を推進することで、地域課題の解決を図る探究的な学びを通じて、地域を知り、地域を愛し、地域に貢献し、地域の将来を担う人材の育成を図ることを目的としている。

(3) 教育課程の編成

田布施あい³プロジェクトを充実させるため、1 年次には、総合的な探究の時間(産業基礎)で他学科の学習内容を体験し理解した上で、Eye をテーマに地域を見て知り、地域課題を発見し、田布施あいレポートを作成する。2 年次には、総合実習や各科専門の授業の中で 1 年次に発見した地域課題の解決に向けてアイデアを考え、発表会を実施している。3 年次には、2 年次に考えたアイデア実現に向け、課題研究や総合実習などにおいて学科間の連携を図りながら、地域と連携した商品開発、未利用資源の活用など実践的な取組を実施し、地域の課題解決と活性化へ貢献する活動を行っている。

2 田布施農工式地域連携型キャリア教育の具体

(1) 田布施あい³プロジェクト

コミュニティ・スクールの仕組みを発展させ、地域への課題意識や貢献意識をもち、将来、地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から支える人材を育成する。

(2) 地域の未来を支える人材づくり

将来の地域産業の担い手となる幅広い知識・技術を身に付けた人材の育成をめざす。また、農工の特色を生かした研究の他、外部人材の活用等をおして課題を発見し、解決に向けて活動できる人材育成を行う。

ア アグリフォーラム

イ 耕作放棄地の有効利用に向けて～家畜牧草の栽培～

(3) 地域活性化の取組

地域資源を有効利用し付加価値の高い商品を開発し、地域ブランドを確立する等、地域社会の発展を担う

人材を育成する。

- ア 地元食材を使った玖珂PAでのカレー販売
- イ 酒粕饅頭、酒粕クリームブリュレ、たぶせサブレ、青春(あおはる)クレープの製造販売
- ウ 「望幸隊」による防災食の開発や防災訓練の実施
- エ 県特産の「プチソレイユ」の有効活用

(4) イベントの企画・運営

地域社会の課題解決に向けて主体的に取り組む姿勢・能力を身に付ける。

- ア 田布施防災公園計画
- イ 田布施防災フェスタ立案
- ウ 田布施キッズ教室の開催
- エ ものづくり、工作教室等の開催

(5) 産学公との連携

地域の人とかかわる中で、他者の立場で物事を考え、目標を達成するために他者と協働する意欲と態度を育成し、地域社会のリーダーとなる人材を育成する。

- ア 「やまぐち6次産業化・農商工推進大会」参加
- イ HACCP 基礎講座研修
- ウ GAP 取得基礎講座

3 Society5.0の到来等、社会の変化に柔軟に対応した今後のキャリア教育

(1) 成果

① 田布施 View 会議

田布施町役場職員と、未来の田布施町についてディスカッションを行った。地域の魅力や課題を考え、その発展・改善に向けた具体的な取組を考えた。将来、地域で生きる一員として考えることで地域への愛着が向上した。

ア 田布施町の過去と未来～50年後の田布施を創造しよう～

② まなびで“きびる”プロジェクト

「自分にもっと自信を持てるように」「認められて自己肯定感が養えるように」等、Society5.0に対応できる人材を育成するため、様々なプログラムを実施した。自分の新たな可能性への気づきや、自分を売り込むコミュニケーション能力の向上につながった。

- ア 自分を売り込む名前デザイン
- イ アイディア発想トレーニング～アイディア100本ノック～

③ タブレットを使った地域連携

「新しい生活様式」を踏まえた地域連携として、タブレットを使った「本校と地域小学校」「本校と地域工場」等のリモート授業を行った。「コロナだからできない」ではなく「新たな可能性」を探り実践できたことで、生徒の思考力が向上し達成感を得ることもできた。

- ア 田布施町立城南小学校カボチャ栽培リモート授業
- イ 田布施町内企業のリモート工場見学
- ウ 山口大学進路説明会

(2) 課題

① 情報モラルの構築

スマートフォンや1人1台タブレット端末の利用により、生徒がICTに関する知識・技術を急速に身に付けている現状がある。個人情報管理やSNS等の情報発信によるリスク等について指導を行い、情報モラルの向上を図りたい。

② 持続可能性を重視した組織作り

キャリア教育の活動において、特定の教員に業務が集中しないように業務改善を行う必要がある。知識・技術を共有し複数教員が対応できる組織を作ることで「持続可能」なキャリア教育が可能となると考える。

 <徳島県> (種別：学校) 上板町立高志小学校

 推薦理由

「上板町立高志小学校では、人口減少社会の中で、子どもたちが生きる時代には、これまで以上に主体性が問われ、人との繋がりをどのように結んでいけるかという力が重要であると考え、生産者、各種企業の経営者等の多様な他者と協働し、体験・交流活動を通して学ぶキャリア教育を実践している。令和2年度は「100年先を創る起業家育成事業」(徳島県教育委員会)の研究校として指定され、地元畜産農家や県内起業家と連携した起業体験活動の推進に積極的に取り組んだ。

【具体的取組】

低学年では、地元畜産農家や各種野菜栽培等に携わる方、食に関する提案を行う起業家との交流を通して生産・消費の関係性を学び、4年生は、実際の栽培を通して規格外農作物の商品化について、東京のレストランシェフや小ロットの缶詰企画会社と連携し、持続可能な循環型社会について考えた。5年生は、阿波藍を種から栽培し、葉の収穫だけにとどまらず、マスクづくり、染色、ネット販売のための市場調査、販売など阿波藍の「6次産業化」に取り組み、6年生では、地域のエンシカル豚について探究的に学ぶことで、エンシカル豚から繋がる様々な人たちの思いに触れるなど、発達段階に応じた多様な取り組みを学校全体で実践している。

【成果】

学校全体での組織的・系統的なキャリア教育は、子どもたちのキャリア意識の醸成に効果的な役割を果たしている。一人の生産者(起業家)の思いが地域の人たちを繋ぎ、次世代を担う世代へ引き継がれていくことの大切さを体験的な学びを通して、子ども達に伝えることで、地域との連携もより強化されている。地産地消・食育などをはじめ学年別にカリキュラム化された実践は「第3回ジャパン SDGs アワード」特別賞や「第5回博報賞」を受賞するなど高い評価を得ており、本県小・中・高等学校教員対象の「キャリア教育推進フォーラム」においても活動内容を動画配信にて発表するなど、その成果の普及にも努めている。

 <徳島県> (種別：学校) 徳島県立那賀高等学校

 推薦理由

徳島県立那賀高等学校には、森林を創造的に学ぶ県内唯一の単独学科である森林クリエイト科がある。平成28年度に新設された本科は、林業関連企業や職人との交流を通して、専門的な知識や技術を習得し、将来起業家として、徳島の林業を担うことのできる「人材」の育成につなげることを目標とし、組織的・系統的なキャリア教育を実践している。令和2年度は「100年先を創る起業家育成事業」(徳島県教育委員会)の研究校として指定され、林業関連企業や職人と連携した起業体験活動の推進などに積極的に取り組んだ。

【具体的取組】

「徳島版マイスター制度ステップアップ事業」に参加し、木造建築物を正確に移築する方法や手工具の使い方の指導を受けた。木材加工出前授業では、職人の現状や課題、ものづくりにおける心構えを学び、木育に観点を置いたオリジナル木育玩具「木ッケー(もっけー)」の製作を行った。ログ加工出前授業においては、専門家からログ加工の基礎・基本の実技指導を受け、3年生の卒業作品としてログベンチを製作した。さらに、木材搬出実習及び高性能大型林業機械操作講習を通して、伐採した木材の搬出方法や森林管理や森林経営についての知識・技能を学ぶなどキャリア意識の醸成を図るための専門性の高い実践的な取り組みが行われている。

【成果】

地域との連携を強化し、林業関連企業や職人から専門的な知識や技術、仕事に対する情熱や姿勢を学ぶとともに、消費者の目線で商品を作ることの大切さを学習することで、職業観の育成や地域産業への貢献意欲が醸成され、毎年卒業生の6割強が林業関連産業に従事している。また、生徒たちが実習で作製した作品は町内の林業ビジネスセンターの木育広場に設置され、地域で活用されている。さらに阿南市内のホテルにおいて、木材加工品の常設展示販売を開始するなど、森林資源の「6次産業化」を実践し、地元産木材の商品価値の向上を図るなどその成果の普及にも努めている。

 <香川県> (種別：学校) 香川県立三木高等学校

 推薦理由

当校は、「国際感覚を身に付けた地域のリーダー育成」を目的に、学校活動にSDGsの視点を取り入れ、自治体(三木町)・地域の中小企業・小中高大および他団体と連携し、地域理解を深めて、自分の将来を見通した主体的な取り組みができる生徒の育成を図っている。

○三木町との連携

- ・昨年より、三木町と「包括連携協定」を締結し、様々な教育活動に対して協力してもらっている。
- ・2年次総合学科「進路探究(総合的な探究の時間)」において三木町の課題について町の担当者と意見交換を行いながら探究し、高校生が町に新たな提案を行っており、実際に予算化され実現に向けて動いている企画も出ている。
- ・流通系列生徒が7年前から「コミノプロジェクト」として、地元の農産品を用いた商品開発やイベントの企画等で継続的に過疎地域の活性化に取り組んでいる。
- ・放課後児童クラブや障がい者施設イベント等でのボランティアを通して、地域理解と進路意識を引き出す校外体験活動を推進している。また、その活動成果を今年度から、2年「進路探究」の授業とつなげることを検討している。

○. 地元中小企業との連携

- ・1年「産業社会と人間」で、「働く意味」について学ぶことや地元中小企業への理解を深め、地域にその魅力を発信することを目的として、香川県中小企業家同友会の協力を得てジョブシャドウイングによる「インタビューシップ」を実施し、成果発表会「Connecting room」で地元の中学生、保護者、三木町役場などを招き地域に中小企業の魅力を発信すると共に地域の拠点校としての役割を担い、その実践を他校に普及する産学共育推進活動に協力している。

○小中高大連携(授業・生徒会・課外活動)

- ・本校生徒が三木高校の魅力伝えることを目的に、三木中学校2年生を対象に学校の特色を伝え、授業見学や授業体験を実施している。
- ・学習意欲の向上を目的に、教育学部を志望する2年次生を対象に小中学校での1日教育実習を体験している。
- ・国際理解を深めることを目的に、国際系列2年次生を対象に香川大学インターナショナルオフィスにて8ヶ月間の長期体験プログラムを実施している。今年度から、香川大学長と本校で「インターンシップ覚書」を交わし、より充実させる方向で取り組んでいる。
- ・三木町内での若者同士の共育ちを目的に、小中の児童会・生徒会の活動にSDGsの観点を入れ、本校生徒会が援助して生徒会・児童会の意識向上に関わり、小中の活動成果を本校文化祭で地域に発信する。
- ・その他豊学校、香川東部養護学校、香川大学農学部・工学部・医学部、JICA、アイパル香川、日本赤十字社香川県支部、香川県赤十字血液センター、香川県社会就労センター、福祉就労施設朝日園等とも連携して様々な体験活動を推進している。

 <愛媛県> (種別：学校) 八幡浜市立八代中学校

 推薦理由

八代中学校では、1年生の総合的な学習の時間において、「ふるさと学習」を行っており、地域住民との交流等を通して八幡浜市の現状等を学び、主体的に地域に関わり、ふるさとに夢や誇りを持つ生徒の育成を推進している。その活動の際に、八幡浜市が進める「シビックプライドの醸成」の一環として八代中学校がモデル校となり、八幡浜市政策推進課、愛媛大学と連携し、取組を進めてきた。

令和元年度には、1年生を対象に、市職員や大学生による講話を2回、市職員、大学生、地域住民との座談会を2回、様々な企業への校外学習を2回、合同企業説明会を1回行った。市職員と愛媛大学社会共創学部学生が共に授業に参加した。授業後には、互いに課題を話し合い、次回の打合せを行った。また、愛媛大学教授からも助言をいただき、ふるさと教育にキャリア教育の視点を取り入れた取組を行った。

令和2年度は、コロナ禍により計画していた取組が十分にできなかったが、3学期に、1年生が「合同企業説明会」、2年生が「大学生、地元の方との語り場」を行った。「合同企業説明会」は、地元企業9社がブース

を設け、生徒が 15 分程度の説明を受け、ローテーションしていく形で行った。「大学生、地元の方との語り場」は、大学生 6 名とオンラインで、市職員 2 名と対面で座談会を行った。

八幡浜市政策推進課や愛媛大学と連携して取り組んだこれらの活動を通して地元八幡浜市で活躍している大人の姿を肌で感じ、その思いを知ること、ふるさとに対する誇りを育むことができた。また、地域を担う人材を育成するためのキャリア教育にもつながり、今年度以降も継続して取り組む予定である。

＜愛媛県＞（種別：学校） 愛媛県立上浮穴高等学校

推薦理由

愛媛県立上浮穴高等学校は、普通科・森林環境科設置校として、それぞれの学科の特性や生徒の発達段階に応じて、きめ細かなキャリア教育の推進に取り組んでいる。特に森林環境科では、地域の特色を生かしながら、生徒一人一人のキャリア発達を促し、社会参画力や人間関係形成力等を育成している。

○特色ある学校づくり

企業と連携し、規格外トマトの普及活動及び商品開発、特産野菜を使った商品開発、クロモジ製品の商品開発及び販売等、地域の特徴や強みを生かした活動を通して、地域の活性化に貢献する、愛媛の未来を担う人材の育成を図っている。

○インターンシップの実施

普通科 1・2 年生の一部が、職場体験を 3 日間実施している。また、森林環境科 1・2 年生の一部が、職場体験 3 日間、1・2 年生全員が、林業インターンシップを 1 日、それぞれ実施している。体験的な活動を通して、勤労観や職業観の育成を図っている。

○キャリア教育講演会の実施

普通科及び森林環境科の 1・2 年生において、キャリア教育に関する講演会を実施し、様々な職業に対する興味・関心を高めさせるとともに、キャリア形成に向けた実践的な取組を行っている。

○教育課程の編成

森林環境科では、2 年次後半から、総合実習において、育林専攻班・木材加工専攻班・園芸専攻班の 3 つの専攻班に分かれ、より専門的な知識や技能を身に付けることができるよう教育課程を工夫している。

○キャリア教育に係る情報発信

キャリア教育の実施状況を、随時ホームページにも掲載し、保護者や企業に情報を発信している。

＜愛媛県＞（種別：PTA 団体等） 川之江先輩塾（愛媛県立川之江高等学校教育支援団体）

推薦理由

同団体は、同校卒業生等による教育支援団体であり、同校卒業生の大学教員を講師として、平成 28 年度から始まった出前授業の実施を契機に、同校の教育活動を支援する組織として発足した。令和元年度以降は、活動内容を拡大し、現在も継続的に同校の教育支援活動を行っている。

同団体による出前授業は、同校生徒の職業理解につながる進路研究のみならず、課題発見や問題解決に向けた総合的な探究の時間をはじめとする探究活動等、生徒が自分のキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育成する、キャリア教育の充実に多大な貢献をしている。

また、同団体は、令和元年度に同校が立ち上げた、海外研修事業である「川之江高校グローバル人材育成事業～第 1 回スコットランドプログラム～」の企画・運営及び経済的支援等を行うなど、生徒の海外渡航経験の拡充によるキャリア教育の推進にも大きく寄与した。

このように、平成 28 年度以降における同団体による継続的な教育支援活動は、同校のキャリア教育の充実・発展に寄与しており、今後も、同校と連携して、キャリア教育の推進を継続させるとともに、更なる活動の充実を図っていくこととなっている。

【主な取組】

①出前授業（同校生徒対象）

「川之江先輩塾」DAY①

- ・同校卒業生の大学教員による、大学進学についてのアドバイス等

「川之江先輩塾」DAY②

- ・同校卒業生の大学教員が専門とする研究テーマについての講義

「川之江先輩塾」地域協働学習①

- ・地元で働く同校卒業生による講演

「川之江先輩塾」地域協働学習②

- ・地元で働く同校卒業生を講師に迎え、地域課題を探究する学習

②出前授業(中学生対象)

- ・中学3年生対象のオープンスクール時に実施する、「川之江先輩塾」による出前授業

③こんにちは先輩

- ・同校卒業生が准教授を務める愛媛大学を訪問

④「川之江高校グローバル人財育成事業」

- ・希望者対象のスコットランド研修
- ・出国前、地元企業開発の紙製品等に関する事前調査・研究
- ・渡英中、紙製品に関する調査・研究
- ・帰国後、調査・研究成果を地元企業に発信

<高知県> (種別：学校) 高知県立梶原高等学校

推薦理由

高知県西部を流れる四万十川上流域にある梶原高等学校は、東津野・梶原の2中学校との連携型中高一貫教育校として6年間の計画的・継続的な教育活動により、生徒の学力の向上、個性の伸長、郷土愛の育成、社会や地域の発展に貢献できる人材の育成を目指している。キャリア教育を学校教育の中心に据え、総合的な探究の時間や学校行事を中心として、地域の歴史や伝統に触れながら、自分自身を客観的に見つけ、将来について考える体験型の学習を、地元企業や自治体等の協力のもと実践している。

(1) 総合的な探究の時間：YELL (Yusuhara's Education for Life and Living)

総合的な探究の時間(通称YELL)では、「地域の強みや課題に気づき、愛情を持って自ら地域のために動く」「自分の才能や強みに気づき、クリティカルシンキング(論理的・批判的思考)を身につける」「時代の変化に対応できるグローバル人材になる」の3つのスローガンのもと、中高合同のキャリア教育講演会、地域を学ぶフィールドワーク「地域探検」、人口減少など地域に関連した内容や自己の在り方生き方について町内関係者の講話等を通じて考える「クリティカルシンキング講座」、地域密着型のインターンシップ、地域の課題に対して自分たちができることは何かを考え、活動する「地域課題解決学習」などの取組を、3年間を通じて系統的に行っている。

(2) 地域をテーマとしたプロジェクト学習

また、チームによる体験を通じて地域の歴史や文化・伝統を深く学ぶ以下のプロジェクト学習も、生徒の地元への理解はもとより、愛着や誇りを育み、地域を担う人材の育成に大きく寄与している。

①伝統文化「津野山神楽」の継承

梶原高等学校ディスカバークラブの生徒を中心として、千年以上の歴史があり、国の重要無形民俗文化財にも指定されている「津野山神楽」を、地元の神楽保存会の指導を受けながら実践的に学ぶとともに、町内の行事等で学習の成果を披露している。また、コロナ禍においては、神楽の魅力についてインターネットを通じて全国に発信するなどの新しい取組も行っている。

②環境資源「神在居(かんざいこ)の千枚田」の保全

「雲の上の町」とも呼ばれる梶原町は、平地が少ないことから山の斜面を利用した農耕作が発達している。なかでも、町内に点在する棚田のうち「日本の棚田100選」にも認定されている「神在居(かんざいこ)の千枚田」は、有名な景勝地となっている。しかし、近年は後継者不足による耕作放棄地の増加が課題となっていることから、生徒たちが田植え、草刈り、収穫等の維持管理活動に関わり、棚田の保全及び地域の景観の維持に貢献している。

③産業振興や地域の魅力発信

鳥獣被害対策により捕獲した鹿肉や鹿革を活用し、地元の新たな産業になりつつある「ジビエ料理」や「鹿革レザークラフト」などの商品開発にも、地域の全面的な協力のもと挑戦している。また、生徒が企画・立案を行

い、SNS 等を利用して栲原町をはじめとした津野山地域の魅力を発信する取組も進めており、町の広報誌や総合振興計画のリーフレットでも紹介されるなど、その取組は地域からも注目されている。

(3) 地域貢献活動

その他、隣接するこども園の0～6歳までの園児との合同避難訓練や、例年1500名をこえる参加者のある「龍馬脱藩マラソン大会」の運営ボランティア（直近2年は中止）、冬場の除雪作業ボランティアなど、地域内外の幅広い年齢層の人々と関わりながらの地域貢献活動も積極的に行われている。なかでも、家庭クラブの生徒が栲原町内のボランティア団体とともにやっている、町内の道の駅にある茶堂での休日のおもてなしボランティアは、17年間にわたり代々継承され、コロナ禍においても試行錯誤を重ねながら活動を継続させている。これらの活動は、生徒の自己肯定感を高め、豊かな人間性を育むとともに、改めて自己の在り方生き方を考えるきっかけとなっている。

<福岡県> (種別：学校) 飯塚市立幸袋中学校

推薦理由

1 取組の概要

飯塚市では生徒が未来を幸せに生き抜くために必要なコミュニケーション能力・コラボレーション能力・イノベーション能力の育成を目標に学校教育を行っている。本中学校は飯塚市の指針に則り、キャリア教育の推進を学校の重点に上げ、総合的な学習の時間を軸とし目標達成に3年前から取り組んでいる。取り組んだ内容は主に次の2点である。

- ① 職業観・勤労観を醸成する PBL の実施
- ② 他校との交流を通して協働的に解決する力を培う PBL の実施

本中学校の総合的な学習の時間で実施している PBL (Project-based Learning) は、学習者が課題を発見し、様々な努力をする過程で、経験や知識を得る学習スタイルのことである。

2 具体的実践

① 職業観・勤労観を醸成する PBL

第1学年で実施する単元「企業からのミッション」は、飯塚市産学振興課と連携し、地域企業に協力を仰ぎ、その企業が抱える課題を提供してもらい、その課題解決の解決策を考え、企業に提案するものである。この学習を通して、生徒は課題解決のためのいくつかの解決策を見だし、その解決策のメリット・デメリットを考えながら1つの解決策に絞っていく過程を学ぶ。第2学年では第1学年で得た学びをさらに広げるという観点で、教育と探求社が実施する「コーポレートアクセス」を行っている。ここでは、フィールドワークやアンケートの実施など企業の実務を体験した後、大和ハウス、大正製薬、パナソニック等の大手企業が出すミッションに取り組む。企業理念や事業内容、社会の中で企業の持つ役割を学ぶだけでなく、企業が実際に取り組む正解のない課題に、知恵や自由なアイデアを持ち寄ってチャレンジし、新たな価値を創造するという体験をする。第3学年ではこれまでの PBL のまとめとして「飯塚提言」を実施している。飯塚市長から出された課題「飯塚市のみなさんが幸せを実感できるまちづくり」の実現の為の問題点を見つけ SDGs の視点で解決策を考え、市長に提案するというものである。この一連の学習では、これからの時代が求める職業観・勤労観を身につけさせ、さらに SDGs の視点を積極的に取り入れたことで持続可能な社会を実現する担い手である自覚も促す効果が期待できるものとなっている。

② 他校との交流を通して協働的に解決する力を培う PBL

PBL では協働的に問題を解決する力が必要不可欠である。そのことを踏まえ、初対面の人と身近な課題を解決する PBL を実施している。第1学年、第2学年は私立中学校である上智福岡中学校の生徒たちとオンラインでつなぎ、「世界に一つだけの部活動を考えよう」をテーマに、同世代の相手との意見の合意をめざし取り組んだ。第3学年では、福岡大学の学生とオンラインをつなぎ、「世界中の若者が一緒に取り組む夢のプロジェクト」をテーマに世代を超えた初対面の人々との解決を行った。このように初対面の中でも自分を表現し、合意形成をはかるスキルを学ばせている。

以上の実践は、キャリア教育が目指す、将来社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を確実に育成する実践である。

＜福岡県＞（種別：学校）福岡県立福岡農業高等学校

推薦理由

福岡県立福岡農業高等学校食品科学科の「課題研究」において、梅研究班は太宰府市の全面協力の下、日本遺産に登録されている「太宰府の梅」を用い、生徒たちが大宰府政庁跡の梅の収穫から加工までを行い、地元企業と協力しながら商品開発を行っている。また、共同開発を行った企業から売り上げの一部を太宰府市に寄付していただくことで観光振興や梅園の環境整備などに役立て、生徒たちの活動が地域活性化に繋がっている。

1 梅を活用した新商品の開発

- (1) カルビー株式会社との連携：商品名「合格する梅（パイ）ポテトチップス」
 - ①Web 会議を通して、商品開発において味決め、パッケージデザインを通してコンセプトやターゲット等のノウハウを学習した。
 - ②商談実習を通して、商品売上の仕組みや小売店の熱意・工夫を知り、職業観を育成できた。
- (2) 株式会社山口油屋福太郎との連携：商品名「うめんべい（梅味）」
 - ①地元企業による地域特産品利用の商品開発を通して、地域活性化を学習した。
 - ②共同開発を行う中で、当企業に就職を希望し、受験後、内定をいただき就職した生徒がおり、進路実現に結びつけることができた。
- (3) 有限会社チョコレートショップとの連携：商品名「梅チョコ」
 - ①生産工場での製造実習を通して食品産業の実態を学ぶことができた。
 - ②ふるさと納税返礼品の開発や海外への出店を目標とすることで、商品開発における合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。
- (4) 西鉄グループとの連携：商品名「太宰府梅サイダー」
 - ①太宰府市の観光振興のため、特産品開発について学習した。
 - ②観光列車「旅人」での車内販売実習や JAL との連携による販売実習、九州国立博物館ミュージアムショップでの販売実習を通して職業人としての豊かな人間性を育むことができた。
- (5) 西日本高速道路リテール株式会社との連携：商品名「梅ギョーサ」、「梅あんまんじゅう」
 - ①製造実習で学んだ製造技術を応用し、生産性の向上や安全・安定製造に必要な資質・能力を育成できた。
 - ②地域農産物を活用したブランド化により、地域振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。

2 キクイモを活用した新商品開発

J A筑紫管内で栽培されるキクイモを普及させるため、太宰府市、J A筑紫とキクイモを活用した商品開発を行った。キクイモは北米原産の多年草で、塊茎に血糖値の上昇を抑えるなどの効果がある水溶性植物繊維の「イヌリン」を多く含む野菜である。このキクイモの普及と消費拡大を行うため、福岡で人気のゴボウうどんを参考に、ゴボウをキクイモで代替したかき揚げと麺にキクイモを練りこんだ「キクイモかき揚げうどん」を開発した。「第9回ご当地！絶品うまいもん甲子園」九州エリア選抜大会で優勝し、全国大会に出場した。

開発の過程では、太宰府市やJ A筑紫と協力する中で、「SDG s × 地元の看板メニュー開発！」のテーマの意味や普及の大切さ等多くのものを学ぶことができた。

3 SDG s の取り組み

これらの商品を開発するにあたり、新商品を作るだけでなく、世界的にも取り組まれているSDG sの理念の基に活動を行っている。

梅の商品開発においては、果肉や果汁を商品に加工しているが、種子については梅炭として土壌改良材に再利用し、再生可能な資源とする取組を行い、廃棄ゼロを実現することができた。キクイモかき揚げうどんについては、J A筑紫管内の地元食材を用い、ニンジンも普段処分するヘタ周りを使用し、地産地消と食品ロスにつながる新メニューを開発することができた。

「目標11住み続けられるまちづくり」に関しては、太宰府市のふるさと納税返礼品の商品化を行い、商品の梱包・発送作業を太宰府市障害者団体協議会「あす・ラック」に委託することで障がい者の就労支援に努め、共に生きる社会づくりに貢献している。

4 受賞等

- 第5回ディスカバー農山漁村の宝認定

- ディスカバー農山漁村の宝サミット参加
- 第9回ご当地！絶品うまいもん甲子園」全国大会に出場
- 平成29年度福岡県6次化商品コンクール奨励賞
- 平成30年度福岡県6次化商品コンクール奨励賞
- 第20回福岡県デザインアワード大賞入賞
- 全国高校生ビジネスアイデアコンテスト 2018年度、2019年度特別賞

<福岡県> (種別：PTA 団体等) 春日小学校おやじの会

推薦理由

- ・「春日小学校おやじの会」は、PTA と別組織の任意の保護者団体であり、OB 等を含む約 50 人が参加し、子供たちの健やかな成長のために活動している。
- ・春日小学校におけるキャリア教育は、コミュニティ・スクールの取組の一環として、学校・家庭・地域が連携して実施している。第4学年の総合的な学習の時間「夢をかなえるために」と「二分の成人式をしよう」の2単元を通して、将来の展望をもち、希望や自信をもって成長していこうとする意欲の向上を図っている。このことは、学校教育目標の達成につながっている。
- ・このうち、総合的な学習の時間「夢をかなえるために」では、職業人との交流を行っている。
- ・おやじの会は、平成27年度から継続して、職業人との交流について全面的に企画・運営を担い、学校の教育活動を積極的に支援している。
- ・おやじの会は、企画・運営のため、約3か月前から定期的に会議を開き、人選、授業理解、役割分担等綿密な計画を立てており、学校だけでは深められないレベルにまでキャリア教育を充実させるとともに、教職員の働き方改革にも寄与している。
- ・おやじの会が支援を開始したきっかけは、同会のメンバーである平成27年度PTA 会長がボランティア団体「北九州キャリア教育研究会」の講師を務めており、春日小学校でもキャリア教育に貢献したいと学校側に相談したことである。
- ・毎年、おやじの会、北九州キャリア教育研究会、保護者等を中心に多様な講師を集め、子供の興味・関心を高めている。
- ・コロナ禍により外部人材との交流が難しかった令和2年度は、オンラインによる交流を企画し、学習のねらいを達成した。オンライン交流の準備も全て専門的技術を持ったおやじの会のメンバーが担当し、スムーズに学習を展開できた。

【ホームページ】

<https://www.kasuga-school.com/school-news/4%e5%b9%b4%e7%94%9f%e3%80%80%e3%82%ad%e3%83%a3%e3%83%aa%e3%82%a2%e6%95%99%e8%82%b2%e3%80%801%e6%9c%8824%e6%97%a5/>

<佐賀県> (種別：学校) 有田町立有田中学校

推薦理由

1 学校及び地域の実態

有田中学校は、「郷土を愛し、未来を切り拓く健やかな体と豊かな人間性・創造性を持つ生徒の育成」の学校教育目標のもと、教育活動に取り組んでいる。地元産業である窯業が衰退していく中、生徒たちが、郷土を誇り、それぞれが自分の夢や希望を持ち、自分で考えて行動し、夢に挑戦すること、自分の行動に責任を持つこと、将来は地域に貢献できる人材になることを願いながら、教育活動を展開している。

そのような中で、家庭・地域の教育力を生かし、生徒に地域の一員としての自覚を高めさせ、将来の生き方を考えさせることで、生徒が主体的に自らの生き方を考える力を育むことを目指している。

2 キャリア教育における取組内容

有田町は、「有田の歴史は有田焼の歴史」といわれるほど、生徒達の生活は焼き物と密接に関わっている。そこで、生徒に地域の一員としての自覚を高めさせ、将来の生き方を考えさせるため、1年生では「有田町についての学習」、2年生では「生き方学習」、3年生では「国際理解」をテーマに取り組んでいる。

- 1年生 「有田町について知ろう」
 - ・九州陶磁文化館の職員の方を講師とした有田焼の歴史についての講話及び陶芸教室における窯業体験
 - ・有田焼をテーマにした調べ学習
- 2年生 「生き方を考えよう」
 - ・地元の事業所と連携した職場体験学習→令和2年度は「ありたまち歩きマップ」作成
 - ・有田工業高等学校セラミック科の生徒たちを講師とした陶芸教室における窯業体験
- 3年生 「国際理解を深めよう」
 - ・国際理解をテーマにした調べ学習
 - ・地域の伝統工芸師の方を講師とした陶芸教室での窯業体験

例年2年生で3日間の職場体験学習を実施していたが、コロナ禍の状況で実施が困難となった。また、有田陶器市などの町内の主要なイベントも例年通りの実施が困難となり、有田町への観光客が減った。そこで、2年生では中学生として有田町に貢献できることを考え、町内の事業所や観光名所を調べたり、事業所等でインタビューを行ったりした上で、観光案内パンフレット「ありたまち歩きマップ」を作成した。

以上述べた活動のねらいとして、

- ①有田についてより広く深く知り、有田に貢献することを考える。
- ②社会性やコミュニケーション力をつける。
- ③有田焼や有田町に対する誇りと自信を持つ。
- ④体験活動を通して地域の方と触れ合うことで自分の生き方を考える。

など、学校だけでは得られない体験を通して、生徒が主体的に自らの生き方を考える力を育むことができると考え取り組んでいる。

「地域とのつながり」「伝統文化の継承」を念頭に置きながら、生徒に望ましい職業観・勤労観を身に付けさせ、主体的に進路を選択する態度・能力を養う活動を通して、将来的に有田町を支える人材育成につなげたいという強い思いがある。そのために、生徒と教職員、地域が一体となって、創造的・組織的な学校づくりを推進している有田中学校を、キャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰に推薦する。

<佐賀県> (種別：学校) 佐賀県立小城高等学校

推薦理由

1. 学校の現状と課題について

小城高等学校は特色ある高校づくりの一環として20年以上に渡り、「オンリーワン事業」に取り組んでいる。これはキャリア教育を時代の要望に応じて継続実施してきた事業である。H29, 30年度に県の研究指定校として、「次期学習指導要領研究」に取り組み、「オンリーワン」活動に関する成果と課題を明らかにした。その中で、研究の大前提となるオンリーワン活動における探究活動の位置付けについて再確認し、生徒が自己の将来像をより明確に描けるようなキャリア教育を目指している。

2. キャリア教育の学校目標について

1年次に地元企業と連携したキャリア教育特別講演会を含む課題発見活動と課題探究手法学習、2年次にグループでの課題研究とプレゼンテーション活動、3年次に自己の興味関心を活かした進路実現研究という課題を設定し、それぞれの生徒に適したオンリーワンの生涯学習への深化を図っている。また、このような課題探究活動や講演会・オンリーワン課題探究発表会・レポート作成などの活動を通して、人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力を育成し、生徒一人一人のキャリア意識の向上と深化を図り、地域や世界を担う優れた人材へと育むことを目指している。

3. キャリア教育を通じて身に付けさせたい資質・能力、態度について

学力の三要素を基盤に据え、「キャリア教育」を床柱に見立てて教育活動の中心に据えている。そして「学習活動」「探究活動」「部活動」「生徒会活動」「ボランティア活動」等の諸活動をその他の柱に見立て、「道徳教育」「消費者教育」「人権・同和教育」等の多様な教育活動と関連付けながら、一人一人の「ワンアップ」を目指している。さらに「産・学・官」との連携を積極的に推進して学校教育力を高め、社会人として必須の「キャリアデザイン力」を鍛えながら、本人が自信をもってこれだけは他に誇れる「オンリーワン」の実現を目指している。

4. 3年間の体系的な指導について (各学年での指導概要)

〔1年生〕

課題探究活動の必要性、その取り組み方学習を通して、社会が求める人物像と今後の自己の在り方を理解すると同時に自己理解を深める。また、地元企業と連携したキャリア教育特別講演会などを通して、職業観や勤労観、郷土愛を養成する。また、ICTを利活用した情報収集能力を身に付ける。

〔2年生〕

課題探究活動を通して、自己の興味・関心を掘り下げる活動に取り組む。身近な地域から地球規模に至るまでの様々な課題解決に向けて主体的で共同的に取り組む方法を身に付ける。また、レポート報告会やオンリーワン課題探究発表会を通して、文章の表現力やICT機器を活用したプレゼンテーション技術を磨く。年度後半ではキャリア形成ための方向性を定める。

〔3年生〕

自己探究活動を通して、現代社会が抱える様々な課題について知り、自己の考えや知識を整理し、論理的な思考力を養成する。また、講演会や志望理由書作成などを通して、自己の在り方や生き方を考え、進路実現や自己実現に向けて考察する。このような活動全般を通してタブレットを活用した指導をする。

このように、地域や外部機関と連携し、組織的・系統的なキャリア教育に取り組んでいることから、当該校をキャリア教育優良学校として文部科学大臣表彰に推薦する。

＜長崎県＞（種別：学校）長崎県立諫早高等学校

推薦理由

「自立創造（高い志を抱いて自分の人生を自分の力で切り拓く）」の校訓のもと、「生徒の主体性・自主性を育てる取組」と、「地域との繋がりをつくる取組」により、生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成し、地域を担う人材を育成するためのキャリア教育を推進した。

＜主な取組＞

○「未来人財セミナー」

県内企業20数社を招聘し、企業理念や事業内容、働き方改革への取組、働くことの意義等について説明、質疑応答、意見交換会を行い、地元企業の魅力や働くことの意義について理解を深めた。

○「グローバル講演会」

生徒有志が組織する企画チームが、講師の選定、依頼、打ち合わせ、当日の運営、希望者によるワークショップ等、全てを担い、新たな知や価値観との出会いの場をつくりあげた。

○「学生団体との交流」

東京大学の学生団体Farewind、医療系の学生団体MedYou Laboとの交流を行い、ワークショップを実施した。進路意識が向上し、専門的な知見を深めるだけでなく、新たな視点に気づくなど、資質能力の向上につながった。

○「医学科離島インターンシップ」

医学科への進学希望者を対象に、離島地区に所在するへき地医療拠点病院や診療所を訪問し、離島医療の現状に触れ地域医療への理解を深める計画に取り組んでいる。（3回計画したもののコロナ禍によりいずれも中止。）

＜取組の成果＞

○「人間性豊かにして、徳・知・体の調和のとれた社会に有為な逞しい人間を育てる」という教育方針のもと、様々な取組を実施し、生徒の主体性・自主性を育成した。

○地域との繋がりをつくる取組を通して、生徒の進路選択やキャリア発達を促すとともに、地域を担う人材育成につながるキャリア教育を実践した。

＜長崎県＞（種別：学校）長崎県立壱岐商業高等学校

推薦理由

地元の企業や自治体等と連携しながら、体験活動の充実を図り、地域課題の解決に取り組むなど、生徒の地元への理解・愛着・誇りを育み、地域を担う人材を育成するためのキャリア教育を推進した。

＜主な取組＞

○「ふるさと商人」

商工会議所と連携し、壱岐島内の企業でのインターンシップを実施した。

○「SDGs 地域活性化プロジェクト」

「SDGs 未来都市・自治体モデル事業」の指定都市である壱岐市と連携し、SDGs のテーマに分かれ、地域活性化プロジェクトに取り組んだ。

- ・地元レストランと協働し、QR コードを貼付したランチョンマットを開発。
- ・島内の神社や真珠加工業者と協働し、お守りを製作、観光 PR につなげた。

○「介護体験学習」

地域連絡協議会の協力を得て、介護体験学習を実施した。若手介護職員とのパネルディスカッションを行ったり、車椅子でのワゴン乗車体験や YOUTUBE 撮影会を行うなど、幅広い体験学習に取り組んだ。

○「壱岐名産の食材を使った商品開発」

民間製パン会社とコラボし、壱岐名産の食材を使った商品開発に取り組んだ。

<取組の成果>

- 現場体験実習では、社会性やコミュニケーション能力を育成するとともに、就労に対する意識の変化をもたらした。高い教育的効果となった。
- アイデアを形にし、自分たちの手で社会を変えるといたプロジェクトを体感させ、生きる力の育成につなげた。
- 地域との密接な関わりを通じて、地域にまつわる職業への意識醸成とともに地域への愛着を育む機会となった。
- 生徒のアイデアを生かした商品開発・販売といった取組を通して、生徒の意欲を引き出した。

<長崎県> (種別：学校) 長崎県立長崎鶴洋高等学校

— 推 薦 理 由 —

県内唯一の水産科と総合学科を併設した学校の特徴を生かし、他校種や地域・産業界等との連携・協力を主体的に図りながら、地域の教育力を活用し、組織的・系統的なキャリア教育を推進した。

<主な取組>

- 1年次に自己理解を深め、職場見学や進路ガイダンス（上級学校を含む）を経験し、2年次からの類型（水産科）や系列（総合学科）を選択。
- 2年次におけるインターンシップ、宿泊型漁業研修（県水産部連携事業）を実施。水産業従事者・後継者育成も行う。
- 3年次では他校種や地域・産業界等との連携・協力をしながら販売実習や商品開発、地域貢献活動といった各種取組を展開。

(1) 販売実習

学校の特徴ある実習製品（水産物等）の販売を近隣商業施設にて実施。

(2) 商品開発

全国1位の生産量を誇る「いりこ」に着目し、地元小学校や地元企業（いりこ製造業、パン製造業）と連携し「いりこ屋のラスク」を開発し、販売した。パッケージ等を小学校に依頼、本校においては商品のイメージやアイデアを企業と検討を重ねた。

(3) 地域貢献活動

- ・コロナ禍で、高校生にできることを考え、フェイスシールドを製作し、関係機関へ寄贈（医療機関、長崎県・長崎市）した。
- ・ドローン（空中）を活用し、近隣小中学校を空撮し航空写真を寄贈した。
- ・臨海実習場における幼稚園、小学校及び特別支援学校との共同・交流学习をした。

<取組の成果>

- 個々の進路希望、興味・関心に応じた類型選択・系列選択を実現した。
- 実習やインターンシップを通して地元企業や水産業（離島地区を含めた漁業）への理解を深めるとともに職業観や勤労観を育成した。
- 多くの体験活動を取り入れ、生徒の「自己理解、他者理解、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力、表現力」を育成した。

<長崎県> (種別：PTA 団体等) 東彼商工会青年部東彼杵支部

推薦理由

東彼杵中学校は、令和元年度に旧千綿中学校と旧彼杵中学校が統合し新設された中学校です。統合初年度から2年間の長崎県教育委員会の研究指定を受け、研究主題「ふるさとへの愛着と誇りを持ち、地域社会や産業を支えるキャリア教育の実践とふるさとを活性化する実践研究」を設定し、研究実践に取り組んできました。初年度の中間指導では、中学2年生での「町おこしアイデア発表会」の取り組みを報告しました。2年目には3年生の「町おこしプラン商品開発・模擬会社」の実践発表を試みましたが、コロナウイルスの感染拡大により計画変更を余儀なくされました。そのため、起業家教育の導入となる1年生の事業所体験活動の実践発表を行い、予想以上の取り組みとなり、地域と協働した確かな成果を残すことができました。

これまでも職場体験学習を含め、東彼杵町商工会の会員の各企業・事業所からの協力をいただき、児童生徒のキャリア形成に向けた充実した取り組みを行ってきました。とりわけ今回の研究指定に当たり、学校側から東彼杵町商工会青年部に対しての協力要請に対し、さまざまな取り組みのアイデアや献身的なご協力をいただきました。具体的には、協賛する事業所を募っていただき、どんな体験をさせるのかアイデアを出し合い、それぞれ工夫を凝らした出張事業所体験を企画運営していただきました。また、その後の座談会では、それぞれのこれまでの体験談や職業に対する思いなどをしっかり子どもたちに伝えてもらったことで、研究のねらいである「当事者意識を持ち、主体的に学ぶ意欲を高める」ことが達成できました。また、準備から後片付けまで、商工会青年部の皆さんが、すべて自分たちで自主的に協力をいただく姿は、児童生徒はもとより当日参観された関係者の皆様にも大きな感動を与えてくれました。また、中学校だけでなく、校区の2つの小学校でも、地域の主な生產品のお茶の販売、総合学習での協力等を行っていただいています。また、地域においても、先進的な企業活動や地域活動への協力も積極的に行っており、児童生徒やPTA活動へも多大な良い影響を与えてくださっています。町の活性化と人材育成を見据えて、研究指定期間だけでなく長期的に協力する体制を構築していただきました。

以上のような活動実態や実績に鑑み、教育委員会や学校がキャリア教育を円滑に推進するため、長年にわたり継続的に学校に協力し、推進体制の整備に積極的な活動を行っている団体として推薦します。

<熊本県> (種別：学校) 大津町立大津中学校

推薦理由

大津町立大津中学校は、令和2・3年度熊本県教育委員会指定「熊本の学び」研究指定校「キャリア教育」研究指定を受け、5年後に社会で自立できる生き方を育む教育実践を行っており、推薦に値するものである。

大津町立大津中学校では、学校教育目標『自主・自律・挑戦』社会の中で自立して生き抜く力を身につけた生徒の育成』を掲げ、教育活動を行っている。また、基礎的・汎用的能力をもとに重点的に育成をめざす資質・能力を設定し、自立に向けて必要な基盤となる能力・資質の自校化を図っている。

また、研究主題を「自ら生き抜く力を身につけた生徒の育成 ～キャリア教育の視点に基づく、全ての教育活動の推進を通して～」と設定し、研究・実践を図っている。

研究の視点として、

視点1：「解決する力」を伸ばす、探究的な学びのある総合的な学習の時間の実践

視点2：「見つめる力」・「計画する力」を育む、要としての特別活動の実践

視点3：「つながる力」を高める、授業改善

を設定し、全ての教育活動において、キャリア教育の視点に基づく指導を行い、大津中学校で目指す資質・能力の育成が図られている。

令和2年度には、3年生の総合的な学習の時間で、「大津町への提言」をテーマに、大津町役場と連携し、町の未来を考える学習を行った。学習の中で、役場各課の方から、町の取組や課題を説明いただき、その課題解決のための提言を作成し、役場職員との意見交換会を行った。また、令和3年度には、大津町長から町の将来像や今後の施策等について講演会を行った。このような活動を取り入れながら、地元への理解、愛着、誇りを育てている。

キャリア・パスポートを軸にした取組を行い、キャリア・カウンセリングや職場体験を計画的に取り入れ、学校全体の取組として系統的に行っている。

 <熊本県> (種別：学校) 熊本県立天草工業高等学校

 推薦理由

熊本県立天草工業高等学校は、昭和38年に開校し、今年度で59年目を迎える工業系学科を有する専門高校である。

本校には、機械科・電気科・土木科・情報技術科が設置されており、産業界のリーダーとして時代の変化に柔軟に対応できる工業技術者の育成を強化するため、教科での学びの他、地域の関係機関（行政・事業所・大学等）と連携・協働した実践的・体験的な教育活動が展開されている。

インターンシップにおいては、地域の事業所の協力を得て4日間実施し、一部の事業所では事業所内の宿泊所を活用し高度な教育プログラムによるインターンシップも実施するなど内容を充実させている。また、地域の事業所と連携しドローンに関する探究プロジェクトも実施しており、災害やインフラ点検、測量等の視点から探究し、高度な知識や技術を身に付けさせている。また、現場見学の機会も設け、現在の学びと社会との繋がりを考えさせる機会を多く設けている。

行政や事業所と連携し、地域企業の合同説明会を学校を会場として実施し、管内の他校の生徒も説明会に参加できるよう働きかけ、説明会は、管内高校の就職希望者のみならず、進学希望者にとっても地域事業所の魅力を知る良い機会となっている。また、地域の子どもの遊び場の創出や地元商店街の活性化を目的としたプロジェクトにも多くの生徒が参加し、その企画・立案を行い、外部講師を招聘して地域の活性化について生徒自らが考える機会としている。

大学が主催する各種コンテストや講演会等にも多くの生徒が参加している。全国高等学校土木設計競技大会（日本大学主催）では最優秀賞を受賞し、全国高校生ビジネスアイデアコンテスト（日本経済大学主催）では全国上位8校のファイナリスト賞を受賞し、海外大学（台湾の大学）の講演会やサマーキャンプ等にも生徒が参加するなど、グローバルな視点の育成や英語力の向上も図っている。また、県教育委員会が実施する「専門高校生グローバルチャレンジ事業海外オンライン研修」にも生徒を参加させ、海外の現地企業や高校生との意見交換により、各産業分野を超えた教科横断的な学びの機会としている。

以上のように、社会との関わりを通して、自らの役割や価値を見出し、地域への愛着を深める教育活動を積極的に行い、キャリア教育の視点から学びを充実させていることから、ここに推薦する。

 <熊本県> (種別：学校) 熊本県立ひのくに高等支援学校

 推薦理由

ひのくに高等支援学校は、軽度の知的障がいの生徒を対象とした高等部のみの特別支援学校（令和3年度生徒数104人）で、専門学科による職業教育をコアカリキュラムとして、社会自立・職業自立を目指して特色のあるキャリア教育を展開している。

1 生徒の主体的な学びを支える実践
(1) 産業現場等における実習（以下、現場実習）

生徒が主体的に自己の能力や適正を考え、職業選択の意思決定を行うことを目的として、在学中に5回（計12週間）の現場実習を実施している。卒業後の進路決定に向けては、現場実習を契機に雇用につなげる進路保障のスタイルであるため、現場実習に関する一連の活動において、生徒、保護者、学校職員ともに緊張感を持って真摯に取り組んでいる。

新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、現場実習参加確認書、学校による陰性証明書、検温・体調の項目を追記した実習日誌などの各種ツール、リモートによる事前挨拶や巡回指導など柔軟かつ臨機応変に対応している。

(2) 1年生校内実習「チャレンジウィーク」

生徒に対し就労への意識向上と自己理解を早期に促すとともに、教師が一人一人の生徒の職業評価を行うことを目的として、4日間の集中的な職業教育「チャレンジウィーク」を実施している。生徒自身の今後の行動目標を明確にする機会となっている。また、この期間で行ったアセスメントは実習依頼時に生徒の実態を詳細に伝えるための資料としても活用している。

(3) 2年生進路学習「お仕事発見フェア」

職業に対する理解と自己の進路選択の機会として、「お仕事発見フェア」を行っている。様々な業種の企業（8社）を学校に招聘し、生徒が聞きたいこと等を事前に企業に伝えた上で、人事担当者から講話をしていただくことで、生徒は仕事の魅力や身につけておくべき力などを学ぶことができている。

(4) 企業向け学校公開

専門学科の授業見学、企業と生徒との意見交換を目的とした学校公開を平成24年から行っており、これまでのべ150社近くの企業担当者が参加している。企業向け学校公開を実施することで、企業側の知的障がいや本校生徒のイメージの変容につながっており、現場実習先拡充の役割を担っている。また企業側からは、生徒への話し方や指導スキルを参考にしたいという声もあり、互いの専門性を相互に活かしていく取組の基盤ともなっている。

例年、1日開催としていたが、今年度はコロナ禍により三密を避けるという観点から1週間の公開期間を設ける対応をとっている。

2 生徒の実習や雇用の可能性を拓げるための企業側へのアプローチ

(1) 企業への出張講話

障がい者雇用の実績の少ない企業に対し、県内の特別支援学校の紹介、知的障がいの概要、実習生の状況、様々な公的サービスの紹介等の講話を行っている。結果として、企業側の障がいへの認識の変容や必要な配慮や支援についての理解を促す一助となっている。

(2) 就労意向調査票の活用

就職支援の際の企業とのやりとりにおいて、生徒直筆の就労意向調査票を活用している。この票は生徒自身が実習先の魅力や就労に対する思いをまとめたものであり、人事担当者の心を動かし、複数のケースで求人手続き・雇用につながっている。

(3) 公募求人への挑戦

障がい者雇用における労働条件が確立している中、生徒が思い描く就労形態での雇用を保障していくため、適宜公募求人への公募にもチャレンジしている。選考内容が多岐にわたる中、面接に関しては、高等学校からの受験者との差別化を図るため、現場実習の経験を主軸としてアピールする方策をとっている。令和2年度は2人が内定を受け、自己肯定感の高揚につながっている。

このような実践を継続的に行うことによって、平成30年度以降の一般就労率は90%前後で推移している。また、生徒向け進路アンケートでは、約9割の生徒が「自分の進路先に満足している」と回答している。

以上、ひのくに高等支援学校で実践しているキャリア教育の功績は顕著なものであることから推薦する。

<熊本県> (種別：PTA 団体等) 水俣市立水俣第一小学校育友会

推薦理由

本団体（水俣第一小学校育友会）は、平成27年から水俣第一小学校と連携・協働しながら、10月の土曜授業日に全児童が参加する形で職業体験「一小まつり」を例年実施してきた。

「一小まつり」の目的は、将来の職業的な「夢」を持ち、その実現に向けて自分なりに努力しようとする態度を育成することや、地域や社会で働く人々の思いを子供なりに理解し、自分の個性と関連させて職業を理解しようとする態度を育てること等である。

令和2年度の開催では水俣市内の19業種が学校内にそれぞれにブースを設け、希望した児童が体験したり、講話や質疑応答により職業についての理解を深めたりした。育友会としては、企画運営はもちろん、各ブースの担当者を募集し業者の補佐や運営に当たった。

このようにして開催する「一小まつり」は、児童がさまざまな職業を学んだり体験したりできる貴重な学習の場である。参加する4年生以上の児童においては、興味ある職業を希望し、調整のうえ2業種を体験するように配慮してある。3年生までは共通体験ができる業種に絞って体験を重ねている。

本団体は、地元企業や公的機関等に一小まつりへの参加を呼びかけ、学校と地元の「職業」を繋ぎ、一小まつりの充実、発展に努めている。令和2年度も、コロナ禍ではあったが地元の鍛冶屋や左官職人、町なかの工場、農業や漁業、警察や消防など多彩な職種に協力いただき、充実した体験活動ができた。これもひとえに本団体の人脈や熱心な働きかけによるものである。

体験後のキャリア・パスポートの記述には、体験した職業への憧れや感謝、地元への愛着や誇りを書いた児童

が大勢いた。6年間体験した6年生の1割近くが一小まつりで体験した職業につきたいという希望を持つようになった。このように一小まつりは、本校児童の基礎的・汎用的能力の育成に大きく貢献している。

＜宮崎県＞（種別：教育委員会）都農町教育委員会

推薦理由

都農町では「都農町教育振興基本計画」を策定し、その中で、自立した社会人職業人を育む教育の推進を施策目標に掲げ、キャリア教育の推進を図っている。今年度、町と一般財団法人「つの未来まちづくり推進機構」が連携・協働し「都農町キャリア教育支援センター」を開設した。事務局を「つの財団」、センター長を町教育委員会に委嘱、コーディネート業務を町内にある企業に委託という官民一体となった組織体制でキャリア教育を推進している。

1 中学校におけるキャリア教育推進

(1) 職場体験プログラム「つのワク」の実施

コーディネート業務を委託された企業が、町内34事業所の職場体験を企画・運営し、受け身的な職場体験に終わらせないよう、中学生から事業所側に改善提案をしたり、全事業所をオンラインで結び感想を語りあったりするなどの取組を行う。また、職場体験後にも事業所からの中学生へのメッセージ等を発信するWEBサイト「つのワク」を設けるなど、職場体験により町に魅力的な事業所、経営者がいることを体感することができるようなプログラム構成になっている。

(2) 地域課題をテーマにした「つの未来学」の実施

全学年で総合的な学習の時間15時間、各学年のテーマに基づき課題解決学習に取り組む。課題設定では、課題当事者として地域人材を活用し、町がデジタル化を推進していることから、生徒一人1台と各家庭にも1台配付されているタブレットを効果的に使った学習プログラムにしている。また、町のホームページに取組を紹介したり、学習成果として町の課題に対しての解決策を政策提言したりすることへの取組も推進している。

2 キャリア教育推進懇話会の設置

キャリア教育支援センター開設に伴い、町のキャリア教育の総合的かつ計画的な振興を図ることを目的に、産業界、行政、学校及び保護者、地域、それぞれの代表による協議を行う懇話会を設置している。

3 キャリア教育推進のための教職員研修等の実施

昨年度から「キャリア教育支援センター」の開設に向けて、教育委員会主導の下、教職員に対して、町が推進するキャリア教育についての共通理解を行うための研修会を実施した。今年度は中学校における実践報告及び今後のキャリア教育についての方向性についての研修会を実施している。

【ホームページ】 <https://itsunoma.co.jp/carrer-education/>

＜宮崎県＞（種別：学校）綾町立綾中学校

推薦理由

本校は、2014年に宮崎県唯一のユネスコスクールに登録され、ESD推進拠点校として「ふるさと・キャリア」を中心とした持続可能な社会づくりの担い手を育む教育に取り組み、身の周りの事象から世界に目を向け、自ら課題を見付け、解決のために動き出すことを目標としている。以下に具体的な取組を示す。

①総合的な学習の時間

- ・第1学年は、「自然への探究」という目標掲げ、照葉樹林、微生物、水、農作物などのテーマごとに、JAXAなど専門家の方々の支援を受け、木の吸収する二酸化炭素の量を測るプロジェクトに参加し、自然の事物や現象について観察したりすることで、自然の循環について学んでいる。
- ・第2学年は、「人（町）への探究」と題し、伝統文化、食文化、観光などをテーマに綾町の課題を見付け、それを解決する方法を考えている。最終的には、綾町職員の方々に自分たちの考えについてプレゼンテーションを行っている。そこで、生徒は自分たちも町づくりの一端を担っているということを体感している。
- ・第3学年は、これまでの学びを基に「自分への探究」を行っている。生徒は、自分の生き方や故郷の未来を職場体験学習を軸としながら考えている。

②生徒会活動

・SDGs とつなげた目標設定をし、生徒会活動やボランティア活動を行っている。生徒会活動では、自分たちの活動が SDGs の何に関係するのかを考え、身近な生活と世界をつなげている。また、ボランティア活動では、コンタクトレンズの空ケース、古着などを回収し、リサイクル運動にも取り組んでいる。

③リーダー研修

・キャリア教育の推進役としてリーダーの育成にも力を入れ、近隣の県立高校とも連携し、リーダー研修会を行っている。生徒は、高校生に刺激され、これまでの「ふるさと・キャリア教育」を再考し、体系的に活動しようとする機運が生じた。

これらの教育活動をさらに充実・発展させ、「郷土愛のもと、世界に翔く人材」を育てていきたいと考えている。

【ホームページ】 <https://www.unesco-school.mext.go.jp/schools/list/aya-junior-high-school/>

<宮崎県> (種別：学校) 高鍋町立高鍋西中学校

推薦理由

「社会に開かれた教育課程」の視点でキャリア教育を第1学年から第3学年まで3年間を見通したつながりのある内容を計画し、郷土・地域の良さを再発見するとともに、生徒自身の生き方やこれからの社会や時代の可能性を考えさせ、未来を切り拓く実践力を培う以下の活動を主に総合的な学習の時間で実践している。

5～6月 【全学年】「SDGsについて考える」(講話、探求学習)

7月 【1年】体験活動「郷土の再発見」～高鍋まちおこし「デザイン作製」「古墳発掘」「切り花製作」

【2年】職業講話「インターンシップ」～飲食業、ホテル業など

【3年】出前講座「福祉の仕事」～保育士、理学療法士、精神保健福祉士など

8月 【3年】教育委員会、高等学校、塾と町内中学校が連携した「合同学習会」

11月 【2年】職業体験学習「ポスターセッション」

【3年】講話「充実した高校生活をおくるために」～高等学校職員による講話

12月 【全学年】キャリア教育フォーラム「高校生による公演等」

1月 【3年】面接指導「ライオンズクラブによる面接指導」

2月 【2年】立志式「講演」

【1年】環境教育「高鍋町環境衛生課と連携した環境学習」

以上が主な活動である。1年では「郷土や地域の再発見」、2年では「自分の適性と職業」「働くことの意義」、3年では「高校に向けた心構え」や社会人としての「ビジネスマナー」などを中心に3年間を通して職業的・社会的な自立を目指している。

特に第2学年で行ってきた職場体験学習は、昨年度、新型コロナウイルス感染防止のため、各事業所での実習は行わず、各事業所の方が学校で職業内容を紹介するポスターセッション形式に変更した。職場体験学習に比べて、複数の事業所について学習できることやそれぞれの仕事について生徒が少人数で事業所の方とじっくり意見交換ができるなど非常にメリットが大きいことから、今後の職業体験学習の在り方を見直す機会となった。

また、「働き方改革」の視点から、担当職員の負担を軽減するために、各活動の窓口は教育委員会所属の地域コーディネーターやキャリア教育支援センターのコーディネーターに依頼している。活動は主に「総合的な学習の時間」に全職員で、分担して行っており、活動と合わせて関連の内容を道徳でも取り扱うため、道徳の授業は、学級担任だけではなく、全職員でローテーションで行い、特定の職員に業務が集中しないように工夫している。さらに、活動時間や準備時間を確保するには、生徒や職員にも学校生活にゆとりを持たせることが必要であり、校時程や評価の時期(通知表の配付は前期・後期制)も大きく見直している。

本校ではキャリア教育は学力向上の中核と捉えており、上記の取組は4年目を迎え、全国学力学習状況調査や諸学力テストでは数値に向上が確認されている。総合的な学習の時間が、教科横断的な視点で子どもたちの主体的な学習の場となっており「学びに向かう力・人間性等」の涵養に効果があると今後も期待できる。

【ホームページ】 <http://www.takanabe-career.jp/>

 <宮崎県> (種別：PTA 団体等) 小林市キャリア教育支援センター

 推薦理由

(1) 取組の概要

平成29年5月25日、小林商工会議所内に「小林市キャリア教育支援センター」を設置し、運営業務を委託した。

センター長として就任した藤田英二氏は、富士通でソフトの開発や、開発部門と経営部門の調整に携わってきた経歴の持ち主である。

藤田氏は、これまで市内小・中学校の職場体験学習や社会人講話等、様々な取組をコーディネートするとともに、キャリア教育に関する協力企業の開拓にも尽力されており、キャリア教育コーディネーターとして5年目を迎える。

(2) 具体的説明**① 職場体験学習**

職業を体験する中で、「社会人とは」「仕事の内容とは」「今の仕事に就いた理由」等をインタビューさせ、児童生徒に、自分の生き方を振り返らせるとともに、職業人へのあこがれや、これからの目標をもたせるような授業構成を組み、学校の先生達と連携して取り組んでいる。また、職場体験学習後に生徒同士で伝え合うブレインストーミングを行い、多様な仕事を知ることができるような手立ても講じている。

② 社会人講話 (近未来ハイスクール)

多彩な職種の講師が一堂に会し、各ブースで講師が職業観、人生観を語り、中学生との哲学対話へと展開する。職場体験学習と同様、児童生徒が自分の生き方を振り返り、職業人への憧れや、これからの目標をもつことができるような構成となっている。小林市独自の教科「こすもす科」の中で将来設計を行う単元があり、その単元の中で社会人講話が設定されることが多い。

社会人講話の後には、毎回、社会人講師だけで集まり、「小林のキャリア教育」について語り合うブレインストーミングも実施している。

【ホームページ】 http://toweb.city.kobayashi.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r346RG00001600.html

 <鹿児島県> (種別：学校) 南九州市立大丸小学校

 推薦理由

《研究主題》

- 将来を切り拓く資質を身に付けた児童の育成
～俳句づくりを核としたキャリア教育の推進～

《研究・実践の概要》

- 1 学校の実態・課題に基づき、学校独自の「基礎的・汎用的能力」の策定
(学校のシンボルツリー「いちょう」を合言葉にした具体的な目標設定)
- 2 「基礎的・汎用的能力」の育成を目指した具体的実践事項の設定
(1) 俳句づくり (2) 授業改善 (3) 自校版キャリアパスポートの利活用
- 3 具体的実践内容
 - (1) 俳句づくり
 - ア 俳句集会
 - 日課表への俳句活動の位置付け
 - 俳句ファイル(個人用)の活用による記録の保管
 - イ 俳句づくり
俳句のきまりや選句のポイント、きまり、季語等について学ぶためのワークシートの作成、活用
 - ウ 「俳句コーナー」の設置
 - エ 県立川辺高等学校書道部との連携
 - オ 学校便り・学級通信による俳句紹介
 - カ PTA新聞による俳句の寄稿(保護者・地域住民)

キ 俳句や標語の作品展への積極的な応募

(2) 授業改善

めざす授業像の共有化（育てたい「基礎的・汎用的能力」の位置付け）

(3) 自校版キャリアパスポートの利活用

「大丸キャリアパスポート」の作成及び計画的な利活用

4 今後の計画

(1) 令和元年度～令和2年度鹿児島県教育委員会研究指定校としての実践、

成果を生かした継続的なキャリア教育の推進

(2) 「基礎的・汎用的能力」の育成をねらいとした授業改善（教職員全員による研究授業の実施）

(3) 地域と一体となったキャリア教育の推進

<鹿児島県>（種別：学校）西之表市立種子島中学校

推薦理由

種子島中学校は、令和元・2年度県研究協力校「キャリア教育」の指定を受け、研究主題を「自ら将来の生き方を考え、よりよい未来を創る生徒の育成～『キャリア・パスポート』と『未来とつながる授業』の取組を通して～」と設定し、2050年の種子島・西之表市を支える子供たちが、自ら将来の生き方を考え、よりよい未来を創るための教育実践を行っている。また、校長のリーダーシップの下、特色ある教育活動として、「チーム種子島中学校」で組織的、系統的に取り組んでいる。

○「キャリア・パスポート」の作成・活用

種子島の生徒たちが、未来へ種をまき、種子島の港（ポート）から理想とする未来へ巣立っていくことをイメージし、全職員で検討を重ね、生徒の実態に合った独自のキャリア・パスポート「たねポート～未来への種まき～」を作成した。また、市内の小学校と高等学校が連携した合同研修会を実施し、取組状況について情報交換を行い、小中高をつないだキャリア・パスポートについて研究を行った。

○「未来とつながる授業」の取組

バックキャスト思考を活用することで、生徒が2050年の種子島と自分の未来について、「今、何をすればよいか」を考える取組を行っている。芝浦工業大学やユニクロ等とのオンライン出前授業を通して、2050年に考えられる種子島の課題について解決策を検討するとともに、SDGsの実践に向けて具体的な取組を行っている。

○「職業講話」の取組

自らの将来に対する考えの深まりや多様な職業観を育むために、職種に応じて、種子島で活躍する方々を講師として依頼し、複数の講師から生徒自ら選択することで、職業への興味・関心を高めている。また、講師の誘導や案内、司会等、生徒が主体的に取り組むことで、生徒のコミュニケーション能力や自己有用感を高めている。

○コミュニケーション能力の育成

どの教科の授業においても、生徒が仲間とアイデアを出し合い、課題を解決していくことで、これから必要とする「思考力・判断力・表現力」を育むとともに、ともに支え合う仲間意識を高めている。

<鹿児島県>（種別：学校）鹿児島県立奄美高等学校

推薦理由

【学校概要】

鹿児島県立奄美高等学校は、令和4年度に創立105年を迎える歴史と伝統のある大島地区唯一の専門高校で、機械電気科、商業科、情報処理科、家政科、衛生看護科の5つの学科を有する。

奄美高校がめざす生徒像は、「自ら気づき、考え、判断し、行動する生徒」「多様な他者と協働しながら、何事にも果敢に挑戦する生徒」「お互いの人格を尊重し、自他を大切にする生徒であり、「故郷を想い、地域の発展に貢献できる人材」の育成をめざして教育活動を行っている。特に、生徒にとって、将来の生き方や職業を考える重要なこの時期に、地域の様々な産業や暮らしに触れて、地域の魅力発見や課題解決に取り組む活動や地域で活躍している方々と関わる活動を積極的に推進し、社会で自立して生きていくために必要な能力や態度を育てるこ

とを目指している。

【取組】

- 1 全学科の連携・地域協働による「奄美高校レストラン」
 - ・生徒が奄美の魅力を理解し、郷土愛を深め、将来地域のリーダーとして活躍する人材に成長することを目指し、学科連携及び地域で活躍する方々と協働で企画・運営するレストラン
- 2 各学科が地域と連携して取り組む活動
 - (1) 地元商店街での販売活動「チャレンジショップ」(商業科・情報処理科)
 - ・商業科で身につけた知識や技術を生かし、奄美高校及び全国の高校で企画・開発された魅力ある商品等を仕入れ、発注から在庫管理、販売、帳簿整理まで一連の商業活動を体験的に学習
 - (2) 地元食材を活用した商品開発(商業科・情報処理科)
 - ・地元のパン工房や社会福祉施設、農園や養鶏場などの事業所と連携し、奄美の特産品を生かしたオリジナルのラスクやドーナツなど、様々な商品を開発
 - (3) 龍郷町との協働による地域活性化プラン(商業科・情報処理科)
 - ・龍郷町の現状、課題について分析し、高校生の視点で同町の未来をプレゼンテーション
 - (4) 地域の課題解決「クリエイティブデザイナー」(商業科・情報処理科)
 - ・企業が抱える課題を協働しながら解決する活動(ポスター、ホームページ等の制作)
 - (5) 地域活性化ものづくり(機械電気科)
 - ・イルミネーションで冬の島を照らすプロジェクト～コロナ収束を願って～
 - (6) 家庭科の学びを生かした地域協働の取組(家政科)
 - ・新川こどもまつり「こども食堂」、親子で作る奄美の郷土料理教室、手形鯉のぼり制作等

【成果】

学校全体で取り組む「奄美高校レストラン」では、仲間や地域の大人と協働で企画運営することで、協働力・実践力・調整力・課題解決力が身につくと同時に、生徒たちの中に郷土愛が生まれ、自分たちの力が地域の活性化に役立っているという自信が生まれている。各学科で取り組む地域連携活動においては、子供から大人まで幅広く接する中で、自分たちの創造力や発想力が課題解決に役立っていることを実感し、今後の自分の生き方を考える機会となった。

地域と協働で取り組む活動は、生徒たちのキャリア形成に大きな効果があり、地元への郷土愛を深め、将来、地元で働き、就職し、奄美を支える人材の育成につながると同時に、地域に情報を発信することで、奄美高校を知ってもらう機会となり、生徒募集にもつながると期待している。

<鹿児島県> (種別：PTA 団体等) 指宿市立指宿商業高等学校 P T A

推薦理由

指宿市立指宿商業高等学校 P T A は、「生徒とともに楽しい P T A」をモットーに、P T A が積極的に学校行事に協力し活動している。定期的又は臨時に P T A 理事会を開催し、各学校行事にどのように関わるかを審議し、生徒のキャリア教育形成に多大な成果を上げている。

1 「指商デパート(学校行事)」を通じたキャリア教育支援

毎年11月3日に開催している学校最大の学校行事であり、令和3年度で31回を迎える。5000人規模の来場者があり、売上高も400万円を超える。P T A は、駐車場からのお客様の誘導、ふるまい餅でのお客様のおもてなしを担当して、指商デパートの成功に貢献している。

2 「指宿温泉祭ハンヤ踊り(地域行事)」を通じたキャリア教育支援

毎年9月下旬に実施される指宿市最大の祭りである。本校も生徒と一緒に P T A も参加している。P T A は、踊りの指導、山車の準備や飲料水の差し入れをして、踊り連をサポートしている。

3 キャリア教育支援に関するその他の P T A 活動

(1) 「親子で行う奉仕作業」

毎年8月下旬に行われる体育祭に向けたグラウンド整備中心の作業である。親子で汗を流し、環境美化に努めている。

(2) 「J R 乗車接遇マナー指導」

定期考査時に、9割超のJR通学生の乗車マナー指導にPTAも教員と一緒に乗車して生徒の乗車マナーの指導に協力している。

(3) 「専門高校における組織的なキャリア教育」

インターンシップを重要な柱と位置付けながら、PTA総会での保護者進路説明会を通して、進路決定に役立っている。

(4) 「おやじ（親事）の会の活動」

平成19年度に発足した高校では珍しい組織であり、学校の要望に応え、様々な面で支援があり、研究発表校としての指定も多い。

以上の取組を踏まえて、指宿市立指宿商業高等学校PTAが表彰にふさわしいと考え、推薦するものである。

<沖縄県>（種別：教育委員会）伊江村教育委員会

推薦理由

島内に高校のない伊江村の子どもたちは、高校進学と同時に親元を離れて生活していかなければならない。15歳の「島立ち」を迎えるまでに、子どもたち一人一人が自立し社会の中で生活していく力を育むことは、伊江村の教育の大きな目標であり課題でもあった。

伊江村教育振興基本計画（平成25年3月策定）において、幼児期から段階的な「島立ちに向けたキャリアプラン」が設定され、学校だけでなく家庭や地域、行政が一体となった村ぐるみの取り組みが示された。

本村の現状や課題解決に向け、平成25年度から3年間、県の「みんなでグッジョブ運動」の一環として「地域型就業意識向上支援事業」を活用し、小学6年生を対象に観察型のキャリア教育「沖縄型ジョブシャドウイング」を実施した。また、定期的に地域の代表が集まり、地域の人材育成における課題や改善に向け、意見を交わした。

平成28年度からは一括交付金を活用して伊江村地域連携グッジョブ協議会を発足させ「伊江村型就業意識向上支援事業」を実施した。小学生から中学生まで横断的な地域連携型キャリア教育プログラム（伊江村型キャリア教育）を行った。小学6年生が観察型ジョブシャドウイングで学んできたことを5年生に向け発表の場を設けたり、本島に出向いて地域の特産物を販売するなど、地域の魅力を改めて学び、島外との交流機会を設けた。中学生においては、村内での職場体験のほか、卒業生（高校生）による進路講話、島外から職業人を招いて講話を実施した。

また、村内の各学校においてもキャリア教育を実践し、伊江小学校においては、国立教育政策研究所の教育課程研究指定校として、地域と連動したふるさとキャリア教育「伊江っ子ファームプロジェクト」を2年間実践した。

村教委では島を巣立つまでを想定した「島立ち教育」から、島を巣立った後を意識し、島を背負っていける人材を育成する『島建ち教育』を展開しており、これまでの取り組みは県内に広く紹介できる内容として推薦する。

<沖縄県>（種別：学校）沖縄県宜野座村立松田小学校

松田小学校では、「こちゃまつり」（学習発表会）を25年間続けて開催（令和2年度だけは中止）し、一貫したねらいとして、「1家庭・地域と学校が連携して教育活動を進める開かれた環境づくり」、2地域の伝統文化を見て、触れ、体験し興味・関心が生まれ、それを継承しようとする態度を育成してきた。以上2点の視点を柱として、開催されてきている。

今年度においては、キャリア教育の視点を通して、行政・学校・地域企業・保護者・地域が連携し、「社会に開かれた教育課程」を更に推進している。主体的に「なりたい自分」「できた自分」に向かう意欲・関心を高め児童の地域社会とのつながりの中で、「職業観・勤労観」や「郷土愛」を育み地域に貢献する人材育成のカリキュラムを編成しているのが特徴である。

1 沖縄県本島の宜野座村松田区にある1校1区の在校生138名の小規模学校である。

2 実践の内容

(1) 本校の教育目標の1つである交流する力、思考する力、ねばり強くやり抜く力を育むため、1・2年生は

地域を知り、3年生～6年生は、郷土の伝統文化を取り入れたキャリア教育の実践をおこなう「地域に開かれた教育課程」の実践計画の作成。

- (2) 25年間も地域・保護者・学校・行政が連携して続いている、「こちゃまつり」(学習発表会)の教育活動の継続と実践。
- (3) 「こちゃまつり」(学習発表会)において、3年生は郷土の歌や踊りを学校や公民館を通して、地域の方々を講師として招聘し教師と一緒に児童を指導・助言している。4年生は、25年前から行っているスーマーチ棒(集団での棒術)を地域の方々から演武の指導を受けている。5年生は、全員で行う三線演奏をおこなっている。6年生は、「組踊・本部大主」(縮小版/平成20年度より15年間)を地域の方々から、独特の台詞まわしから体の所作等や当日のメイク、衣裳等を出してもらい演じている。これら郷土の伝統文化実演は、松田区地域の方々から戦前より継承した芸能である。そして、今は2年に一度おこなわれる村の豊年祭の時、奉納される、演武や踊りを縮小させた内容で演目を児童に継承させている。その為、代々地域の方々を中心となり学校に赴き指導してくれている。
- (4) 全員で奏でる三線や他校では演じることができない「組踊・本部大主」を毎年演じることで、より深く伝統文化を理解し地域を愛し、誇りをもつ児童が増加した。
- (5) 6年生によるキャリア教育プログラムによる職場体験等による地域職業観・勤労観の育成。
宜野座村商工観光課が中心となり村内の各小中学校児童・生徒へ職業観・勤労観を育成する為に、本校では、マナー講座や親の職場体験等行う事業に参加し職業観・勤労観を育成している。
- (6) 令和3年度6年生は、県が主催する「組踊等教育普及事業」ワークショップへの参加。実際に、国立組踊劇場で演じている立方の方々から、沖縄の無形文化財組踊の演じ方等の説明や指導を受ける。場所として、宜野座村教育委員会がガラマンホール(村文化センター)を提供予定である。

3 成果

- (1) 毎年、教育計画に活動内容を明示することで、計画的・組織的に行っている。
- (2) 児童が、地域の方から伝統文化を学び続けることで、地元への理解と愛着が深まり、自ら体験することで、主体的によさを知り、誇りを育み伝統文化を継承し地域に貢献しようとする力と「郷土愛」が高まる人材を育てる環境ができています。
- (3) キャリアプランニング能力を育成するために、働くことの意義や社会的役割を一人一人が、主体的に思考することで、多様性への理解や「なりたい自分」「未来の自分」へ挑戦し続ける力が生まれ、夢や目標に前向きに教育活動を実践している。

<仙台市> (種別：学校) 仙台市立通町小学校

推薦理由

通町小学校では、児童が人と関わりを大切にしながら望ましい勤労観・職業観や、自立する力を身に付け、社会人としてより充実した生き方を切り拓くことができることを目指し、小・中連携や各教科等との関連を図りながら発達の段階に応じた仙台版キャリア教育(仙台自分づくり教育)を、地域と連携しながら組織的・系統的に推進している。

特に、3学年では、総合的な学習の時間において「おいしさ発見通町」というテーマのもと、地域に古くからある味噌醤油店の協力を得て「仙台味噌」に関する探究活動を行っている。活動を通して児童は、地域の様々な人々との関わり、自己の生き方や将来の夢を考えるきっかけになっている。

また、5学年では、4学年で話し合った「将来の夢」を踏まえ、総合的な学習の時間において「11歳のハローワーク」というテーマのもとに職業について調べ、実際に「弟子入り体験(小学生の職場体験活動)」に取り組んでいる。体験に当たっては、地域の約20事業所からの協力を長年にわたって得ており、地域との連携・支援体制は充実している。

これらの特色ある取組が実現している要因には、「自分づくり教育」の全体計画や年間指導計画において、中学校区で育てたい力や発達の段階、各教科等との関連を具体的に明記し、教職員で共有しやすく、一丸となって取り組むことができるように緻密に作成していることもあげられる。さらに、各学年・学級では、児童のキャリア発達における課題に応じて、必要な資質、能力をはぐくむための本市独自の学習プログラム「たくましく生きる力育成プログラム」を活用できるようにするなど、弾力的な体制もあることが教員の主体性や創意工夫を引き出

し、活性化へとつながっている。

令和元年8月2日に行った「第4回仙台自分づくり教育アワード」では、中学校区で共同し実践事例発表会を行い、自校の取組を市内の学校、市民に広報している。仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」を積極的に推進しており、キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA 団体等文部科学大臣表彰に推薦する。

<仙台市> (種別：学校) 仙台市立秋保中学校

推薦理由

秋保中学校では、「笑顔で元気に社会に出て活躍できる生徒の育成」を目指し、その達成に向けてはキャリア教育の充実が重要であるとし、地域と連携しながら長年にわたって、地域の特色を生かした「そば打ち体験(全学年実施)」や「職場体験活動(第2学年実施)」などに積極的に取り組んでいる。その際、当日の体験だけでなく、事前・事後の学習や各教科等との関連付けを図り、小中連携の視点を踏まえ9年間の育ちを見通した指導を行っている。

平成30年度からは、地域の事業所40か所以上の協力を得て夏休み期間に「キャリアインターンシップ(夏の職場体験)」の実施を始めた。キャリアインターンシップは、全学年で実施しており、生徒自ら事業所に連絡をとって体験先を確保し、活動計画書を作成した上で体験に臨ませるものである。生徒は体験を通して、仕事の内容や働くことの意義を感じ、自己の将来の生き方を考え、地域を大切にしながら将来の夢や目標を持つ機会となっている。体験後には、毎年度、発表会を設定し、生徒は3年間の積み重ねにより表現する力を磨いている。

令和元年度には、文部科学省委託事業の「小・中学校等における起業体験推進事業」の指定校として、事業団体と連携を図り、生徒は地元事業団体の講話や指導助言を受けながら、地域活性化策として地元産品の卵やそば、牛乳、米を使ったスイーツなどの商品開発を行った。商品開発に当たっては、地元だけではなく、令和元年に発生した台風19号により甚大な被害を受けた丸森町に目を向け、復興に協力したいという生徒自身の熱い思いを引き出し、形にするといった過程を大事に取り組んだ。生徒にとつては、広い視野を持ち社会に貢献する原体験となり、大変意義深いものであった。

秋保中学校の職場体験・起業体験の取組は、十分に他校や事業所の参考となるもので、本市教育委員会で発行している「職場体験活動ブックレット」で実践事例を掲載し、市内の学校、市民に広報している。

以上のとおり、秋保中学校は、本市のキャリア教育「仙台自分づくり教育」を積極的に推進しており、キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA 団体等文部科学大臣表彰に推薦をする。

<川崎市> (種別：学校) 川崎市立南生田中学校

推薦理由

川崎市立南生田中学校では、川崎市版キャリア教育である「キャリア在り方生き方教育」と「SDGs」の親和性に着目し、SDGsに自らかかわり解決しようとするカリキュラムを編成し、実践的な授業展開をしている。

平成30・31年度は教育課題研究推進校、平成31年度はキャリア在り方生き方教育研究推進校として実績を積み上げてきた。令和2・3年度は、総合的な学習の時間の研究推進校として「よりよい社会を創りあげる豊かな人間の育成を目指した総合的な学習の時間における教育課程の研究～キャリア在り方生き方教育を礎に据えて～」をテーマに研究を進めている。

○環境教育×キャリア教育+SDGs=総合的な学習の時間

様々な課題に対して環境教育やキャリア教育の視点を大切にするとともに、持続可能な開発目標(SDGs)が目指す視点を加え、特色ある学校づくりを目指して、総合的な学習の時間を要とした教育課程の編成に取り組んでいる。

○SDGsに自ら関わり解決しようとするカリキュラム

前半は、有識者によるSDGsに関連する講演会を複数回実施し、人間の在り方生き方の軸をつくる大切な第一歩となる機会を設けている。また、環境問題とSDGsに向き合い、自分たちの将来について考え、地域をフィールドに課題を多角的にとらえる取組を行う。後半は、「キャリア講座学習」を開講し、生活や社会の問題についての理解を深めた。さらに、話し合い活動を通して、自らかかわりをもち解決しようとする態度を身につかせている。

○「小中連携」と「地域とともにある学校」

一小一中といえる中学校区の特徴を生かし、9年間の学びを通して、生徒自身がキャリアを重ねていく教育課程の構築を目指している。コミュニティ・スクールとしての指定も受け、地域や保護者の協力も得ながら、地域の「人財」を生かし「社会に開かれた教育課程」の実現に向け取り組んでいる。

組織的・系統的にキャリア教育に取り組み、成果をあげて市内のキャリア教育の推進を牽引しているため川崎市教育委員会事務局から優良学校として推薦したい。

<川崎市> (種別：学校) 川崎市立幸高等学校

推薦理由

川崎市立幸高等学校は、川崎版キャリア教育である「キャリア在り方生き方教育」の理念のもと、「自分を変える 社会を変える」をテーマに、普通科・ビジネス教養科両科とも課題解決型学習に取り組み、生徒が自ら課題を見つけ、さらに自ら解決することができる力を育成している。生徒は、主体的に学ぶ姿勢が身に付き将来の進路が明確になることで、自信をもって取り組むことができるようになってきている。

【普通科】

「幸探究」～区役所等と連携した課題解決型探究学習～

総合的な探究の時間「幸探究」における3年間の学びの中で、自分のこと、身の周りや地域・学校・社会に関わることなどをテーマに、自分自身で課題を見つけ、その結論や解決方法を求めて探究活動を行っている。1年生：スキル学習／2年生：地域探究・自己探究／3年生：近未来探究・主権者探究と学びを深めていく。「地域探究」では、「若い世代が地域の活性化のためにできること」「幸区の魅力を若年層に効果的に発信する方法」といった課題を探究し小学校の校庭解放イベントを企画し、幸区に採用されたり、SNSを活用した情報発信の必要性を提案し、区の魅力を発信したりと、実践に結び付けて取り組んでいる。

【ビジネス教養科】

PBLプログラム「沖縄をもっと元気に」と「インターンシップ」

沖縄県立浦添商業高校から提案されたテーマをもとに探究学習に取り組み、沖縄の活性化に向けて提案をした。新型コロナウイルス感染症の影響で、直接学校を訪問して提案することはできなかったが、オンラインで討論する等、自分たちの体験や調査だけではない、様々な視点から解決に向けた提案・発表を行うことができた。また、川崎市内の事業所等におけるインターンシップを実施している。手で触れ、肌で感じるリアルな感覚を大切にしたい現場での体験を重視し、専門学科の学びが社会につながることを意識して取り組んでいる。

組織的・系統的にキャリア教育に取り組み、成果をあげて市内のキャリア教育の推進を牽引しているため川崎市教育委員会事務局から優良学校として推薦したい。

<浜松市> (種別：学校) 浜松市立三方原小学校

推薦理由

本推薦校は、令和元年度から学校教育目標が目指す知・徳・体のバランスのとれた子供の育成に向け、キャリア教育を学校の教育活動の核に位置付け、意図的・計画的に子供の基礎的・汎用的能力を育てている。特に教科学習や教科外活動をとおして、子供が将来の職業や生活において、自立して生きていくために必要な力を育成するとともに、学びが自分の将来の職業や生活につながっていることを子供に実感させることに主眼をおいた教育活動を展開している。

1 基礎的・汎用的能力を育成するための検証改善

PDCAサイクルに基づき、日頃の子供の授業や生活の様子、子供・教職員・保護者を対象としたアンケート結果等から子供の課題を基にした「キャリア教育で育てたい力」を設定し、その力を育成するための計画を立て、実行し、点検・評価、改善を図っている。

2 地域・産業界との連携・協力

(1) 1年生(生活科の学習)

「昔の遊びを調べる」という課題について、地域のシニアクラブの方や保護者から、あやとりやけん玉、こま回し等の昔の遊びを教えていただき、解決することをとおして、主に課題対応能力を育んだ。

(2) 2年生 (生活科の学習)

住んでいる町や商店街等の様子についてまとめ、発表することをとおして、主に人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力を育んだ。

(3) 3年生 (社会科と総合的な学習の時間)

地域の農家に出向き、ジャガイモやチンゲンサイの生産について調べた。また、JAとびあ浜松の方にジャガイモの育て方を教えていただき、お借りした地域の畑や校内でジャガイモを育てた。さらに、育てたジャガイモをファーマーズマーケットで模擬店を出店し、販売することをとおして主に人間関係形成・社会形成能力やキャリアプランニング能力を育んだ。

(4) 4年生 (総合的な学習の時間)

体の不自由な方 (様々な立場の人) やお年寄りのことを知る学習 (アイマスク体験や車いす体験、手話、お年寄りの認知症講座、地域のシニアクラブの方々との交流等) をとおして、主に、人間関係形成・社会形成能力や課題対応能力を育んだ。

(5) 5年生 (総合的な学習の時間)

地域の魅力を探るため、自分が調べたい場所を訪れたり、インターネットや資料等を基に調べたりする活動とおして、主に、課題対応能力や人間関係形成・社会形成能力、キャリアプランニング能力を育んだ。

(6) 6年生 (総合的な学習の時間)

地域の主な産業や自分が将来就きたい仕事について、地域の方や保護者から話を聞いたり、インターネットや資料等を基に調べたりする活動とおして、主にキャリアプランニング能力や課題対応能力、人間関係形成・社会形成能力を育んだ。

以上のように、本推薦校は、子供の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育むために、組織的・系統的にキャリア教育を展開していることから、ここに推薦する。

<大阪市> (種別：学校) 大阪市立西高等学校

推薦理由

1 <概要>

当校の流通経済科は、近隣商店街の活性化のため平成26年度から販売実習ならびに空き店舗シャッターアートプロジェクトを実施してきた。コロナ禍で地域の祭りやイベントが中止される中で、人と地域との関わりが希薄化する課題について、感染症対策を講じて地域の活性化と子どもたちのコミュニケーションの場を設けることを目的に、3年生78名が「広告と販売促進」の授業内で、これまで学習した「マーケティング」・「簿記」の知識を活用し、企業及び地域と連携し課題解決型のイベントを企画し実施している。

2 <具体的な取組>

【NISHI RYU2 KEIZAI PROJECT】

創立100年を迎えた当校は、高校再編整備に伴って、令和4年度に新校(桜和高等学校)の校舎へと学びの拠点が移動する。平成26年度から地元企業ならびに自治体と連携し、地域の課題解決に取り組んでおり、本年流通経済科最後の生徒が大阪万博2025を見据え周辺地域の活性化を行う、3つのプロジェクトを実施する。卒業後に学校跡地の地域に戻り、引き続き地域の活性化を行う人材育成に取り組む。

プロジェクト①：NISHI. H. S 100th anniversary

プロジェクト②：KUJYO Enliven shopping street

プロジェクト③：HORIE Community building

【けしゴム祭り in 土佐公園 けしゴムビレッジ～やなこと消して、夢中になろう～】

当校は、大規模イベント等の企画運営を行った経験がないため、まずは地域を巻き込んだ取組みを実施し、PDCAを経て、上記の【NISHI RYU2 KEIZAI PROJECT】の企画立案につなげていく。

(1)協働団体：株式会社シード、大阪市立堀江小学校、あけぼのほりえこども園

(2)開催場所：土佐公園

(3)開催日時：令和3年7月19日(月)～20日(火)

(4)企画内容：

- ・『消しゴムの新しい魅力を見つけよう』

「消しゴムで文字を消す」から「消しゴムで文字を見つける」という新しい思考をもつ。

- ・『コミュニケーションの場を作る』
初めて出会った子どもたちが祭りを通して交流を深め、帰宅後家族と今日の思い出話をする。
- ・『オリジナル消しゴムを宝物にしよう!』
オリジナル消しゴムを作成し、モノを大切に作る気持ちを芽生えさせる。
- ・『水遊び×射的で涼もう!』
水鉄砲を使って、金魚すくい用のポイを的にして射的ゲームをする。
- ・『運動会などの行事が無くなった悔しさを「消す」』
コロナ禍で運動会などがなくなった子どもたちが、ミニ運動会を通しておもいきり楽しむ。

(5)成果と課題

イベント開催に向けた戦略会議にて、コンセプトならびに収支計画、そしてターゲットへの広告方法について何度も議論を重ねてきたことで、目標を上回る集客と利益を達成できている。お菓子や雑貨を取り扱う販売実習ではなく、文房具をテーマに設定したことで事前の商品分析と活用した企画の熟考が必要となり、あらゆる媒体を活用した情報収集を行うことができている。しかし、予想を上回る集客があったことで、景品が不足しイベント途中で買い出しに行く生徒がでるなど、自らの意思決定について振り返り、分析を行うことで【NISHI RYU2 KEIZAI PROJECT】の取り組みに向けて活かすことができると考えられる。

<岡山市> (種別：学校) 岡山市立竜操中学校

推薦理由

職場体験に代わる学習として、自分たちが調べた職業を校内で発表・体験する「竜操 STUDENTS トライやる (RST)」を実施した。生徒は、架空銀行が発行した独自通貨を使用し、発表や体験に対して通貨を支払った。また、ステージ発表などを通して収入を得たり、納税したりするといった疑似体験を通して、働くことの意義や経済の仕組みについて学んだ。

【事業の成果等】

発表会当日は、ステージ発表、模擬店での接客や販売、租税教室や模擬授業の開催等、グループごとに準備をしてきた成果を発表しあうことができた。

銀行に借入れをしたり、収入に応じて納税をしたりする経験を通して、働くことの意義と経営を成り立たせることの両立の難しさに気付くことができた。

事後学習として、社会科では、各ブースの売り上げ額や納税額、利益率をグラフにして分析を行い、経済の仕組みについて学ぶことができ、理科では、科学者の仕事について調べた生徒たちが代表して実験を行い、発表することができるなど、本事業がイベントに終わることなく、持続的な学習となった。

本事業に向けて、様々な教科の教員が教科等横断的な視点を大切にして授業を行うことができた。また、生徒は様々な学習と職業のつながりを考え、社会に出た時に必要になる知識や技能を身に付けようとする意識・意欲が高まった。

【子どもの反応】(生徒の振り返りシートより抜粋)

RST で感じたことは、何かをゼロから完成させることの大変さです。しかも、自分のやりたい事ではなく、お客の要望に応えるものにするために、たくさんの時間がかかりました。でも、そんな中で一緒に考えてくれる仲間やチームワークの大切さにも気付くことができました。

【保護者・地域の反応】

職場体験学習が中止になったことは残念であるが、生徒のために、それに代わる学習活動を取り入れてもらったことは非常にありがたかった。コロナが収まった際には、今まで以上に積極的にキャリア教育に協力していこうと思っている。

【今後へ向けての課題】

発表当日は、ステージ発表や模擬店等すべて、生徒同士の関わりのみだったため、実際の職場体験と比べると、社会との関わりという面が希薄であった。解決策としては、この学習の趣旨を地域に広報し、地域の方にお客の立場として来校してもらえようような場を設けることができれば、より社会との関わりを実感したり体験したりできる学習になることが期待できる。その在り方について、今後とも研究を続けていきたい。

 <熊本市> (種別：学校) 熊本市立城西小学校

 推薦理由

城西小学校では「未来に向かって、笑顔あふれる子どもの育成～特別活動を要とするキャリア教育の具体的な取組を通して～」というテーマで研究を進めている。「『なりたい自分』を目指し、意欲的に取り組む子ども」を目指す子ども像として、特別活動を要としたキャリア教育の具体的な取組の充実を図っている。

【授業実践】

- 子どもに身に付けさせたい力として、「じょうせい」の頭文字をもとに、「じぶんの地域を愛する力」「よく考え、調べる力」「うまく思いを伝える力」「生活に生かす力」「意欲的に取り組む力」と設定した。これらはキャリア教育の目指す4つの基礎的・汎用的能力と関連付けている。同時に、校区に関連するものを使ってアイコンを作成し、授業でも活用するようにした。
- キャリアパスポートによる中長期的な目標設定と振り返りとチャレンジシートによる短期的な目標設定と振り返りを行い、子ども自身が伸びや変容に気付けるようにした。

【異学年交流】

- 「いきいきタイム」と名付けた縦割り班活動を行っている。6年生のリーダーシップを育てること、異学年の子どもたちが仲良くなることを目的に、遊びを中心に月に1、2回、朝の15分間で活動してきた。
- 児童会では、学校生活がよりよいものになるように全児童による活動を企画、運営している。例えば、「コロナの壁をこえろ～笑顔100倍集会をしよう～」という議題で、代表委員会で話し合い、全員遊びを企画した。
- 「城西フェスティバル」という、異学年や同学年との交流を図ることを目的にした児童会の活動を行っている。学級ごとに自分たちが出すお店の内容や来る人が楽しめる工夫を考えて出店している。

【他校種・産業界との連携】

- 3年生は彦根市立の城西小とオンラインで交流を行った。
 - 4年生は熊本かがやきの森支援学校の開校以来、交流を続けている。
 - 6年生は地域の福祉施設で職場体験を行ったり、「メルカリ」と提携したプロジェクト学習を行ったりした。
 - 特別支援学級は近隣の千原台高校の文化祭で「さくらや」を出店し、事前事後も含めた高校生との交流学習を行っている。
-

 <熊本市> (種別：学校) 熊本市立北部中学校

 推薦理由

学校教育では、21世紀を生き抜く子どもたちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有・連携し、生徒が学習内容を自己の将来と結びつけながら興味・関心を持って主体的に学び、社会的・職業的自立ができる力をつけていくための授業改善の取組を図っていく必要がある。

そこで、北部中学校では、「人とつながる 社会とつながる 未来とつながる ESD」を学校教育目標に掲げ、ESDを軸としたカリキュラムマネジメントやキャリア教育の視点に立った授業の工夫・改善に取り組むことによって、21世紀型能力（基礎的・汎用的能力）を身に付けさせ、生徒一人一人が人や社会とつながりながら、主体的・協働的に学び、未来を切り拓く課題解決力を持った生徒を育む教育実践をしている。

【具体的な取り組み】

- (1) 総合的な学習の時間を軸に、特別活動、各教科・領域を ESD の視点で意図的に結び付けた横断的な教育実践(カリキュラムマネジメント)
 - ① 本校で育む7つの力の設定、②「ESD学びの地図」の作成、③総合的な学習の時間「北部SDGs」の開設
- (2) キャリア教育の資質・能力の育成に視点を置いた授業の工夫・改善

授業づくりの4つの視点 ①効果的なICT機器の活用、②対話を取り入れた授業、③NIEの活用、④エキスパート人材の活用
- (3) 教育エコシステムの構築（地域・企業等との連携による課題探究学習）
 - ①1年総合（熊本へ修学旅行を誘致しよう！）、②2年総合（中学生が伝えるSDGs～SDGsを地域へ広げよう！～）、③3年総合（「Future creators～未来創造者～」※Yahoo・メルカリと連携した授業）
- (4) 妥当性・信頼性のある評価の工夫

- ①生徒の変容を見取るための学校独自の ESD 自己評価シートの作成、②ベネッセ GPS-Academic 評価の活用、
③ESD×キャリア「ルーブリック評価」の作成、④キャリアパスポート「学びの軌跡」の作成・活用

北部中学校の取り組みは、特別活動を要として各教科等の特質に応じたキャリア教育の充実を図る特色ある活動として評価できる。